

公益財団法人日本サッカー協会 機関誌

# JFA news

特集

## スポーツの楽しさを守る

8 NO.472  
2023  
月刊 情報号



田嶋幸三 JFA 会長  
鼎談: リスペクト溢れる明るい未来のために  
サッカーファミリーの取り組み〜リスペクトアウォーズ2022より  
記者コラム: スポーツ界の現状をどう見るか



# アディダスの学割



学生なら、いつでも  
何度でも10%OFF

© 2023 adidas AG

中学、高校、大学、大学院、専門学校の学生と教職員であれば  
いつでも何度でも10% OFFに。  
ライフスタイルでも部活でも、アディダスを手に入れよう。



## 学生・教職員割引概要

### 対象

日本国内の中学、高校、大学、大学院、専門学校の学生と教職員

### 期間

申請時から、毎年3月31日23:59まで。新年度(4月1日 0:00)に情報をリセット致します。新年度より引き続き学生・教職員割を申請したい人は、再度申請をしてください。

### オファー内容

アディダス オンラインショップにて、商品が表示価格より10%OFF(一部適用されない商品がございます。また、その他期間限定割引セールとの併用はできません。)上限はおひとり様、年間税込み55万円までとなります。

## 特集

# スポーツの 楽しさを守る



JFAは社会課題解決に向けた活動「アスパス」に取り組んでいます。これは「地球(earth)の未来(明日)のために私たち(us)がつなぐパス」の意を込めた造語でサッカーファミリーが世代や時代を超えて「パスを繋いでいく」という強い決意を表現しています。

## JFAの理念

サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。

## JFAのビジョン

サッカーの普及に努め、スポーツをより身近にすることで、人々が幸せになれる環境を作り上げる。

サッカーの強化に努め、日本代表が世界で活躍することで、人々に勇気と希望と感動を与える。

常にフェアプレーの精神を持ち、国内の、さらには世界の人々と友好を深め、国際社会に貢献する。

## JFAのバリュー

**エンジョイ**◎スポーツの楽しさと喜びを原点とすること  
**プレーヤーズファースト**◎選手にとっての最善を考えること  
**フェア**◎オープンかつ誠実な姿勢で公正を貫くこと  
**チャレンジ**◎成長への高い志と情熱で挑戦を続けること  
**リスペクト**◎関わりのあるすべてを大切に思うこと

## CONTENTS

004 **田嶋幸三** JFA会長

007 **鼎談：リスペクト溢れる明るい未来のために**

今井純子 JFAリスペクト・フェアプレー委員長 × 山岸佐知子 JFAリスペクト・フェアプレー副委員長  
× 北野孝一 JFA技術委員会指導者養成部会(石川県サッカー協会常務理事)

013 **サッカーファミリーの取り組み～リスペクトアウォーズ2022より  
ブラボーナチャレンジサッカースクール(鳥取県)  
関西サッカー協会審判委員会育成部**

015 **記者コラム：スポーツ界の現状をどう見るか**

016 **JFAが取り組むリスペクトの推進**

## 日本代表

056 **U-17日本代表**

AFC U17アジアカップタイ2023 大会レポート  
森山佳郎U-17日本代表監督インタビュー

060 **なでしこジャパン**

MS&ADカップ2023 vs パナマ女子代表  
FIFA女子ワールドカップオーストラリア&ニュージーランド2023関連情報

## REPORT

050 **JFAユニクロサッカーキッズinベトナム**

## 特別企画

052 **山本昌邦JFAナショナルチームダイレクター インタビュー**

## 連載

017 **いつも心にリスペクト**

大住良之  
「まず自らを省みる」

018 隔月連載 **フットサル語り場**

高橋優介JFAフットサルフィジカル  
フィットネスプロジェクトリーダー  
「選手と指導者の意識を少しずつ変える」

019 隔月連載 **サッカー心育論**

中山雅雄  
「暑さの中で、スポーツを考える」

020 **日本全国FAコーチ巡り**

岡山県サッカー協会  
「それぞれのリソースや強み、  
足りない部分を補えばより大きな力となる」

023 隔月連載 **日本サッカータイムスリップ**

「Jリーグの歩み(2)～日本サッカーへの刺激」

024 JFA情報発信局

026 月刊レポート

032 蹴球通信

037 会議レポート

043 データボックス

064 次回予告

※本誌の記事・写真・図表などの無断転用を禁じます。  
表紙・目次および本誌内のクレジットの記載のない写真：  
©JFA、©JFA/PR、©J.LEAGUE、©WE LEAGUE、  
©F.LEAGUE、©Walnix



dunhill





特集 スポーツの楽しさを守る

# みんなで大切にしたいこと あなたが大切にしていくこと



誰もがスポーツを楽しめる環境をつくること。それが日本にスポーツを文化として根付かせることにつながっていく。サッカー、スポーツをより魅力的なものにするためにわれわれが大切にすべきこととは何か。サッカー界から発信できることは何か。9月に迎えるJFAリスペクトフェアプレイズをより充実した時間にするため、今号ではリスペクトについて考える。



特集・スポーツの楽しさを守る

## 田嶋幸三 JFA 会長

## 日本に文化として根付いているリスペクト、それは誇るべきもの

日本サッカー協会（JFA）は2009年、Jリーグと共にリスペクトプロジェクトをスタートさせた。

ワーキンググループのリーダーを務めていた田嶋幸三会長に、「リスペクト」への思いやその重要性について聞いた。

取材日：2023年7月12日

## フェアプレーの原点

## 「大切に思うこと」

—2008年12月にリスペクトプログラムを推進するワーキンググループが発足し、田嶋会長はそのリーダーを務められました（当時はJFA専務理事）。ワーキンググループを立ち上げた経緯や当時の思いなどをお聞かせください。

**田嶋** JFAは昔からフェアプレーの重要性を説いていました。そんな中で1988年、国際サッカー連盟（FIFA）が加盟協会／連盟にフェアプレー・キャンペーンを展開するよう呼びかけたんで

す。その背景には、80、90年代にヨーロッパではフーリガンによる暴動が発生するなど社会的な問題があり、FIFAは試合を含めたあらゆる面でフェアであることの必要性を訴え、それを世界に浸透させることを求めました。そして、JFAも89年からフェアプレー・キャンペーンを実施するなど、より大々的に、具体的に取り組むようになりました。

95年には、JFA主催の全国大会にフェアプレー賞を設置することを決定し、98年には「JFAサッカー行動規範」を策定します。これは浅見俊雄先生（当時はJFA理事）らが中心となり、サッカーの価値を高

めるため、関わる全ての人が順守すべきことをまとめたものです。そうやって日本代表をはじめ、育成年代のサッカー活動で、フェアプレーの重要性を訴え続けてきました。

2001年のフットボールカンファレンスでは、UEFA（ヨーロッパサッカー連盟）のテクニカルダイレクターをされていたアンディ・ロクスブルグさん（現、AFCテクニカルダイレクター）が、フィンランドの取り組み事例として「グリーンカード」を紹介してくださった。それまでのわれわれは、「ファウルをしてはいけない」「レッドカードをもらうようなこととしてはいけない」な





FIFA女子ワールドカップオーストラリア&ニュージーランド2023に出場したなでしこジャパンが使った後のロッカールーム。ホワイトボードには感謝のメッセージ

ど、禁止事項を羅列する傾向にあったのですが、グリーンカードでもっと褒めよう、というポジティブな提案にとっても大きな気づきを与えられました。例えば、家庭で子どもが片付けをしたら親御さんがグリーンカードを出して褒めるなど、ピッチの外でも正しい行いをしっかりと認めてあげること、子どもはそれが正しい行為だったと気づき、続けるようになるでしょう。

「RESPECT」という言葉を最初に用いたのも、イングリッシュをはじめとするヨーロッパ各国でした。UEFAが大々的にRESPECTを推進するようになり、FIFAもその言葉を使うようになった。今では当たり前に使われるようになりましたが、当時は

「そうして翌09年7月、リスペクトプロジェクトがスタートしました。」  
田嶋 リスペクトを日本に浸透させるには、日本語にした方がいいのではないかとこの声がありました。リスペクトは英語の辞書を引くと、法律を順守する、規範を守る、相手を尊敬する、尊重するなど、1ペー지를埋めるくらいにいろいろな意味が出てきます。これをもっとかみ砕いて分かりやすい言葉にできないだろうかと考えたとき、競技規則を守ることはサッカーそのものを大切にすることであり、相手を尊重すること、物を大事に使うことはそれを大切にすることなんだと。そうやって「大切に思うこと」が、リス

「そこまで浸透していなかったと思います。フェアプレーはどちらかというとピッチ上で起こること、つまりプレーに対して使う意味合いが強いのですが、リスペクトは全てが対象になります。サッカーで言えば、競技規則を守ること、そうして、対戦相手や審判員、家族やサポーターなど応援してくれる人々、大会の運営に携わる人々、サッカー用具、施設や環境などの全てです。このリスペクトを日本に広めようと、JFAとJリーグでワーキンググループを立ち上げました。」

「リスペクトプロジェクトが発足して今年で15年になります。リスペクト「大切に思うこと」は、日本サッカーに浸透しているでしょうか。」  
田嶋 間違いなく浸透していると思います。代表選手やトップリーグでプレーする選手のコメントなどを聞いても、今では「リスペクト」や「感謝」という言葉が当たり前に使われるようになりました。サッカーに限らず、日常でもよく使われていますよね。その言葉の意味も、広く皆さんに理解されつつあると感じます。

「リスペクトプロジェクトが発足して今年で15年になります。リスペクト「大切に思うこと」は、日本サッカーに浸透しているでしょうか。」  
田嶋 間違いなく浸透していると思います。代表選手やトップリーグでプレーする選手のコメントなどを聞いても、今では「リスペクト」や「感謝」という言葉が当たり前に使われるようになりました。サッカーに限らず、日常でもよく使われていますよね。その言葉の意味も、広く皆さんに理解されつつあると感じます。」

日本で培われた伝統は  
世界に誇るべきもの

「FIFAは97年より、9月にFIFAフェアプレーデーを設けてリスペクト・フェアプレーを促進しています。JFAもこれに合わせて毎年9月をリスペクトフェアプレーデイズとしてさまざまな啓発活動を行っています。2011年から毎年実施しているリスペクトシンポジウムもその一つです。」  
田嶋 リスペクト・フェアプレーは、年間を通して常に推進されるべきものではありませんが、強化月間を設けて積極的に発信することで、あらためて理解を深めてもらうきっかけになると思います。われわれJFAが取り組んでいるリスペクトフェアプレーデイズも、ただ口で言うだけではなく、ぜひ行動に移す期間にしてもらいたいですね。例えば、指導者と選手であらためてリスペクトとは何かを考える時間を設けるのもいいでしょう。サッカーファミリーの皆さんには、サッカーができることへの感謝、周りの人への感謝など、自分にとつての「リスペクト」とは何か、について今一度考える期間にってもらいたいと思っています。」

「FIFAは97年より、9月にFIFAフェアプレーデーを設けてリスペクト・フェアプレーを促進しています。JFAもこれに合わせて毎年9月をリスペクトフェアプレーデイズとしてさまざまな啓発活動を行っています。2011年から毎年実施しているリスペクトシンポジウムもその一つです。」  
田嶋 リスペクト・フェアプレーは、年間を通して常に推進されるべきものではありませんが、強化月間を設けて積極的に発信することで、あらためて理解を深めてもらうきっかけになると思います。われわれJFAが取り組んでいるリスペクトフェアプレーデイズも、ただ口で言うだけではなく、ぜひ行動に移す期間にしてもらいたいですね。例えば、指導者と選手であらためてリスペクトとは何かを考える時間を設けるのもいいでしょう。サッカーファミリーの皆さんには、サッカーができることへの感謝、周りの人への感謝など、自分にとつての「リスペクト」とは何か、について今一度考える期間にってもらいたいと思っています。」

「2004年度に導入した「グリーンカード」もJFA全日本U-12サッカー選手権大会をはじめとするU-12年代以下の大会で使用され、浸透してきました。」  
田嶋 グリーンカードを導入した当初は、審判員がどういふときに出せばいいのかわからなかったんですね。それで、良いと思った行いは全て出していいんだと、何枚出してもいいんだということをずっと言ってきました。取り組むうちに審判員も子どもたちの良い部分を探ることが上手になってきて、それと例してグリーンカードの枚数も増えてきた。グリーンカードの意味を観客や親御さんも分かっているの、グリーンカードが出されると会場から拍手が起こる。そうやってみんなで子どもたちのリスペクト、フェアプレーをたたえる環境があることは素晴らしいことですし、これからも大切にしていきたいことです。」

**グリーンカード制度**  
JFAはU-12(4種)年代以下の試合でグリーンカードの積極的活用を奨励し、リスペクト・フェアプレーを広めている。

(グリーンカードが提示される行為)

- ・けがをした選手への思いやり
- ・意図していないファウルプレーの際の謝罪や握手
- ・自己申告(ボールが境界線を出たとき)
- ・問題となる行動を起こしそうな味方選手を制止する行為
- ・警告も退場も受けず、ポジティブな態度を示す

●グリーンカードを読者プレゼント!  
詳細は64ページをご参照ください。

いう考えからたどり着いた言葉です。リスペクトプロジェクトのハンドブックを作成する際も、いろいろな「大切に思うこと」を挙げて一冊にまとめました。

**山岸** 北野さんは小学校教諭をされる中、小学校体育サポーター研修会や指導者研修会(障がい者サッカー)の講師など多方面で活躍されています。リスペクトについて発信される際に気をつけてらっしゃることはありますか。

**北野** まずは自分自身がちゃんと大切にできているだろうか、と常に考えながら向き合っている気がします。子どもに対しても、大人に対しても同じで、こちらから一方的に発信するというよりは、互いの思いを共有しながら進めるという感じでしょうか。そういう意味では、皆さんの意見にこちらが気付かされることも多いです。思いやりや気遣いという部分は、日本人の精神に根付いているような気がします。子どもたちに接しているときもそうした日本人としてのアイデンティティーを感じることがあって、これを大切にしていきたいと、日々感じています。

**山岸** 私も審判研修会などで話

をする際、自分は大丈夫だろうかと省みることがあります。サッカーファミリーの皆さんもリスペクトについて日頃から意識されていると思いますが、自身を振り返る機会を設けることはとても大事ですよ。

**今井** もちろん年間を通じて常にやり続けるべきものですが、まさにリスペクトフェアプレーデイズを、「大切に思うこと」についてあらためて考える機会にしてみたいですね。

日本サッカーはこれまで、アジアや世界の各大会で多くのフェアプレー賞を受賞してきました。銅メダルを獲得した1968年メキシコオリンピックもそうですし、女子では、2011年のFIFA女子ワールドカップ、14年のFIFA U-17女子ワールドカップ、18年のFIFA U-20女子ワールドカップの3大会全てで優勝すると同時にフェアプレー賞を受賞しています。

つまり、強いこととフェアであることはトレードオフの関係ではないということ。これは常に発信していきたいことです。「フェアで強い」を体現していけるのだということを私たち日本サッカー界は証明し続けていくということです

ね。フェアプレー賞は狙って取りにくいものではありません。結果として評価され授与されるものですが、ピッチ上の選手のファウルや警告、退場が少ないといったことだけでなく、フェアプレー賞の基準としてサッカーに向き合うポジティブな姿勢や、審判員への態度、ベンチ、観客の行動等も評価されるのです。例えば、コスタリカで行われた昨年のU-20女子ワールドカップでは、大会が進むにつれて大会の関係者やコスタリカの皆さんが日本チームを愛し、応援してくれるようになりました。決勝でもたくさんのコスタリカの観客が日本を応援してくれました。それがチームの力になりますし、日本のサッカーが世界から認められて一目置かれている大きな要素です。日本はフェアプレー賞のコレクターと揶揄されたこともあったと聞いていますが、それを日本サッカーがしっかりと継承してきた結果です。フェアプレー賞の受賞はとても誇らしく、うれしいことです。

**山岸** 私は昨年のU-17女子ワールドカップにFIFA(国際サッカー連盟)の審判インストラク



FIFAワールドカップカタール2022では、SAMURAI BLUEのきれいなロッカールームが世界で話題になった

ターとして参加したのですが、日本チームが試合をしていたある会場に行ったところ、熱烈的な歓迎を受けました。私はいわゆる日本チームの一員ではなく、FIFAの一員として行っただけですが「よく来てくれた」という感じなんです。歓迎の理由を聞くと「日本のチームは本当に素晴らしい。彼女たちと接しているとにかく気持ちがいいよ」と絶賛してくれるんです。選手たちの行動を見ていると、確かに愛されるような立ち居振る舞いをしている。使った後のロッカールームもとてもきれいに掃除されていて、会場のスタッフの皆さんが「本当に試合後だと思いませんか?」と、驚きながらそれを伝えてくれるんです。スタッフの皆

さんへのリスペクトも感じられて、私はとても誇らしい気持ちになりました。使った後はきれいに返すということも含めて、日本では当たり前に行っていることが海外に行くとも価値のあるものなんだと気付かされます。

### 日本の姿勢は子どもたちに世界に影響をもたらすもの

**今井** 昨年カタールで行われた男子のワールドカップでも、サムライブルー(日本代表)は試合内容だけではなく、森保一監督や選手だけの言動、試合後のロッカールーム、日本サポーターの行いなどが世界から評価されています。宿泊先のホテルのスタッフやチームリエゾ





2011年のFIFA女子ワールドカップ(ドイツ)で初優勝したなでしこジャパンは、同時にフェアプレー賞も受賞。「フェアで強い日本」を証明して見せた。

ンの皆さんからも心から応援して  
いただける存在になっている。そ  
うした行為というのは、単に代表  
チームの約束事としてやっている  
ということではなく、一人一人が子  
どもの頃から指導を受けたチー  
ム、家庭や学校で取り組んできた  
ことの表れであると思います。私  
はいろいろな場面でフェアプレー  
賞の話をする機会があるのです  
が、皆さんには「選手たちが子ども  
の頃から所属してきたチームの皆

さんと共に手にした賞なので、皆  
さんと一緒に喜びを分かち合いた  
い」と必ず伝えていきます。  
**山岸** 小学校でも教わることは  
いろいろあると思いますが、実際  
の教育現場ではどうなのでしょう  
うか。  
**北野** 教育とは別の観点かもし  
れません。もっと広く日本に根付  
いたものがあるのではないかと感  
じています。日本代

表やJリーグの選手  
たちの素晴らしい振  
舞いを見ると、子  
どもたちはそれに触  
発されて握手をし  
て、試合で応援して  
くれている親御さん  
にあいさつしに行っ  
たりするんです。そ  
うした風景はU-12  
年代でもどんどん広  
がっています。  
もう一つ言えるこ  
とは、サッカー界だ  
けでなく、日本のス  
ポーツ界そのものが  
リスベクトの姿を見  
せているということ  
です。メジャーリー  
グの大谷翔平選手

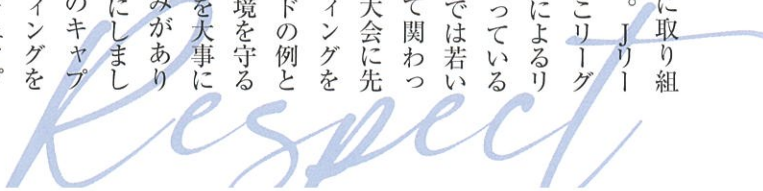
がごみを拾う姿がアメリカで大き  
く話題になったこともそうです  
よね。WBCでも日本チームのベ  
ンチはきれいだと言われていま  
した。日本人の行いにわれわれは  
もっと胸を張ってもいいんじゃない  
かと思います。世界から評価さ  
れると誇らしい気持ちになります  
し、こうした日本独特の文化は子  
どもたちにも伝え続けていきたい  
ことです。  
**山岸** 海外の人たちから見ても、  
私たちが世界大会だからそうい  
う行動をしているのではなく、日  
本のチームはいつもそうだよ、  
それが日本だよ、ねと思われてい  
る。世界に対しても良い影響を与  
えている気がします。  
**北野** 人に対してだけではなく、  
ボールも1個足りなければ探し  
ますし、スパイクも丁寧に磨いて  
次の日の準備をするなど、道具に  
対してもその姿勢は徹底されてい  
ます。日本人のDNAに刷り込ま  
れているんじゃないかと思う部分  
もあります。

小さいビニール袋で給水をするの  
ですが、飲み終えた袋はピッチに  
捨てていきます。ですから試合  
後はビニール袋だらけになるん  
です。ところが、日本のアンダー  
カテゴリー代表がメキシコに遠征し  
た際、試合後に日本の選手たちが  
それを全て拾って、終わってから  
は審判員に「ありがとうございます  
した」とあいさつをして帰ってい  
たそうで、その試合を担当してい  
た審判員の友人が「メキシコでは  
考えられないことだ」と、驚きと感  
動をもって伝えてくれました。そ  
ういった文化が根付いていない国  
の人々からすると心に刺さるもの  
があったんだなど。それもまた誇  
らしく感じた出来事でした。  
次は、昨年のリスベクト・フェア  
プレーに関する取り組みについて  
話していきたいと思えます。今井  
さん、JFA U-18女子サッカー  
ファイナルズ2022では新たな  
試みがありましたね。

■共にリスベクトを考える

育成年代における取り組み  
自らの言葉で発信する大切さ

委員会としても何か特別に取り組  
みたいと考えていました。Jリー  
グ、WEリーグやなでしこリーグ  
等で試合前にキャプテンによるリ  
スベクト宣言をしてもらっている  
のですが、ファイナルズでは若い  
選手たちにも深く考えて関わっ  
てほしいということで、大会に先  
立ってキャプテンミーティングを  
行いました。イングランドの例と  
して、リスベクトある環境を守る  
ためにキャプテンの役割を大事に  
しているという取り組みがあり  
ましたので、それを参考にしまし  
た。参加する4チームのキャプ  
テンとオンラインミーティングを  
し、JFAのリスベクト・フェアプ  
レーについて伝えた上で彼女たち  
と意見を交わしました。選手た  
ちは、まずそういう取り組みにつ  
いて知ることができてよかったと  
いうこと、自分たちでしっかりと  
考えた上で大会に臨みたいと言っ  
てくれました。試合に向けて、チー  
ムのメンバー全員にリスベクト宣  
言を書いてもらい、そのボードを  
試合のコイントスの際に両チーム  
で交換し、リスベクトを誓い合  
いました。その写真には両チーム  
の監督にも入ってもらいました。  
キャプテンにはリスベクト宣言も  
してもらったのですが、選手たち  
は、サンプルとして用意されたも





JFA U-18女子サッカーファイナルズ2022では、大会前にキャプテンズミーティングを実施。写真は両チームのキャプテンによるフェアプレー宣言の様子。試合後の会見では仲間や応援してくれる方への感謝の気持ちが選手から発信された

のではなく、自分で考えた言葉で宣言してくれました。キャプテンミーティングには山岸さんにも参加いただきました。本当に素晴らしいリスペクト宣言でしたね。

**山岸** そうですね。知らない者同士、しかも画面を通してです。最初は緊張感もありましたが、こちらが投げかけることで選手自身が考えるきっかけになるのだ

など強く感じました。ファイナルズだけでなく、その後のU-15やU-18年代の全国大会でも、選手たちにはボードにリスペクト宣言を書いてもらって、初戦で交換した後、会場に掲示しました。掲示された場所を見ると、ボードを真剣に見る人、写真を撮っている人が多くて、声を掛けると皆さんポジティブに「すごくいいよね」と。普段思っていないでも深く考える

機会はなかなかないと思いますし、選手たちも文字にして示すことで自分自身でかみ締めることができたのではないかと思います。

**今井** 選手がより主体的に考え表現するきっかけになりましたね。

**山岸** U-12年代の大会でも選手たちにさまざまな取り組みをされています。

クシヨップをするようになったのは、11年に8人制になった時からでしたよね。試合を担当するユース審判員にもグループワークでサポートに入ってもらって、それも互いを知る上でとても良かったと思います。15年に鹿児島県に移ってからは日程や会場などの関係で同じ形ではできていないのですが、同様の趣旨で選手たちに投げかけることはコロナ禍を経て、現在も続いています。

**山岸** 子どもを通してリスペクトが親にも伝わり、スポーツの素晴らしさが広がっていくような気がします。

「JFA子ども会議」を開催  
もって子どもたちの声を聞こう  
山岸 ちょっとしたことが大切だったりしますからね。「ありがとう」という一言もどれだけ相手をポジティブにするか。北野さんが仰るように、サッカーのフィールドからいろいろなところにリスペクトが広がっていくような絵が見えますし、若い世代に刺激を与えることはとても意味のあることです。21年から22年にかけては、JFA100周年事業の一環として「JFA子ども会議」を開催しました。

**北野** JFA全日本U-12サッカー選手権大会では、選手たちにリスペクトというものを意識づけることを目的にリスペクトワークショップを実施しています。リスペクトのペナントを交換したり、他のチームの選手とグループワークをしたり、会場に選手たちのリスペクト宣言を掲出したり、いろいろなことに取り組む中で試合に臨む選手たちの心の持ちようも変わっていくように見えます。富山県サッカー協会ではコロナ禍前まで小学6年生全員を呼んでリスペクトワークショップをしていましたし、ナショナルトレセンでも取り入れられるようになりました。

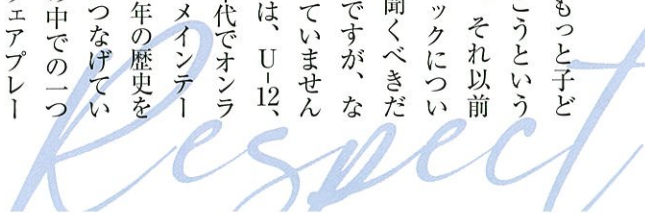
**北野** 選手たちのリスペクト宣言を競技場や会場に掲示しておく、親御さんたちは自分の子どもが何を書いたのか確認しますし、指導者も見ます。言葉にして発信し、共有するということは普段やらないことだからこそ、余計に良いなと思いますよ。子どもたちの行動も、宿で食事を作った人、感謝したり、スリッパをちゃんと並べたり、明らかに変わったいくんですね。大人から子どもへ、子どもから大人へと伝わる一つのリレーみたいなものの中でリスペクト精神は培われていく

**今井** 子ども会議はもって子どもたち自身の声を聞こうという目的で実施しました。それ以前にも、いろいろなトピックについて子どもたちの声を聞くべきだという考えがあったのですが、なかなか具体的にはできていませんでした。子ども会議では、U-12、U-15、U-18の三つの年代でオンライン会議をしました。メインテーマに置いたのは、100年の歴史をリスペクトして将来につなげていこうというものです。その中での一つとして、リスペクト・フェアプレー

**今井** 全日本U-12選手権でワー

でリスペクト精神は培われていく

として、リスペクト・フェアプレー



北野 子どもたちの素直な反応に心が洗われる時間でした。子どもってこんなことを考えているのか、という発見がありました。大人はいろいろと考えてしまおうので、子どもたちの素直で無垢な意見は大切にしなければならぬと思わされました。

山岸 大人は心配事が先に立って構えて考えてしまうことがあります。子どもたちの意見にははつとさせられますね。その声を具現化できたら、子どもたちも自

分たちが発信することで変えられるんだという希望が持てる気がします。われわれは事業を考えるとき、子どもたちの意見にもっともつと耳を傾けるべきなのかもしれません。

北野 大人も子どもたちのために一生懸命に考えてチャレンジし、サポートしていますが、そこに子どもたちの声が反映されているかどうかです。こうした取り組みはどんどんやるべきだと思います。

今井 その通りですね。日常的な会話はもちろんしていると思うのですが、子どもの声を聞いているつもりでも、実はできていないところがたくさんあるのではないかと思います。子どもはこう思っているはず、と大人が思い込んでいても、実は違うということがあるかもしれません。また、子どもたち自身に直接伝えることにも大きな意義がある。子ども会議を踏まえて、先ほども話した女子U-18ファイナルズでのキャプテンミーティングもやるべきだと思います。素直に受け止めるということは、これからもっと意識してやっていった方がいいなと。それを施策や事業の根拠、表現の参考にして

いくべきだと実感しました。

山岸 大事にしていきたいですね。教育現場でも子どもの声を聞くということは重視されているのでしょうか。

北野 子どもたちが自ら学ぶ姿勢や自ら学べる環境を増やしていく動きや、グループワークによる子ども同士の会話から大人が学びを得ようとする動きは広がっています。一方で、先生が子どもの自主性を重んじるばかりに子どもは自分たちで自律できず、難しい学校環境になってしまっている部分もあります。学校での集団生活は互いを尊重することから始まるので、一人一人の個性を大事にすることと相反する部分が出てきてしまう。その難しさを感じている先生は少なくないと思います。学校では道徳の授業もあります。互いをリスペクトするという精神の育み方はサッカー界の方が進んでいるかもしれません。授業で伝えるよりも、サッカーの実体験からの方が子どもたちは整理しやすい、理解しやすいんだと思います。

今井 サッカーというシンプルなゲームですから、より伝えやすい部分はあってもいいですね。

山岸 サッカーやスポーツが持つ力というか、人として学べる部分は多くあると思います。自身の体験を通して学べますから。

北野 サッカーでは味方がいて手がいて、互いにおつかり合って、試合では勝ち負けを経験して、指導者や審判員との関わりから学ぶこともある。そうした経験を基に話をするので理解しやすいんじゃないでしょうか。JFAが誇っていることは、それを体系化してスポーツ界ひいては社会全体に広げようとしていることです。今では、「リスペクト」という言葉を知らない選手や指導者はいないでしょう。日本サッカーの誇りとして、伝統として、これからもわれわれは大事にしていきたいです。JFAにはスポーツ界をけん引する存在であってほしいと思います。

山岸 サッカー界が先陣を切るんだという気概を持ってやっていかなければならないですね。そのためにはJFAの中だけでなく、もっともつと皆さんの身近なところでリスペクトを推進していく必

.....  
子どもの言動は「かがみ」  
ポジティブな働きかけを



JFA子ども会議では、サッカーに関わる子どもたちと日本サッカーの未来について語り合い、リスペクト・フェアプレーについても意見を交わした。最後は全員でリスペクト宣言も

要があると思います。北野さん、指導者の皆さんの意識も変わってきていますか。

いたいですよね。

**北野** 選手にポジティブな働きかけができる指導者が増えていけるのは間違いありません。しかし、今もなお疑問符が付くような指導をする人はいますし、それは親御さんも例外ではありません。だからこそ、われわれはJFAセーフガーディングポリシーとともに、リスペクトをもっと草の根まで広めていかなければならない。リスペクトなんて当たり前だろうと、関わる全員が心から思っ

**今井** 子どもたちの話を聞いてみると、子どもたちは大人をよく見ていますし、よく考えています。子どもは大人の真似をしますから、指導者も保護者も、本当の意味で良いモデルロールになつてほしい。指導者や周りの大人と選手との振る舞いは似ていると、U-12年代の大会を見ているとも思います。だからこそ、リスペクトを欠いたような指導や言動、接し方はやめましょう。日本は常にリスペクト・フェアプレーを重視する国で

**北野** 石川県サッカー協会の女子委員会では、昨年から高校生と

大学生のワーキンググループをつくって女子関連の広報活動に取り組んでいます。高校生や学生の意見を取り入れるという部分は、リスペクトの基本でもあると考えています。子どもが指導者や親の姿を見ているという点においては、サムライブルーの森保監督はまさに指導者の「かがみ」だと私は思っていて、どんな人でも会ったら必ずあいさつをするという部分も含めて、当たり前のことを当たり前前にすることを体現されている方だと思えます。日本代表監督が日本人として誇れる態度、言動をされているのは素晴らしいことですし、指導者が目指すべき姿を示してくれていることはありがたいものです。

### 安心・安全な環境をみんなでつくる

**山岸** 森保監督は高円宮記念JFA夢フィールドによくいらっしやいますが、気さくにあいさつをされてお話を聞いて、それが素晴らしいと思います。でも、それが森保監督にとっては普通のこと

なんですよね。ワールドカップの舞台でも日頃の振る舞いをされているだけなんだろうと思います。

JFAには現在、約3万のチームが登録しています。その一つ一つのチームでリスペクトに関する意識や行動が少し変わるだけでも、大きな変化につながっていくと思います。

**今井** この5月に発表した「暴力・暴言・ハラスメント・差別等の根絶に向けたロードマップ」では、全てのクラブにクラブフェアオフィサー（※）を設置することを掲げました。これはクラブの日常で安心・安全を守っていくためのものです。やはり、日常を変えていくこと、それは日々関わる全て人の役割であると考えることが大切になります。JFAや地域・都道府県サッカー協会だけでなく、全てのチームにこの課題にポジティブに向き合ってほしいと思っています。

**北野** JFAには「サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する」という理念があります。ウエルフェアオフィサーはこの理念を実現するために不可欠な存在です。豊かなスポーツ文化を創造するためにも、日本

サッカーはリスペクトを常に活動の柱において進んでいかなければなりません。

**山岸** 9月に迎えるリスペクトフェアプレーデイズでは、チームとしても、個人としても、大切にしたいことを話し合い、考える時間にしてほしいと思います。それを約3万ある全てのチームで実行できたら、本当に素晴らしいことです。

**今井** サッカーやスポーツのベ

スには「リスペクト」があることを、われわれは忘れてはならないと思います。日本サッカーの伝統であり、大事な文化であるリスペクトが、今後も脈々と受け継がれていけるように日本サッカー界のみならず、働きかけていきたいですね。

※クラブフェアオフィサー・ウエルフェアオフィサーは、リスペクトやフェアプレーを啓発促進し、暴力、差別等の予防活動を通じて、問題を未然に防ぐ。また、顕在化した諸問題に対応、問題解決を図るとともに、問題の内容や重大さによって司法機関や諸関連組織への橋渡しとしての役割を担う。クラブフェアオフィサーは所属クラブにおいてその役割を担う者。

## JFAセーフガーディングポリシー

対象：サッカーにおける全てのサッカーファミリー／ステークホルダー

### 基本原則：

#### ○子どもたちの安心・安全を守る

- ・子どもたちの喜びを広げ、成長を促す環境をつくる
- ・子どもたちに選択肢を与える
- ・子どもたちの声を聞き、対話する
- ・子どもたちの安全・安心を守る
- ・健康や環境リスクに対処する

#### ○ゼロ・トレランス 私たちは許さない

- ・あらゆる暴力・暴言を排除する
- ・あらゆる差別を排除する
- ・あらゆるハラスメントを排除する
- ・あらゆる誹謗中傷を排除する
- ・子ども同士の問題にもアプローチする
- ・サッカー外の問題にも気づく
- ・負の連鎖を断ち切る

#### ○そのためにも

- ・適切な人が子どもたちに関わるよう取り組む
- ・子どもたちを守るためにも、誠実に子どもたちに向き合う大人の安心・安全も守る
- ・起こったことへの対処とともに、予防・教育を重視する
- ・現場をオープンに。リスクの芽に気づき、声を掛け合う、伝え合う文化をつくる

## ブラボーナチャレンジサッカースクール (鳥取県)

# 自分にはないものを探し、認める



「魂に響く仲間」というキャッチフレーズの下に行われている研修会。  
誰もが活発に意見する

選手のパスウェイを含め  
新しいフェーズに

鳥取県のブラボーナチャレンジサッカースクールでは、2021年から興味深い取り組みが行われている。月に一度、誰でも参加できるコーチング研修会を開催し、研修会の後やその合間に参加者たちがソーシャルフットボールのコーチとして、精神障がいのある選手たちと触れ合っているのだ。

このコーチング研修会の旗振り役を務める小林勝年さんは、長年、地域の福祉センターに勤務

し、現在は大学の教授として発達心理学を教えている。学生時代、サッカーをした経験がある小林さんは、研修会が発足した背景を次のように語る。

「ディスカッションをしたり、自分たち主体で体を動かしたりしながら何かを学ぶ。そういう学びの場が必要だと常々感じていました。ソーシャルフットボールの選手にとつては、治療の効果もあります。普段は対人関係を築くことにあまり積極的でなくても、サッカーを通じてみんなが協力し合うようになります」

少人数でスタートした研修会だが、今では医師、建築士、保育士、会社の営業、教師など多様なバックグラウンドを持つ人々が参加している。研修会では「対等な関係とは何か」「個性とは何か」「大人から言われてうれしい言葉」など、毎月議題を設けて徹底的に意見を交わす。

「大人から言われてうれしい言葉」についてディスカッションしたときは、言葉そのものよりも選手をしっかりと観察し、それを言葉にした方が選手に伝わるのではないかとという意見が出た。言葉探しより、選手をよく見るこの方が大事だという結論に至った。

もう一つ、参加者の多くが重要

だと感じたのが、選手の存在を認める、ということだった。一般的なサッカーの試合では選手のパフォーマンスに目が行きがちだが、小林さんは「そうではなく、その選手がいることで何かを分からせてくれるということに気づくのが大事」と指摘する。「われわれの研修会には経営者も参加します。社員を選手に置き換え、『そこにいることを肯定すれば社員の心理的安定につながるという気づきを得ているようです』と小林さん。

選手たちは若く、可能性がある。だからこそ結果だけで判断したり、評価したりしないよう心がけているそうだ。一見すると「ダメなこと」でもダメではないというのがブラボーナの考え方。試合中、積極的にボールを追いかけない選手がいても注意しない。「そこに立っていたことであるい

ろな選手が見えたよね」と選手たちに前向きな声かけをしている。小林さんは、発達障がいのある人たちの研究を続ける中で、一つの側面から見るとハンディキャップを抱えていると思われるがちな障がい者も、ある特定の領域において並外れた能力や研ぎ澄まされ



研修会の後、またはその合間にソーシャルフットボールでコーチングを行っている

れた感覚を持っていることに気が付いた。だからこそ、小林さんをはじめとするブラボーナの指導者は、選手たちに「自分にはないものを探し、それを認めよう。そうすれば自分にはないものを学ぶことができる。それがリスペクトだよ」と伝えている。

現在は精神障がいのあるチームと活動の輪を広げているブラボーナだが、この先は「知的障がい者のチームもつくって盛り上げていきたいと思えます。オープンな場で活動することによって周知を図り、この活動をうねりにしたい」と小林さんは期待する。

## 関西サッカー協会審判委員会育成部 関西サッカー協会U-12/U-14トレセン技術委員会

# 未来の審判員をさらに磨くために

関西サッカー協会（JFA）の審判委員会育成部は2016年以降、同協会技術委員会と連携し、U-14地域トレセンに18歳以下の「ユース審判員」を派遣している。きっかけとなったのは日本サッカー協会（JFA）が行っていた取り組みだ。15年、JFAはフットボールフューチャープログラムトレセン研修会U-12を創設した。以来、同プログラムやナショナルトレセンU-14地域対抗戦でユース審判員の研修も併催し、実践経験を積む場を創出。研修会では、「審判と技術の協調」を議題にディスカッションすることもあった。

滋賀県F.A.の審判委員長で、関西F.A.審判委員会育成部のユース担当を兼務する鳥家浩司さんはこの活動を視察し、「審判員も選手同様、レベルアップしなければならぬ」と刺激を受けた。つてをたどって関西F.A.技術委員会の責任者であるU-14トレセンの土井和則さん、U-12トレセンの富田悟史さんを紹介してもらい、関西のトレセンでもユース審判員を登用できないか掛け合った。技術委員会の反応は前向きだった。



トレセンの試合後はユース審判員とチームの指導者、審判インストラクターでディスカッションを行い、レフェリング向上につなげている

「トレセン活動の際、それまでは掛け持ちで審判員を務めていた指導者が試合とその準備に集中でき、審判サイドはユース審判員に経験の場を設けることができる。Win-winなので『やりましょう』と話が進みました」（鳥家さん）

オペレーションの細部も詰めた。審判員を守るために、トレセンの試合には必ず審判インストラクターが参加。チームが審判員のレフェリングをどう見たか、審判員はどのような意図で判断を下したかを明確にするため、試

合が終わってすぐ、センターサークルの近くに審判員、両チームの指導者（監督またはコーチ）、審判インストラクターが集まり、5分ほど意見交換することにした。

「監督会議などの場で事前に『こういうことをやります。ご協力お願いします』と伝えただ後、トレセン当口にも『今日、試合後に時間をいただけますか？』と了解を得てから試合後の話し合いに臨むため、

いつも前向きな意見交換ができています」と鳥家さんは語る。

「一生懸命で、よく走ってくれる」と、徐々にユース審判員の存在が認知されるようになり、18年以降はU-12関西トレセンにもユース審判員が参加。信頼関係が深まり、22年には新たな試みとして女子のユース審判員にもU-12関西トレセンで笛を吹く機会を提供した。

若い審判員にとって、実践の場は成長を加速させる場になっている。数年前、奈良でU-14地域トレセンに女子のユース審判員が参加し、その試合で審判員として初めて警告を出した。躊躇（ちゅうちゆ）してもおかしくない場面だったが、



昨年6月、U-12地域トレセンにてユース審判員の研修会に参加した面々

その審判員は、試合後に指導者に「あの警告は妥当でしたな」と認められたことで自信を深め、現在は2級ライセンス取得を目指しているという。

とはいえ、鳥家さんはトレセン活動を審判員としての成長だけの場にしてほしくはないようだ。「ユース審判員のみならずにはレフェリングだけして帰るのではなく、自分がトレセン活動で功させるための一人だという自覚を持ち、周囲に手を貸してほしいと常々伝えています」（鳥家さん）。協力してくれる大会やチーム、選手たちへのリスペクトの念を持ち続けながら、ユース審判員の育成に尽力する。

記者コラム **スポーツ界の現状をどう見るか**

# 子どもの意欲を引き出す指導を

文：青柳庸介（読売新聞）

「監督が怒ってはいけない大会」を各地で続ける元バレーボール女子日本代表の益子直美さんは、そのときの驚きと感動を口にするたび、目を輝かせる。

「マグネットボードを使って作戦を立てて、指示をこう出したらいいよって話し合う。ちっちゃな子どもたちが自然に、ですよ。声の掛け合い方が、すごく大人だったんです」

Jリーグのブラウブリッツ秋田などの協力を得て2022年6月、小学生のサッカーチームを集めた「怒ってはいけない大会」を秋田県内で開催した時のこと。2015年からバレーボールで続けてきた「怒ってはいけない大会」を、初めて他競技で実施した大会だった。

「バレーボールって、どんなミスをしてでも『集中しろ』『声を出せ』ってメンタル面を怒られるでしょう？ 本当は技術的な原因が必ずあるのに……。でもサッカーは『もう少しポジション下がった方がいいんじゃないか』って。まずそれが大きな発見でした」

サッカーではおなじみの風景が、益子さんには新鮮だったようだ。



「怒ってはいけない大会」は、子どもたちがスポーツを最大限に楽しむことや、指導者による体

罰や暴言などの根絶を目指している。会場では指導者や保護者を集めたセミナーも開き、益さんは、過去に指導者から罵声を浴び、体罰を繰り返されるうちに、その顔色をうかがいながら指示を遂行するだけに陥ったエピソードを伝える。

「『昭和時代の指導』やスバルタに効果があると信じるのは、自分もそれで鍛えられたと考える『生存者バイアス』です。子どもたちの10年後ではなく、目先の勝利しか見ていない。『怒り』を使わずに、勝利も育成も手にする方法に大人たちもチャレンジしましょう」

子どもがミスをしてでも意欲を引き出す言葉をかける。ルール違反や危険な行為には、「怒る」のではなく冷静に「諭す」——。そんな指導が根付き、「怒ってはいけない大会」

を開催せずに済む社会にするのが、益子さんの目標だ。



2012年12月に桜宮高校（大阪）の男子バスケットボール部員が自殺した事件から10年が過ぎた今も、体罰などの根絶には至っていない。日本スポーツ協会に寄せられる相談は、「精神的なダメージがより大きい」とも言われる暴言の割合が増えている。さまざまな「ハラスメント」を戒める意識が社会全体で高まって、残念ながら「怒ってはいけない大会」は、まだまだ必要とされそうだ。

加えて、国が進める公立中学校の部活動改革で、子どもたちのスポーツ環境が大きく様変わりする。少子化によって学校だけでは部活動が立ちゆかなくなる代わりに、スポーツ団体や行政などが手を携え、地域ぐるみで受け皿を作っ

ていく時代を迎える。子どもたちと接する指導者が増えるため、益子さんのメッセージは、ますます重みを持って受け止められるだろう。

大きな変革だけに懸念や反発もあり、尻込みする声も聞く。しかしスポーツ界が、教員たちの情熱や献身に依存してきた構造を転換し、新たな役目を担えるチャンスでもある。

中学生だけにとどめず、幼児から高齢者まで幅広い世代が活動できる場を増やせれば、部活の「引退」を区切りとせずに生涯、スポーツを楽しめるようになる。トップレベルを志す上級者向けの練習環境も、レクリエーションのように楽しむ場もあっていい。会費負担にふさわしい指導体制を持続していけば、「スポーツ指導は無料」という固定観念はやがて薄れ、コーチ業で生計を立てる道も広がる。

改革が目指す、こうした未来図は、実は「JFA2005年宣言」や「Jリーグ理念」とも相通じる。長期間をかけてさまざまなハードルを乗り越えなければいけない難題だからこそ、サッカー界が全国各地で主導し、他競技からうらやましがられるスポーツ環境を実現させられるのではないだろうか。



選手たちが主体性を持ってプレーすることで、スポーツはより豊かなものになる（写真はJFAバーモントカップ第32回U-12全日本フットサル選手権大会決勝より）

**リスペクト特集**

**RESPECT**  
大切に思うこと

# JFAが取り組む リスペクトの推進



日本サッカー協会（JFA）とJリーグは2008年4月、サッカー界におけるリスペクトの重要性を認識し、「リスペクトプロジェクト」をスタートした。リスペクトの本質は、常に全力を尽くしてプレーすること。それはフェアプレーの原点でもある。JFAは、リスペクトを「大切に思うこと」として、サッカーに関わるすべての人、ものを大切に思う精神を広く浸透させている。その一環として、サッカーやスポーツの現場で顕在化する差別や暴力に断固反対し、差別や暴力のない世界をつくるべく、相談窓口を設置するなどのさまざまな取り組みを行っている。

リスペクト・フェアプレーページはこちら  
<https://www.jfa.jp/respect/>



RESPECT～大切に思うこと～コンセプト映像はこちら  
<https://youtu.be/6xHxgaWhSk8>



## JFAリスペクトフェアプレーデイズ

毎年9月に「JFAリスペクトフェアプレーデイズ」を設定し、さまざまな活動を通して、リスペクト(大切に思うこと)、フェアプレー精神を共有し、差別や暴力に断固反対するメッセージを広く伝えている。また期間中にはリスペクトシンポジウムも開催している。

JFAリスペクトフェアプレーデイズの詳細はこちら  
<https://www.jfa.jp/respect/fairplaydays/>



## JFA サッカーファミリー安全保護宣言

子どもたちが楽しく、安全に、安心してサッカーに打ち込めるよう、JFAは「JFAサッカーファミリー安全保護宣言」を行い、暴力や暴言、ハラスメントのない健全なサッカー環境を実現させていく。

1. サッカーにおける暴力・暴言を根絶します。  
ゼロ・トレランスの実現。
2. 子どもたちをハラスメントから守ります。
3. 子どもたちの健康を守ります。
4. 良い指導者の養成と有資格指導者を適正に配置します。
5. 暑熱環境下等でのサッカー環境を改善します。
6. 年齢・性別・障がい・人種に関係なく、  
サッカーを楽しめる環境を整備します。

JFAサッカーファミリー安全保護宣言の詳細はこちら  
[https://www.jfa.jp/respect/safety\\_protection/](https://www.jfa.jp/respect/safety_protection/)



## 暴力等根絶相談窓口

JFA登録チームにおけるサッカーの活動現場で生じた暴力行為(直接的暴力、暴言、脅迫及び威圧等)に関する通報を受け付ける窓口となる。

暴力等根絶相談窓口はこちら  
[https://www.jfa.jp/violence\\_eradication/](https://www.jfa.jp/violence_eradication/)



## JFAセーフガーディングポリシー

子どもたちがサッカー、スポーツを安心、安全に楽しむ権利とその環境を守るために、指導者をはじめ、サッカーにかかわる全ての人々が順守する指針であり、サッカーファミリーにとってよりどころとなる「JFAセーフガーディングポリシー」を策定した。

JFAセーフガーディングポリシーは、JFAサッカーファミリー安全保護宣言をサッカーの日常の場で体現するために整理したもので、このポリシーに基づいて具体的な取り組みを推し進め、サッカーファミリーへの意識共有を図っている。

JFAセーフガーディングポリシーの詳細はこちら  
[https://www.jfa.jp/respect/safe\\_guarding.html](https://www.jfa.jp/respect/safe_guarding.html)



## リスペクト関連各種データ

リスペクトプロジェクトハンドブックやチラシ、選手のためのハンドブック、子どものサッカーに関わる大人のためのハンドブック「合言葉はPlayers First!!」、サッカーを楽しむ子どもの保護者のためのハンドブック「めざせ!ベストサポーター」など各種冊子・データなどを用意している。

各種データダウンロードはこちら  
<https://www.jfa.jp/respect/download.html>





「試合後のあなたのコメントには逃げがない。敗戦を判定のせいにしてたり天候のせいにしてたりする監督がとて多いのですが」

試合前々日に行われた浦和レッズのマチエイ・スコルジャ監督(51歳)の記者会見で、こんな質問をしたのは、浦和のニュース専門の『レッズプレス』で記事を書く佐藤亮太さん。いつもとても人間的で温かみのある質問をするユニークなジャーナリストです。

通常、監督会見では、チームの調子のこと、次の対戦相手のこと、戦術的なことなどが中心になります。監督の話したことは必ず選手たちが読みます。デリケートな質問に答えるときには、細かな表現にも気を遣わなければなりません。しかし佐藤さんの質問はとて毛色が変わっていました。思わずニコニコりと笑ったスコルジャ監督は、こう答えました。

「私は完璧な人間ではないし、ナーバス(神経質)になるときもあります。正直、判定に不満を感じることも、不運と思うこともあります。AFCチャンピオンズリーグ決勝戦の4日後にJリーグの試合が行われたときには、試合日程をもう1日延ばしてほしかったと考えました。し

## いつも心に

連載 Vol.124

大住良之  
(サッカージャーナリスト)

# リスペクト

RESPECT  
大切に扱うこと

## まず自らを省みる

かき多くの場合、敗戦や悪い内容の試合のあとでまず考えるのは、私自身にどんなミスがあったらうかということ。そして記者の皆さんに向かっても、そうしたことを中心に話します。それが『逃げがない』という感想になるのかもしれない」

ポランド出身のスコルジャ監督は、20年近くになるプロ監督としてのキャリアの大半を祖国のクラブで過ごし、今季浦和の監督に就任するに当たって、「このような美しい文化がある国で仕事ができることをうれしく思っています」と話しています。

スコルジャ監督の話聞いていつも感じるのは、「謙虚さ」という美質です。ポランドのサッカーはワールドカップで3位になったこともあり、日本よりずっと豊かな歴史をもっています。が、そうした欧州の強豪国から来たことを誇るのではなく、へりくだって日本という国に敬意をはらう姿勢には、とても好感がもてました。

今季開幕前から、浦和はほぼ毎週スコルジャ監督の会見をオンラインで開催してきました。しかしこの前週の会見では、スコルジャ監督に代わって同じポランド出身のラファル・ジヤナスコーチが出席し、スコルジャ監督と同様、率直に考えを語りました。

「攻撃の組み立てを指導していません。海外ではコーチたちがメディアと接するのを嫌う監督が少なくないといいますが、翌週、このことを聞かれたスコルジャ監督は、こんな話をしました。

「これはコーチ陣に対する信頼の証しです。私は一緒に仕事をする全てのコーチを信じています。われわれ(ポランド)の文化では、普段の働きの見返りとして、メディアの前に出すということをしします。それは、彼らに対する私のリスペクトを表すことでもあるのです」

ジヤナスコーチによると、分析担当を含めた浦和のコーチ陣は常に自分のアイデアを監督に伝えているそうです。スコルジャ監督からもさまざまな質問が出ます。そしてコーチ陣全員で議論をし、最終的な決断を監督が下すという形になっているそうです。

そうしたプロセスを経て臨む試合が、ときとしてまったく思い通りに進まないこともありま。このスコルジャ監督の会見の2日後、浦和は狙いとする攻

撃が出せず、0-0で引き分けました。

「攻撃面で動きが悪く、私自身にとっても少し驚きました」と、試合後、スコルジャ監督は率直に良いパフォーマンスではなかったことを認めました。その上で原因として口に出したの



は、まさに彼らしい言葉でした。

「もしかしら、この1週間の私の練習の組み立てが悪かったのかもしれない」

周囲をリスペクトし、「謙虚さ」を失わないこの51歳の監督は、これからのサッカー界で大きな業績を残しそうな予感がします。



## 暑熱対策～熱中症の正しい知識と対策を

気温や湿度が高い日の練習や試合では、選手の健康を損ねる原因となる熱中症に対して十分に注意してほしい。6月や7月は暑さに対する身体の慣れが不十分なため、熱中症の発生頻度が高くなるとされている。熱中症は命の危険も伴うことから、初期症状がみられた際は適切な対応が必要になる。本格的な夏を迎える前に、熱中症に関する情報や予防について確認しておきたい。



●「熱中症対策ガイドライン」および「熱中症の応急処置」  
[https://www.jfa.jp/medical/heat\\_measures\\_hydration.html](https://www.jfa.jp/medical/heat_measures_hydration.html)



●サッカーファミリーの心と体の健康のために～熱中症予防編  
(JFAフィジカルフィットネスプロジェクト)  
【動画(約7分)】  
<https://www.youtube.com/watch?v=zJneS1uJQPU>



●熱中症の症状・応急手当について  
(JFAフィジカルフィットネスプロジェクト)  
【動画(約10分)】 <https://youtu.be/h4wCKQGEjYU>



## JFA公式アプリ「JFA Passport」で 審判登録者向けコンテンツの定期配信を開始

審判登録者向けのコンテンツ定期配信を公式アプリ「JFA Passport」で正式にスタート。

審判登録者専用ページ(審判員または審判インストラクター資格保有者のみアクセス可能)ではすでにコンテンツを展開しているが、今後は動画のほか、JFAからのお知らせやアンケート/クイズなどを審判登録者に届け、審判に関わる資料なども同ページ上で展開する予定となっている(フットサル審判コンテンツは9月に本公開予定)。



●「サッカー競技規則2023/24 Web版」をJFA.jpで公開  
「サッカー競技規則2023/24 Web版」は誰でも閲覧可。競技規則の条文内に約140の映像フラップを付加し、映像とともに条文を理解できるようにしている。

[https://www.jfa.jp/laws/soccer/2023\\_24/](https://www.jfa.jp/laws/soccer/2023_24/)



## JFA小学校体育サポート研修会「サッカー(ボール運動・ゴール型)の授業づくり」

2023年度実施校を募集中! JFAが講師を無料派遣、ボール・テキスト贈呈も

JFAでは小学校や小学校教員を対象とした研修会・研究会に「小学校体育サポート研修会」の講師を派遣している。2023年度からはスポーツ庁の後援も決定。実施校にはJFAから講師が派遣されるほか、ソフトスポンジボール4号10球とテキスト『新・サッカー指導の教科書』2冊も贈呈される。詳細および申し込み方法は下記より。

- ・主催 : 公益財団法人日本サッカー協会
- ・後援 : スポーツ庁
- ・対象期間: 2024年3月31日(日)まで

[https://www.jfa.jp/coach/physical\\_training\\_club\\_activity/dispatch\\_instructor.html](https://www.jfa.jp/coach/physical_training_club_activity/dispatch_instructor.html)



●小学校体育 全学年対応『新・サッカー指導の教科書』  
小学校の体育授業で行う「ボールけりゲーム」「ミニサッカー」「サッカー」指導をイラスト・図解を交え4段階で分かりやすく解説。この1冊で全学年のサッカー授業に対応することができる。サッカー経験がない先生にもオススメの1冊。

[https://www.jfa.jp/coach/physical\\_training\\_club\\_activity/textbook.html](https://www.jfa.jp/coach/physical_training_club_activity/textbook.html)



## ナショナル・フットボール・フィロソフィーとしての Japan's Way

JFAは2022年7月、「ナショナル・フットボール・フィロソフィーとしてのJapan's Way」を策定した。JFAの「2050年までにFIFAワールドカップで優勝する」という夢を実現したとき、日本サッカーはどのような状況になっているのか、その「ありたき姿」から逆算してそこに至る道筋を示した。Japan's Wayを全国のサッカーファミリーと共有し、議論を重ね、ビジョンを具現化するアクションプランをまとめていく。

### ●構成

1. プロローグ～なぜJapan's Wayなのか
2. フットボール・カルチャーの創造
3. 望まれる選手像とは
4. プレービジョン
5. 将来に向けた日本のユース育成
6. フィジカルフィットネスの未来
7. 将来のサッカーコーチとは?
8. フットボール・ファミリーの拡大



### ●デジタルブック(PDF)

<https://www.jfa.jp/japansway/japansway2022.pdf>  
※デジタルブックのページ内「PLAY」マークを押すと動画が再生される



### ●Japan's Way特設サイト

<https://www.jfa.jp/japansway/>





# JAPAN NATIONAL TEAM

Japan National Team would like to thank its partners for their support.

## SAMURAI BLUE



©JFA/キリンチャレンジカップ2022 対アメリカ代表戦 先発メンバー (2022.9.23)

JFA OFFICIAL TOP PARTNER



**KIRIN**

JFA OFFICIAL SUPPLIER



JFA MAJOR PARTNER

**ANA**

**SAISON**

*au*

**MIZUHO**

**MS&AD**

**TOYO TIRES**

JFA NATIONAL TEAM PARTNER

**APA HOTEL**

**読賣新聞**

## 日本サッカー協会

<https://www.jfa.jp/>

## オーダースーツブランド「DIFFERENCE」を展開するコナカと「サッカー日本女子代表アパレルプロバイダー」契約を締結

JFAは7月6日、オーダースーツブランド「DIFFERENCE」を展開する株式会社コナカと「サッカー日本女子代表アパレルプロバイダー契約」を締結した。コナカは「DIFFERENCE」の新オフィシャルスーツセットの提供を通じて、サッカー日本女子代表(なでしこジャパン)を支援していくことになる。

なお、「DIFFERENCE」は新たな価値を届けるオーダースーツブランドで、そのコンセプトは「パーソナライズ」。専用アカウントを作ることで来店予約や購入データ、採寸データの閲覧が可能になり、自身のデータを自分好みにアレンジしたり、さまざまなオプションを組み合わせていたりするなど、オリジナルのスタイルを作ることができる。

なでしこジャパンの新オフィシャルスーツセットは、7月6日の「なでしこジャパン壮行会-BE YOUR BEST SELF-」で披露された(61ページに関連記事あり)。

## 【なでしこジャパンオフィシャルスーツ】

勝利への士気を高めるスーツデザイン。

なでしこジャパンのエンブレムがデザインされた特別なスーツ。DIFFERENCEオリジナルの「SUPER FINE WOOL」を100%使用し、オールシーズン対応が可能。ナチュラルストレッチが特徴で、抜群の着心地により、移動時もノンストレス。レディース用スーツの裏地にはなでしこジャパンのイメージカラーであるピンクを採用し、ボタンは華やかな縁取りボタンを使用。

## ●田嶋幸三JFA会長 コメント

FIFA女子ワールドカップ オーストラリア&ニュージーランド2023を目前に控え、ビジネスウェアでは日本トップレベルにある株式会社コナカさまに「サッカー日本女子代表アパレルプロバイダー」としてサポートいただくことを大変うれしく思います。

同社のオーダースーツブランド「DIFFERENCE」のコンセプトは「パーソナライズ」です。これは、「自分らしく挑戦する象徴である」というなでしこジャパンのパーパス(Purpose)にも通ずるものがあります。選手それぞれの個性を輝かせてくれるこのスーツを着用し、なでしこジャパンは戦いの場へと向かいます。そして、「個」の力を最大限に発揮し、真摯に、しなやかに、強い意志を持って戦います。

アパレルプロバイダーとしてご支援いただくコナカさまの期待に応えられるよう、常になでしこらしい最高のプレーをお見せしたいと思います。

## ●熊谷紗希なでしこジャパンキャプテン コメント

この夏の大事な試合を、DIFFERENCEのスーツと共に戦えることをうれしく思います。選手にとってユニフォームがピッチ上の勝負服だとすると、スーツは式典や会見などで着用するオフザピッチでの勝負服です。移動時にも着用する機会が多いので、伸縮性に優れたデザインは今回の旅で私たちを支えてくれることと思います。

ジャケットやブラウス・シャツには星が付いたなでしこジャパンエンブレムがあしらわれています。袖を通すたびに誇りと責任を感じさせてくれるこのスーツを着て、戦いの地に向かっていきたいと思っています。

## 株式会社モルテンと共同開催

## 「夏休み自由研究2023 サッカーを通して出来るSDGs in JFA夢フィールド」

JFAは、JFAソーシャルバリューパートナー/コンペティションパートナーの株式会社モルテンと共に、JFAとサッカーファミリーの社会貢献活動「アスパス!」の人権・教育への取り組みとして、7月31日と8月1日に「夏休み自由研究2023 サッカーを通して出来るSDGs in JFA夢フィールド」を開催した。

イベントには2日間で合計140名の小学生が参加。年齢や競技カテゴリーに合わせたボールの作り方や正しいメンテナンス方法など、サッカー競技になくてはならないボールについて理解を深めるほか、サッカーを通じたSDGs(持続可能な開発目標)の達成について学んだ。

また、参加費用の一部は支援団体を通じて世界中の子どもたちに「MY FOOTBALL KIT」を届ける活動資金に使用される。JFAは、株式会社モルテンが取り組む「MY FOOTBALL KIT」の活動に賛同し、同社と共に、世

界中の子どもの体験格差を減らして成長のきっかけを与えながら、持続可能な教育やスポーツの支援に貢献していく。

## ●株式会社モルテン「MY FOOTBALL KIT」について

<https://myfootballkit.jp/>



## 【イベント概要】

対象 : 小学生(サッカーの経験は問わない)

開催日時 : 2023年7月31日(月) 10:30~12:30/14:00~16:00

2023年8月1日(火) 10:30~12:30/14:00~16:00

会場 : 高円宮記念 JFA 夢フィールド

参加費 : 1,100 円(税込み)

## SAMURAI BLUE(日本代表)

## 9月12日と10月17日の2試合をキリンチャレンジカップ2023として開催

JFAは、9月12日(火)にベルギーのゲンクで行うトルコ代表戦、10月17日(火)に兵庫県で行う国際親善試合を、JFAオフィシャルトップパートナーであるキリンビール株式会社、キリンビバレッジ株式会社の特別協

賛の下、「キリンチャレンジカップ2023」として開催する。

9月12日トルコ代表戦は、キリンカップサッカーの前身となるジャパンカップ6試合とその後の特別協賛を合わせて、キリングループによる日

本代表戦への支援200試合目という節目の一戦となる。

#### 【キリンチャレンジカップ2023大会概要】

日時 : 2023年9月12日(火)キックオフ時間調整中  
対戦カード : SAMURAI BLUE(日本代表)対 トルコ代表  
会場 : Cegeka Arena(ベルギー/ゲンク)  
主催 : 公益財団法人日本サッカー協会  
特別協賛 : キリンビール株式会社、キリンビバレッジ株式会社  
JFAオフィシャルトップパートナー : キリンビール株式会社、キリンビバレッジ株式会社  
JFAオフィシャルサプライヤー : アディダス ジャパン株式会社  
テレビ放送 : 調整中

日時 : 2023年10月17日(火)キックオフ時間調整中(ナイトゲーム予定)  
対戦カード : SAMURAI BLUE(日本代表)対 対戦国未定  
会場 : 兵庫県/ノエビアスタジアム神戸  
主催 : 公益財団法人日本サッカー協会  
主管 : 一般社団法人兵庫県サッカー協会  
特別協賛 : キリンビール株式会社、キリンビバレッジ株式会社  
JFAオフィシャルトップパートナー : キリンビール株式会社、キリンビバレッジ株式会社  
JFAオフィシャルサプライヤー : アディダス ジャパン株式会社  
テレビ放送 : 調整中

## 株式会社みずほフィナンシャルグループ 特別協賛 「MIZUHO BLUE DREAM MATCH 2023」を開催

10月13日(金)に予定している国際親善試合を、JFAメジャーパートナーである株式会社みずほフィナンシャルグループが特別協賛し、「MIZUHO BLUE DREAM MATCH 2023」として開催することが決まった(7月20日発表)。

みずほフィナンシャルグループは今年5月、企業理念を再定義し、パーパス「ともに挑む。ともに実る。」を発表。また、7月20日が、同グループの源流の一つである第一国立銀行の開業から150年という記念すべき日でもあることから、「サッカー日本代表とともに大きな夢に挑戦していきたい」として、同大会を特別協賛することになった。みずほフィナンシャルグループとしては初めての特別協賛となる。

本大会では、「ともに挑む。ともに実る。」を体現すべく、みずほフィナンシャルグループとJFAのパートナー企業各社による共同イベント等も実施予定。

#### 【「MIZUHO BLUE DREAM MATCH 2023」大会概要】

日時 : 2023年10月13日(金)キックオフ時間未定(ナイトゲームを予定)

対戦相手 : 調整中  
会場 : 新潟県/デンカビッグスワンスタジアム  
主催 : 公益財団法人日本サッカー協会  
特別協賛 : 株式会社みずほフィナンシャルグループ(JFAメジャーパートナー)  
備考 : JFAとみずほフィナンシャルグループは、2013年にサッカー日本代表サポーターングカンパニー契約を締結。以来、同グループはサポーターングカンパニーの一社として各カテゴリー日本代表チームをサポートしてきた。同契約から10年を経た今年、新たに「JFAメジャーパートナー」契約を締結。全カテゴリー日本代表チームの強化、選手育成、指導者・審判養成、グラスルーツ活動、施設整備といった多岐にわたる事業を通じてJFAと同グループの価値共創に取り組んでいくとともに、両者のネットワークや強みを融合させ、少子高齢化への対応や活力ある社会づくり、SDGsの達成やウェルビーイングに資する環境づくりを推進していく。

## FIFAワールドカップ26アジア2次予選 兼 AFCアジアカップサウジアラビア2027予選の組み合わせが決定

2026年のFIFAワールドカップに向けたアジア2次予選(兼 AFCアジアカップサウジアラビア2027予選)の組み合わせ抽選会が7月27日、マレーシアのクアラルンプールで行われた。日本はグループBに入り、シリア、朝鮮民主主義人民共和国、ミャンマー対マカオの勝者と対戦する。

なお、2次予選には36チームが出場し、4チームずつ9グループに分かれてホーム&アウェイによる総当たり戦を実施。各グループ首位9チームと2位9チームの計18チームがFIFAワールドカップ2026アジア最終予選に進出し、同時にAFCアジアカップサウジアラビア2027の出場権を獲得する。

#### 【組み合わせとマッチスケジュール】

●グループB ※カッコ内は7月20日付のFIFAランキング  
日本(20)  
シリア(94)  
朝鮮民主主義人民共和国(115)  
ミャンマー(160)対マカオ(182)[アジア1次予選]の勝者

#### ●マッチスケジュール(日本のみ)

Match Day1 2023年11月16日(木)日本 対 ミャンマー対マカオの勝者  
Match Day2 11月21日(火)シリア 対 日本  
Match Day3 2024年3月21日(木)日本 対 朝鮮民主主義人民共和国  
Match Day4 3月26日(火)朝鮮民主主義人民共和国 対 日本  
Match Day5 6月6日(木)ミャンマー対マカオの勝者 対 日本  
Match Day6 6月11日(火)日本 対 シリア

#### ●森保一監督 コメント

いよいよ2026年のワールドカップに向けた予選が始まります。今回の組み合わせを見ても、決して楽な道は一つもないということをあらためて思いました。選手にとってはシーズン中の長距離移動による疲労蓄積、すり合わせの時間も十分でないタイトなスケジュール、強いモチベーションを持った対戦相手、これら全てに打ち勝つ強いメンタリティーと選手・スタッフのチームワークを発揮して臨みたいと思います。

※グループB各国との対戦成績  
シリア／9勝2分け(27得点9失点)、朝鮮民主主義人民共和国／8勝4分

け7敗(19得点14失点)、ミャンマー／7勝5分け2敗(29得点12失点)、マカオ／4勝(26得点0失点)

### 日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)

<https://www.jleague.jp/>



## Jリーグ「こどもまんなか応援サポーター」宣言

Jリーグは、7月12日にメディア発表会を実施し、こども家庭庁の「こどもまんなか応援サポーター」として活動することを宣言した。

今年4月に発足したこども家庭庁では、子どもたちのために何かもっとも良いことかを常に考え、子どもたちが健やかで幸せに成長できるような「こどもまんなか社会」の実現に向けて取り組みを進めている。JリーグとJクラブはこれまで地域と連携し、地域の子どもたちに向けたイベントや取り組みを行ってきた。未来の地域社会を担うこどもたちの持続的な成長を応援、サポートするため、JリーグとJクラブ、地域がより一層一体となってさまざまな取り組みを進めていく。

#### 【こどもまんなか応援サポーター】

2023年4月に発足したこども家庭庁が掲げる、こどもたちのために何かもっともよいことかを常に考え、子どもたちが健やかで幸せに成長できるような社会を実現するという「こどもまんなか宣言」の趣旨に共感・賛同し、その取り組みを応援し自らもアクションに取り組む個人や地方自治体、団体や企業。

・こども家庭庁HP「こどもまんなか応援サポーター」

<https://www.cfa.go.jp/ouen-supporters/>



#### ●Jリーグ・Jクラブが実施していくこと

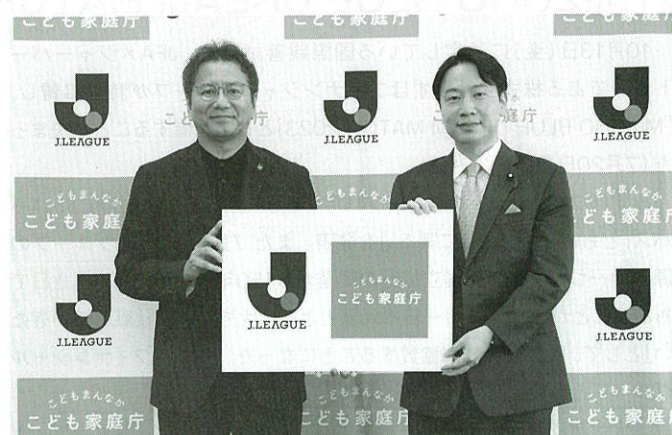
「こどもまんなか応援サポーター」として、Jリーグ・Jクラブの各種活動

について情報を発信することで活動認知の向上に寄与していく。

(1) Jリーグ・Jクラブでのこども向けイベントや取り組み(既存/新規)について、ハッシュタグ「#こどもまんなかやってみた」をつけて発信する

(2) Jリーグ・Jクラブでの「こどもファスト・トラック(※)」の取り組みを推奨する

※：公共施設や商業施設などの受け付けにおいて、妊婦の方や、こども連れの方を優先する取り組み



発表会には野々村芳和Jリーグチェアマン(左)と小倉将信内閣府特命担当大臣(こども政策 少子化対策 若者活躍 男女共同参画)が登場

## 夏季期間における「飲水タイム」実施ルール変更について

Jリーグは夏季期間(7月14日~8月27日)における「飲水タイム」実施ルールを下記の通り変更した(7月14日発表)。

#### 【変更後の実施ルール】

・夏季期間は、WBGT値(湿球黒球温度\*)にかかわらず飲水タイムを原則実施する。

・ただし、WBGT値が実施基準値以下かつ気象条件などにより両チームが合意した場合は飲水タイムを実施しないことも可能とする。

本ルールは2023シーズンの暫定ルールとし、来シーズン以降の運用については別途検討する。

\*WBGT値：気温、湿度、日射・輻射などの周辺熱環境を総合して計測

する暑さ指数。JFA「熱中症対策ガイドライン」にて飲水タイムを行う際の基準が定められている。

●期間：夏季期間 2023年7月14日(金)~8月27日(日)

●対象となる大会：2023明治安田生命J1・J2・J3リーグ

#### ※参考

・従来の飲水タイム実施ルール：WBGT値が飲水タイム実施基準値に達した場合、実施する

・JFA「熱中症対策ガイドライン」：[https://www.jfa.jp/medical/heat\\_measures\\_hydration.html](https://www.jfa.jp/medical/heat_measures_hydration.html)



## Jリーグ百年構想クラブからの脱退

Jリーグは、沖縄SVについて、Jリーグ百年構想クラブから脱退することを承認した(7月25日発表)。脱退理由は、2022年12月の制度改定により、Jリーグ入会要件からJリーグ百年構想クラブであることが要件から外れたことにより、これまで必須だった百年構想クラブでなくともJ3ライセンスの取得に支障がない状況となったため。クラブは、これまでと変わらずJリーグ入会を目指し、ホームタウンの自治体やスポンサーからの支援、ファン・サポーターの声援を受け活動していく。

#### 【クラブ概要と脱退理由】

沖縄SV(JFL)

・法人名：沖縄SV株式会社(代表/高原直泰、所在地/沖縄県豊見城市、設立2015年)

・百年構想クラブ認定：2022年2月

・脱退理由：J3ライセンスの取得に向けた各種準備を進めているが、現時点で財政力、チーム競技力の強化に注力すべきとの結論

に至ったため。

※参考：Jリーグ百年構想クラブ（2023年7月25日現在）／栃木シティフットボールクラブ（関東サッカーリーグ）、VONDS市原（関東

サッカーリーグ）、南葛SC（関東サッカーリーグ）、クリアソン新宿（JFL）、東京23FC（関東サッカーリーグ）

## Jリーグ気候アクションパートナーがNTTグループ、明治安田生命保険相互会社、丸紅新電力株式会社に決定

Jリーグは7月31日、Jリーグオフィスで環境省との連携協定2周年を記念したイベントを開催した。第一部では、環境省×Jリーグ連携協定2周年の振り返りおよび3年目に向けての取り組みを発表するほか、今年度のパートナーカテゴリーとして新設した「Jリーグ気候アクションパートナー」各社を発表。各社代表があいさつした。第二部では、FC東京クラブコミュニケーターの石川直宏氏を迎え、JリーグとNTTグループの新たな取り組みについてトークセッションを行った。

Jリーグ気候アクションパートナーおよび取り組み内容については下記参照。各社との取り組みは7月時点のものであり、今後取り組みを拡大していく予定だ。

### 【Jリーグ気候アクションパートナー各社との取り組み内容】

#### ●NTTグループ（Jリーグ オフィシャルテクノロジーパートナー）

NTTグループの持つテクノロジーを用いて、ファン・サポーターや市民が気候アクションに参加しやすく継続しやすいシステムをつくり、Jクラブと各地域に展開することで、気候変動対策に関する人々の日々の行動変容を実現する。JリーグとNTTグループの協働プロジェクト「THINK THE BALL PROJECT」を開始する。

#### ●明治安田生命保険相互会社（Jリーグタイトルパートナー）

「明治安田×Jリーグの森～未来をつむぐ森～」として、明治安田生命保険相互会社と森林（神奈川県および山梨県）における取り組みを協働で実施。こども向けの環境勉強会、自治体との意見交換、Jクラブ、ファン・サポーターを交えたイベントを行い、各地域の方へ気候変動対策の必要

性を知ってもらうきっかけづくりを行う。

#### ●丸紅新電力株式会社（新パートナー）

丸紅新電力株式会社よりFIT非化石証書の提供を受け、2023年2月～6月に開催されたJリーグの公式戦約600試合の電力使用により発生したCO2量をオフセットする。

※ただし、上記期間において、すでに再エネ・実質再エネ電力を調達しているスタジアムにおける試合を除く。

### 【環境省×Jリーグ 連携協定2周年記念イベント】

開催日時：2023年7月31日（月）

実施場所：明治安田生命ビル Jリーグオフィス（東京都千代田区）

実施内容・登壇者（敬称略）：

#### 【第一部】各代表者挨拶、フォトセッション

- ・環境省 副大臣 山田美樹
- ・日本電信電話株式会社 代表取締役社長 社長執行役員 島田明
- ・明治安田生命保険相互会社 取締役 代表執行役社長 永島英器
- ・公益社団法人日本プロサッカーリーグ チェアマン 野々村芳和

#### 【第二部】NTTグループ・Jリーグ協働プロジェクト「THINK THE BALL PROJECT」に関するトークセッション

- ・日本電信電話株式会社 取締役執行役員 工藤晶子
- ・FC東京 クラブコミュニケーター 石川直宏
- ・公益社団法人 日本プロサッカーリーグ 辻井隆行

## 日本女子プロサッカーリーグ（WEリーグ）

<https://weleague.jp>



## クラシエホールディングス株式会社と「シルバーパートナー」契約を締結～「人を想いつづける」会社クラシエと共に、CRAZYな挑戦を

WEリーグは、クラシエホールディングス株式会社（クラシエ）とシルバーパートナー契約を締結した（7月3日発表）。

クラシエは、「人を想いつづける」という企業理念の下、「CRAZY KRACIE」というビジョンを掲げ、常識を疑い、固定観念を捨て去り、チャレンジを通じて新たな価値を創造し続ける企業を目指しており、「夢中になれる明日」をスローガンに「いち髪」「葛根湯」「ねるねるね」などの幅広い年齢層に愛されている製品を通じて人々の暮らしに寄り添っている。

WEリーグは日本の女子サッカーの発展に貢献し、女性活躍社会をけん引するために、革新し続ける必要がある。そして、夢や生き方の多様性にあふれ、一人ひとりが輝く社会の実現・発展に貢献するために、人の“想い”に寄り添っていきたくて考えている。こうしたWEリーグの“想い”にクラシエが共感し、志を同じくしてより良い社会を実現するために今回のパートナーシップの契約締結に至った。

WEリーグはクラシエと共に、多様性にあふれる社会に貢献するために、CRAZYな挑戦を行っていく。

#### ●高田春奈WEリーグチェア コメント

老若男女に愛される多くの商品を世の中に提供し続けられ、さらにポジティブな変化を続けられる企業姿勢は、私達女子サッカーに関わる者たちにとっても大きな刺激となります。クラシエ様のWEリーグパートナーご参画により、WEリーグとそれに関わる人々、ステークホルダー全体がさらに発展し、両者の理念にあるような“一人ひとりが輝くクリエイティブな変化”を社会にもたらしていけたらと思っています。

#### ●岩倉昌弘クラシエ代表取締役 コメント

「女子サッカー・スポーツを通じて、夢や生き方の多様性にあふれ、一人ひとりが輝く社会の実現・発展に貢献する」という理念にとっても共感しました。クラシエは、挑戦する人々を応援する企業として、WEリーグの発展と多様性社会の実現に向け、一緒に取り組みをさせていただきます。

## KPMGコンサルティング株式会社と「ソーシャルインパクトパートナー」締結について基本合意～WEリーグが社会変革のための「強力なエンジン」となるために、価値創造ストーリーの策定と意識変革を促す基盤の構築を実施

WEリーグは、KPMGコンサルティング株式会社（KPMG）とソーシャルインパクトパートナー契約締結について基本合意した（7月3日発表）。

WEリーグは「日本の女性活躍社会をけん引する」ことを設立意義として持ちつつ、“女子サッカー・スポーツを通じて、夢や生き方の多様性にあふれ、一人ひとりが輝く社会の実現・発展に貢献する”ことを理念に、選手、クラブ、サポートするパートナー企業をはじめとするさまざまなステークホルダーを巻き込んだ行動「WE ACTION」を展開。KPMGは、女性たちが輝き、ムーブメントを起こす存在になってほしいという思いを込めて“Woman”と“Movement”を組み合わせたネーミング「WOVEMENTS®」を立ち上げ、女性のエンパワーメントを推進する活動を積極的に推進している。

ソーシャルインパクトパートナーは、WEリーグが地域と個人、チーム、企業同士が繋がり、共創し、創出価値を示し合い、互いに成長し合える基盤となり、女性活躍社会をけん引する強力なエンジンとして、共に社会変革を実現していくパートナー。WEリーグは今後、KPMGと共に「①価値創造ストーリーの策定、②WE ACTION 共創型プラットフォーム・社会価値算定の実装」「③WE ACTIONと連動したワークショッププログラムの立案と推進」に取り組み、地域と企業、個人、チームの共感・共創・共栄と意識変革をサステナブルに促す仕組み、基盤の構築、「WE ACTION」のさらなる推進、社会変革ムーブメントの創出を目指す。

※WOVEMENTS®は、KPMGコンサルティング株式会社の日本における登録商標

### ●高田春奈WEリーグチェア コメント

日本初の女子プロサッカーリーグとして、女子スポーツの活性化、社会への貢献を目指している私たちにとって、強力なパートナーができることを心からうれしく思います。スポーツは人々の心を揺さぶり、ポジティブに変化させる力を持つと信じています。女子スポーツはこれまでの日本においては、その力がまだ発揮しきれていない可能性にあふれた分野であり、社会をより良くする力を持っていると心から信じています。多彩な分野でのご経験を持つKPMGコンサルティング様と、その力を可視化し、さらに多くの企業や人々に波及させ、一人ひとりが輝く社会づくりに近づいていけることを楽しみにしています。

### ●佐渡誠KPMGコンサルティング株式会社 執行役員 パートナー コメント

弊社は、日本の構造的な課題である「女性が活躍できる社会・文化づくり」を自ら社内でも実践するだけでなく、日本社会・企業全体に波及・浸透させていくことも使命と捉え、これまでもコンサルティングサービスを提供してまいりました。この度のパートナーシップは、この「女性が活躍できる社会・文化づくり」を一層加速させる大きなアクションであり、両者の夢と熱意、知恵と経験を結集させ、そして多くのステークホルダーの皆様との共創も積極的に図りながら、一層力強く本課題解決に臨んでいきたいと考えています。

## AFC Women's Club Championship 2023 - Invitational Tournamentへの参加が決定 ～2023-24 WEリーグカップ決勝の日程・会場の変更

WEリーグは7月5日、AFC Women's Club Championship 2023 - Invitational Tournamentへの参加が決定したことを発表した。この大会は、アジアナンバーワンの女子クラブを決定するAFC Women's Champions League 2024のプレ大会として開催されるもので、WEリーグクラブが参加する。

また、同大会への参加により、2023-24 WEリーグカップ決勝の日程および開催スタジアムが変更となった。

### 【大会概要】

大会名称：AFC Women's Club Championship 2023 - Invitational Tournament

主催：Asian Football Confederation (AFC)

日程：2023年11月6日（月）～12日（日）の7日間

### 【2023-24 WEリーグカップ決勝における変更】

開催日：11月5日（日）⇒10月14日（土）

会場：国立競技場（東京都）⇒等々力陸上競技場（神奈川県）

### ●高田春奈WEリーグチェア コメント

AFC Women's Champions Leagueが開催されること、そのプレ大会となるAFC Women's Club Championship 2023 - Invitational Tournamentが11月に実施されることが決定しました。女子サッカーにおいてもアジアNo.1のクラブを決める大会が設立されたことを大変うれしく思います。欧米中心に昨今、世界における女子サッカーへの注目度は非常に高まっています。この大会の実施により、アジアの女子サッカーの発展と盛り上がりにつながるよう、WEリーグとしてもサポートしてまいります。

それに伴い、すでに発表しておりましたWEリーグカップ決勝の日程ならびに会場を変更することとなりました。ご調整いただいた関係各所ならびに楽しみにしていただいていたファン、サポーターの皆さまには申し訳ありませんが、このアジアNo.1を決める大会にWEリーグクラブを送り出せることを喜び、新たな日程、会場でのWEリーグカップ決勝を素晴らしい舞台にできるよう、準備を進めていきます。



## 2023年7月度WEリーグ理事会を開催

WEリーグは7月19日、2023年7月度理事会を開催した。主な決定事項は下記の通り。

### 【決定事項】

#### ●規約・規程の改訂

WEリーグ規約および各規程を改訂する。

#### 【改訂内容（新規）】

#### 第7条 リーグカップ表彰

リーグカップ戦終了後、チームの順位により次のとおり賞金および記念品を授与する。

①優勝：賞金10,000,000円、WEリーグカップ

②2位：賞金5,000,000円

#### ●競技規則適用ミス発生時の対応

2023年5月18日のJFA理事会において、競技会規則の改正（条文追加）が決議され、競技規則の適用があった場合でも、原則的に再試合を行わないこととなった。

### 【報告事項】

#### ●WEリーガー研修

2023-24シーズンWEリーガー研修を7月4日～6日に実施した。講師には吉田麻也選手や榎野智章氏（元プロサッカー選手）らを招いて行われ、総勢242人の選手が受講した。

#### 【実施の目的】

プロサッカー選手として必要とされる要素を、さまざまな講義やグループワークを通じて選手が身に付け、ピッチの内外で体現していくための研修を行っていく。また、プロサッカー選手として何ができるか、自覚と責任をもって行動していくきっかけをつくるための研修とする。

EMPOWER YOURSELF！自分のPOWER（よいところ）を表現し、伝えよう。

#### 【日程と参加選手数】

7月4日（火）初めてWEリーグ研修を受けるプロ契約選手：41人

7月5日（水）、6日（木）プロ契約全選手：201人

#### ●監督フォーラム

WEリーグ監督フォーラムは、JFAとWEリーグの共催により、「世界一の女子サッカー」の実現に向けて、WEリーグが世界一のリーグとなるよう監督同士でコミュニケーションを深める機会として実施。7月14日に4回目が開催された。

#### 【参加者】

- ・WEリーグ各クラブ監督10人（EL埼玉、I神戸はチーム事情により欠席）
- ・狩野倫久WEリーグテクニカルアドバイザー／U-19日本女子代表監督
- ・小野剛FIFA Technical Leadership Expert
- ・佐々木則夫JFA女子委員長
- ・今井純子JFA女子副委員長／WEリーグ理事
- ・能伸太司JFA女子副委員長
- ・高田春奈WEリーグチェア
- ・小林美由紀WEリーグ常勤理事

#### 【内容】

- ・監督フォーラムの意義
- ・狩野テクニカルアドバイザー、各監督自己紹介
- ・昨シーズンの振り返り（テクニカル面）～ヨーロッパ強豪国とのデータ比較、世界のサッカーのトレンド、ディスカッション
- ・昨シーズンの振り返りと抱負（各監督より）
- ・質疑応答、意見交換など

### 【訂正とお詫び】

本誌前号2023年7月号（No.471）35ページの月刊レポート内「AFCフットサルアジアカップ2024予選の組み合わせが決定」におきまして、記載内容に誤りがございました。読者および関係者の皆さまに謹んでお詫び申し上げますとともに、下記の通り訂正させていただきます。

#### ■P35「AFCフットサルアジアカップ2024予選の組み合わせが決定」

#### 【組み合わせ結果】

グループA：タイ（H）、トルクメニスタン、香港、中国

グループB：インドネシア（H）、サウジアラビア、アフガニスタン、マカオ

グループC：イラン、レバノン、キルギス（H）、モルディブ

グループD：ベトナム、韓国、ネパール、モンゴル（H）

グループE：タジキスタン（H）、ミャンマー、パレスチナ、インド

グループF：クウェート、バーレーン（H）、東ティモール、ブルネイ

グループG：ウズベキスタン（H）、イラク、マレーシア、カンボジア

グループH：日本、チャイニーズ・タイペイ（H）、オーストラリア

※（H）：ホスト国／AFCフットサルアジアカップ2024には、各グループ1位の8チームと、各グループ2位のうち上位7チームにホスト国（未定）を加えた16チームが出場。4チームグループと3チームグループの公平な比較を行うため、4チームグループの2位チームはグループ最下位（4位）のチームとの対戦成績を除いて勝ち点・得失点・総得点を算出する。

（訂正部分）下線部を「※（H）：ホスト国／グループAからGの上位2チームとグループHの上位1チームがAFCフットサルアジアカップ2024に出場する」より訂正



## 日本フットボールリーグ (JFL) 便り

## Jリーグ昇格へ決意 青森一体

ラインメール青森FC 運営委員 武田俊輔

<https://reinmeer-aomori.jp/>

ラインメール青森FC(株式会社ラインメール青森フットボールクラブ)は、1995年に青森市社会人選抜チームとして発足しました。16人のメンバーで青森県リーグ2部に参戦し、2008年には青森県1部リーグで優勝。2009年から東北社会人サッカーリーグ2部に昇格しました。

2013年に東北社会人サッカーリーグ2部で優勝して1部に昇格。2015年の東北社会人サッカーリーグ1部では2位となり、NHK杯青森県サッカー選手権大会で優勝して初の天皇杯出場を決めました。全国社会人サッカー選手権大会には2014年から出場し、15年にはベスト4に進出して全国地域サッカーリーグ決勝大会出場権を獲得。同大会の決勝ラウンドでは全勝で優勝してJFL昇格を果たしました。JFL2年目の17年には準優勝、第72回国民体育大会成年男子の部で青森県初の全国優勝を達成し、2019年にはJリーグ百年構想クラブとなりました。

昨シーズンは4年連続となるJ3クラブライセンス交付をいただきました。チームとしても新たな指揮官、選手を迎え、Jリーグ昇格を目標にシーズンをスタートしました。失点はリーグ最少の23と守備面では安定感があったものの、攻撃では総得点35と、得点力不足が課題として残るシーズンとなりました。最終順位は4位で、百年構想クラブ内で上位2クラブに入ることができず、惜しくもJ3入会はかないませんでした。

今シーズンはチームスローガンに「Jリーグ昇格へ決意」、サブタイトルに「青森一体」を掲げ、昨年達成することができなかったJリーグ昇格

という目標に向かって決意を新たに、クラブ一体となって取り組んでまいります。

チームミッションである、「早く・強く挑戦しつづけ、あらゆる人たちに勇気と感動を与えられるチーム」を目指し、一戦一戦全力で戦います。

13人の新加入選手の活躍はもちろんのこと、昨シーズンも躍動した選手たちの活躍にも期待していただければと思います。

クラブとしては、理念として掲げている「サッカーを通じてもっと健やかに、もっと幸せに、もっと豊かな地域づくり」を目指し、サッカーだけではなく、地域貢献、社会貢献のための活動に努め、地域に根差し、応援していただけるクラブを目指します。そして、スポーツを通じて、地域の子どもたちに夢や希望を与えられるような活動も積極的に行ってまいります。



「青森一体」でクラブの目標であるJリーグ昇格を目指す

## 日本フットボールリーグ (JFL) 便り

## “カズロス”を乗り越え、再起のシーズンに

鈴鹿ポイントゲッターズ 広報部長 丸山謙介

<https://suzuka-un.co.jp/>

鈴鹿ポイントゲッターズは三重県鈴鹿市をホームタウンとするサッカークラブです。まだプロスポーツの文化がない三重県に、サッカーを通じて子どもたちに夢を与え、地域活性につながるよう、初のJリーグ入りを目指して活動しています。

昨シーズン在籍し、大きな話題を集めた元日本代表のレジェンド“キングカズ”こと三浦知良選手は、シーズン終了後に契約期間が満了して退団しました。JFLというリーグ全体にも影響を与えたスターが去り、スポンサーや観客動員、チームにかかる予算も含め、あらゆる面でスケールダウンを免れないシーズンとなりました。

選手が大幅に入れ替わり、フロント陣も刷新され、新たなスタートを切った鈴鹿ポイントゲッターズ。新代表の渡邊淳が就任会見で「身の丈に合ったクラブ経営を」と語った通り、JFLのクラブらしく地に足をつけたチーム運営を目指していきます。

今シーズンはあらためて地域貢献、地域密着に立ち返り、地域の祭りやイベントに積極的に参加。鈴鹿市サッカー協会とも連携し、地域の小学校を選手が訪問する「出前授業」では体育館でおおよそ100人の子どもたちと一緒に選手が体を動かし、地域の子どもたちと触れ合っています。

6月には三浦知良選手が5日間トレーニングに参加し、多くの人々が練習場に訪れ、昨年のような盛り上がりを見せました。日本のレ

ジェンドと練習を共にしたことで、今年から加わった若い選手たちにとっては大きな刺激となり、モチベーションが向上しました。

また7月には、地元の中学校で職業学習会が開催され、鈴鹿ポイントゲッターズからはキャプテンの中村健人選手と朝田貴則フィールド本部長が参加。「さまざまな職業に従事している方々から、仕事の内容やその苦労、働く喜びや職業に就くまでの経緯などを聞き、生徒自身の進路選択に役立てる」という貴重な機会をいただきました。

三浦知良選手の退団により“カズロス”の影響は避けられない今シーズン。より多くのサポーターや地域の人々から必要とされるクラブになるため、地域に根付いた活動を続けていきます。



6月に鈴鹿ポイントゲッターズの練習に参加した三浦知良選手



## 女子サッカークラブを女性が運営していく意義とは

ニッパツ横浜FCシーガルズ GM 齊藤織恵

<https://seagulls.yokohamafc-sc.com/>

2023シーズンを新体制で迎えた当クラブは、開幕から9試合負けなしのスタートダッシュを切り、夏の中断を前にクラブ史上初めてなでしこリーグ1部の首位を保っています。初の女性監督、女性コーチ、そして私自身も初の女性GMとしてスタート。成績が出ていることを踏まえ、とても前向きな組織改革だったと言えるでしょう。

もちろん、性別を問わず優秀な人材がリーダーシップを取ることがベストです。しかし、心身の状態がパフォーマンスに大きく影響するスポーツの世界では、細部におけるフォローやサポートをどこまでできるか、その点で同性ならではの理解や親密さが無意識の中でも影響していると感じています。実際に、選手たちからは「コミュニケーションが取りやすくなった」との声が多く届いています。

人間は「安心感」を持つ環境でこそ、パフォーマンスを最大化できると言われています。スポーツだからといって競わせるばかりではなく、いかに安心できる環境、仲間、サポート体制の中でプレーできるか。その土台が整った上で初めて、競技に注力することができるものではないでしょうか。女性はそのような安心できる場づくりが得意ですし、どんな場面でも性別や個性を生かしたその個人の役割を果たすことが組織をつくっていく上で大切ではないでしょうか。

そして、女性スタッフを多く活用することは、女性の社会進出および雇用創出という意味でも大きな意義があります。現在の日本は、世界

においてジェンダーギャップ指数125位と、相当に出遅れており、まだまだ多くの課題が残されています。

私たち女子スポーツクラブが、女性人材の活躍で躍進を遂げることができたら、世間への大きなメッセージとなり得るでしょう。それは選手たちも同様で、アマチュア選手だからこそ仕事をしながら懸命にサッカー活動をしている姿をお届けすることで、多様な働き方や女性だからといって諦めがちだったライフプランを提案するきっかけになるのではと感じています。

「For the women, by the women, of the women.」

女性の社会進出と女子スポーツの発展に寄与した勇気ある先人たちの思いを胸に、初のリーグ優勝を目指しながら、私たちにできることを一歩ずつ進めてまいります。



2023年5月14日の母の日にはエスコートマザーを企画し、選手は母親と入場。シーガルズはすべての女性を応援していく



## 誰もが安心して取り組むことができるクラブに！

ディアヴォロッソ広島 広報 兼山宏之

<https://www.diavorosso-hiroshima.com/>

ディアヴォロッソ広島は2019年に広島県熊野町でクラブを設立しました。広島県の女子サッカー界、そして女子サッカーの町である熊野町を盛り上げようと取り組んでおり、地域の皆さまの後押しにより、クラブ設立から4シーズン目でなでしこリーグ2部に参入しました。

現在所属する選手は、地域企業で働きながらプレーする社会人、学生生活を送りながらプレーする学生、出産後の育児と両立させながらプレーするママアスリートと、さまざまな境遇の選手が集まっています。社会人選手は、地域企業の皆さまから仕事や生活についてご指導いただき、学生選手は、所属する社会人や地域企業の皆さまとのつながりにより、活動を通じて学生という枠にとらわれない経験を重ねています。

ママアスリートについては、前述した選手とは境遇が異なり、家事や育児との両立もあるため、家族の理解が一番の支えであることは間違いありません。しかしながら、選手によってはさまざまな要因により、出産を機に競技から離れる方が多くいるのが現実です。そこで、クラブでは、出産後も選手としてプレーし続け、輝いていける環境の構築に取り組んでいくこととしました。

今シーズンは取り組みの第一歩として、ホームゲームにおいて、選手の子供も(乳幼児など)、そして子供を世話する引率者が安心して

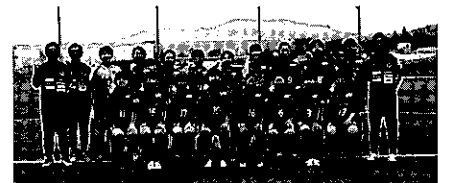
て観戦することができる「保育ルーム」を設置しました。スタジアムの一室を観戦や食事、オムツ替えなどでもできる専用スペースとして確保し運用したところ、利用者から「屋内で冷房完備、子どもの熱中症リスクを回避でき安心」「雨天時は子どもを連れて傘をさすことは危険。屋内であれば安心して競技場に足を運べる」など、ポジティブなご意見が寄せられました。

今回の取り組みは間接的な支援となりますが、ママアスリートや支える家族の安心とともに、プレーする活力を生み出すことができていると実感しています。

「ママのプレーを見て子どもが成長する。子どもが応援しているからママも頑張る」

そのような好循環を生み出していくことが新たな価値につながるものと考えています。

少しずつにはなりますが、クラブに携わる誰もが安心して取り組むことができる環境構築とともに、女子サッカー界のより一層の発展につながるための挑戦を続けていきます。



2023シーズン体制での集合写真



## 日本フットサル連盟便り



## 関東フットサルリーグ 「やっと通常のリーグが開催できる!(コロナで学んだこと)」

関東フットサル連盟 理事長 松村榮寿

<https://www.jff-futsal.or.jp/>

2023年度シーズンの関東フットサルリーグが6月に開幕しました。

長い間、新型コロナウイルスの感染拡大に脅かされ、室内競技のフットサルは大きな影響の中でリーグ戦を開催してきました。今シーズンはやっと通常の開催に戻してリーグ運営をしています。

関東地域では、日頃からアマチュアの集団の地域リーグではありませんが、限りなくプロ意識を持ったリーグ運営を目指しています。それは競技力だけではなく、リーグ運営も関東地域が日本のフットサルを引っ張っていくのだという意識を持って、リーグに関わる関係者たちは臨んでいます。

コロナ禍では、来場できない方々にもわれわれの試合を見ていただきたい、会場にはお越しいただけなくても、一緒に応援していただきたいという思いの下、関東として何ができるのかを考えました。多くのリモート会議を開催して「試合のライブ配信」や「Web選手名鑑」などを検討し、少しでも関東フットサルリーグを応援している皆さんにフットサルを楽しんでもらえるように試みました。

今シーズンは6月から関東フットサルリーグ1部、関東フットサルリーグ2部、関東女子フットサルリーグ、関東大学フットサルリーグが開幕し、多くの方々が会場に足を運んでくださっています。選手も生の歓声に後押しされ、プレーのパフォーマンスが上がり、白熱した試合で大いに盛り上がっています。

関東フットサルリーグとしては、当連盟内の広報部会を中心に、今シーズンも今まで以上に配信に力を注いでいきます。1部と2部、女子の全ての試合をライブ配信して、会場にお越しいただけないフットサルファンの皆さんに「熱い試合」をお届けできるようにしています。

この数年間で学んだ多くのこと、そして実施してきたことを基盤として、さらに「競技力・運営力」の向上に日々努め、日本一の地域フットサルリーグを目指します。



関東フットサルリーグはようやく通常の開催に戻り、白熱した試合が繰り広げられている

## 日本ビーチサッカー連盟便り



## 北信越ビーチサッカーリーグとJFA 第18回全日本ビーチサッカー大会北信越大会報告

石川FA フットサル・ビーチ委員会(ビーチサッカー担当) 奥出修造

<http://jbsf.or.jp/>

私がビーチサッカーの審判を始めて今年で12年目になります。

アクロバティックなプレーやエキサイティングな試合展開のビーチサッカーの魅力に魅せられて、選手がその魅力を最大限に発揮でき、選手、ベンチ、観客の皆さんが楽しめることを常に意識しています。

ビーチサッカーが大好きな私は、毎年開催される全日本ビーチサッカー大会石川県大会(参加チーム数により県大会なしの年もあり)の審判員と、北信越大会での巡回指導に精力的に参加し、12年の間に全国大会にも2回審判員として参加させていただきました(2012年第7回大会白浪浜、2015年第10回大会大蔵海岸)。また、昨年は大蔵海岸で二日間の大会(女子ビーチサッカー Thetisツアー/一般財団法人日本ビーチサッカー連盟後援)の審判員もさせていただきました。

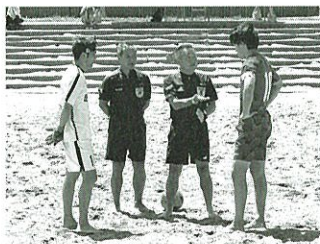
これまで、ビーチサッカー日本代表をはじめ多くのビーチサッカーの選手やコーチ、審判員の方々と交流できたことは、私の貴重な財産です。これからもビーチサッカーの魅力を発信し続けながら、審判活動をしていきたいと思っています。

6月4日には新潟県柏崎市で北信越ビーチサッカーリーグが開催され、勝利チームであるフュージョンは12月の地域リーグチャンピオンシップに出場します。

6月10日にも新潟県柏崎市でJFA第18回全日本ビーチサッカー

大会北信越大会が開催されました。この日は日本サッカー協会(JFA)による巡回指導も行われ、若い審判員たちはプラクティカルトレーニングでビーチサッカー特有の競技規則を学んでいました。彼らもこれからビーチサッカーの魅力を共に発信する仲間として、今後の活動に期待しています。そして、この大会も北信越ビーチサッカーリーグと同様、フュージョンが優勝を飾りました。9月の全国大会での検討を祈ります。

石川県や北信越では、まだまだビーチサッカーの認知度は低い状態です。その素晴らしい魅力をどのように発信するかを今後も模索しながら、競技人口を増やし、審判員を増やし、ファンを増やしていきたいと考えています。



北信越ビーチサッカーリーグで審判をする筆者(右から2番目)



北信越ビーチサッカーリーグ、全日本ビーチサッカー大会北信越大会優勝チームのフュージョンの選手



## 新生CPサッカー男子日本代表チーム、初の国際試合「2023 Catalan Sports Week」へ出場

CPサッカー男子日本代表 コーチ／慶應義塾大学体育研究所 専任講師 福士徳文

<https://www.jiff.football/>

4月から李宇諶氏が監督に就任して新体制となったCPサッカー男子日本代表チームは、6月28日から7月2日まで、スペインのバルセロナで行われた「2023 Catalan Sports Week」に出場しました。出場チームは、フィンランド、フランス、デンマーク、日本、そして地元カタルーニャ（スペイン）の5チームで、総当たり形式で行われました。

新生CPサッカー男子日本代表チームは、この大会での試合が新体制になって初めての対外試合となります。そのため、日本代表として結果を追求すること、そして個人・チームとして全力を尽くした先に得られる成果と課題を持ち帰るべく、大会に臨んできました。結果は1勝2分け1敗（①フィンランド戦：1-1△、②フランス戦：2-0○、③カタルーニャ戦：1-1△、④デンマーク戦：0-1●）、5チーム中2位という成績で終わることができました。

優勝はカタルーニャ（3勝1分け）で、日本と勝ち点が並んだフィンランドとは得失点差で上回り日本が2位となりました。優勝したカタルーニャは、テクニックの高さを生かしたパスワークを主体とし、多彩なコンビネーションを発揮できるチームでした。また、フィンランドはキーパーのロングキックから一気に攻め込むスタイル、フランスとデンマークはFT3の選手を中心に、柔軟なシステム変更やポジションチェンジを加えて攻守を展開できるなど、それぞれの強みがありました。

これら特徴のあるチームと対戦できたことで、今後自分たちが向かうべき基準を整理することができました。特に個人としてはテクニック・フィジカル・戦術理解の向上は必須、チームとしては攻守基本的な戦術はもちろん、時間帯や点差、セットプレーも含めた細部における戦い方を深めていく必要があると感じました。

CPサッカー男子日本代表チームは、11月に行われるアジア・オセアニア選手権に出場します。本遠征で得た学びを生かし、この大会で優勝できるよう選手・スタッフ共に、さらに精進していきます。最後になりましたが、この大会に参加するにあたりご理解、ご協力をいただいた皆さまに、この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。今後とも皆さまの温かいご声援をよろしく願いたします。



「2023 Catalan Sports Week」に出場したCPサッカー男子日本代表チーム



## 「JFAなでしこひろば」で進化

一般社団法人佐賀県サッカー協会 副会長 宮崎美由紀

<https://www.jfa.jp/nadeshikohiroba/>

佐賀県サッカー協会（FA）では、佐賀県FA主催で「JFAなでしこひろば」を開催しています。毎月2回のうち一つは「女子（U15～18）トレセン」、もう一つは「U12トレセン」と同日・同会場で開催し、実施しています。

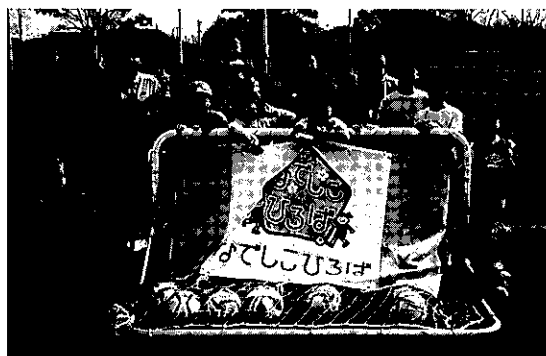
この日程で開催する目的は、なでしこひろばの参加者が、サッカーをしている女子選手たちを間近に見る機会を増やすことです。トレセンに参加している選手たちは、各地域から選考された、優れた技術などを持つ選手たちですが、なでしこひろばに参加した子どもたちが隣のグラウンドで切磋琢磨している選手の姿を見ることは、少なからず良い刺激になっているのではないのでしょうか。

今年度の女子トレセンは主に佐賀県立神埼高校のグラウンドで行っています。ですから、幼児を中心とした「JFAなでしこひろば」も同高校の体育館を借用し、同日に開催。子どもたちのボール遊びやサッカーを実施しています。天候にも左右されずに実施できるため、子どものみならず保護者にも好評で、毎回20人ほどが参加してくれています。

コーチとして活躍してくれているのは、神埼高校女子サッカー部のOG2人（社会人）と同サッカー部の選手たちです。常に笑顔で子どもたちと向き合い、保護者からの信頼も厚く、選手たちの下で子どもたちは生き生きと活動しています。

U12トレセンと同日開催しているのは、小学生を対象とした「JFAなでしこひろば」です。こちらは悪天候のため実施できない日が多くありました。毎回楽しみにしている子どもたち、コーチたちにとっても残念でありませんが、「楽しかった」「もっとやりたい」「また来るね」という参加者の声を聞きたくて、フットサルチームのアレグリアミーニョの選手や佐賀大学女子サッカー部の選手を中心としたコーチたちが奔走しています。

佐賀県サッカー協会は「JFAなでしこひろば」の活動に、女子選手普及だけでなく女性指導者拡大も視野に入れ、力を注いでいます。



JFAなでしこひろばでは、子どもたちもコーチもみんな笑顔で生き生きと活動している

# サッカーなら、どんな障害も超えられる。

日本の人口の7%は障がい者です。その障がいは多様で、ひとつとして同じ在り方はありません。障がいがあっても、いつでも、どこでも、サッカーを心から楽しめる環境を。彼ら彼女らが社会にある"障害"を超えていききっかけづくりやサポートも、サッカーならできる。私たちはそう信じて、日本障がい者サッカー連盟を推進していきます。

障がい者サッカー7団体は、日本サッカー協会と連携し、サッカー界の発展のために取り組みます。



切断障がい



脳性麻痺



精神障がい



知的障がい



電動車椅子



視覚障がい



聴覚障がい

## 日本アンブティサッカー協会

アンブティサッカーとは、足や腕に切断障がいのある人が行う7人制サッカーです。日常生活で使用する義足・義手を外してロフトストランドクラッチで体を支えながらプレーします。

## 日本ソーシャルフットボール協会

ソーシャルフットボールとは、精神障がいのある人が行うフットサルやサッカーです。基本ルールは健常者と同じで、フットサルでは女子選手を含む場合に最大6人がコートでプレーするなど、一部特別ルールを採用しています。

## 日本知的障がい者サッカー連盟

知的障がい者サッカーとは、知的障がいのある人が行う11人制サッカーです。フットサルも行っています。ルールは健常者のサッカー・フットサルと同じで、プレーヤーの障がいの度合いにより試合時間が異なります。

## 日本電動車椅子サッカー協会

国際的にはパワーチェアフットボールと呼ばれ、自立歩行が困難な重度の障がいのある人が多く行う4人制サッカーです。手やアゴでジョイスティック型のコントローラーを操り、電動車椅子でプレーします。

## 日本CPサッカー協会

CPサッカーとは、脳の損傷によって運動障害がある人が行うサッカーです。Cerebral (脳からの) Palsy (麻痺) の頭文字をとり、そう呼ばれています。

## 日本ブラインドサッカー協会

ブラインドサッカーとは、視覚障がいのある人が行う5人制サッカーです。転がると音が出るボールを使用し、まわりの声を頼りにプレーします。2004年からパラリンピックの正式種目です。弱視者がプレーするロービジョンフットサルもあります。

## 日本ろう者サッカー協会

デフサッカーと呼ばれる、聴覚障がいのある人が行うサッカーです。サッカーとフットサルがあり、審判は笛だけではなくフラッグも使用するなど、視覚情報を頼りにプレーします。



一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟

公式ユニフォームサプライヤー



パートナー



東京海上日動



支援団体



日本サッカー後援会



# 会議レポート



## 公益財団法人日本サッカー協会 2023年度第7回理事会

公式URL [https://www.jfa.jp/about\\_jfa/report/executive\\_committee.html](https://www.jfa.jp/about_jfa/report/executive_committee.html)



日本サッカー協会（JFA）は2023年7月13日、2023年度第7回理事会をJFAハウスおよびオンラインで開催した。決議、報告された事項は、下記の通り。

### 決議事項

- |                       |           |                 |           |
|-----------------------|-----------|-----------------|-----------|
| 1 臨時評議員会開催            | ..... P37 | 3 U-18日本代表監督の選任 | ..... P37 |
| 2 施設整備助成の臨時対応にかかる交付要項 | ..... P37 |                 |           |

### 臨時評議員会 開催

下記の通り、臨時評議員会を開催する。

開催日時：2023年7月30日（日）13:00から

開催方法：ウェブ会議システム

議題：【決議事項】

- (1) 評議員3名 選任の件
- (2) 組織改革検討タスクフォース「理事会体制・業務執行体制の基本方針策定」の件

- (3) 組織改革検討タスクフォース「理事会体制・業務執行体制の基本方針策定」に伴う関連規程・規則の改正の件
- (4) 組織改革検討タスクフォース「役員の選任及び会長等の選定プロセスの見直し」の件
- (5) 組織改革検討タスクフォース「役員の選任及び会長等の選定プロセスの見直し」に伴う関連規程・規則の改正の件
- (6) 会長予定者選出管理委員会設置の件
- (7) FIFA Forward 申請手続きの件

### 施設整備助成の臨時対応にかかる交付要項

2023年6月の理事会で決議された「施設整備助成の臨時対応」について、助成にかかる交付要項を下記の通りとする。

※詳細はJFA公式ウェブサイト参照

<交付要項概略抜粋>

(1) JFAサッカー施設整備助成事業の対象事業2区分

助成区分1：都道府県フットボールセンター整備助成事業

助成区分2：地区サッカー施設整備助成事業

(2) 助成事業の実施期間および予算

この助成金の「助成対象事業」の実施期間は2023年7月からの開始とするが、JFAの次期施設整備助成制度が確立されるまでの暫定的措置として終了期

間は明記しない。

この助成金の原資は、2015～2022年の8年間にわたって実施されたJFAサッカー施設整備助成事業で活用しきれなかった総額12億円で、各都道府県サッカー協会（FA）は、以下に準じてこれを活用することができる。

- ①申請は先着順に受け付け、次期助成制度が確立される前に12億円に達した場合はその時点で終了する
- ②1FAにつき最大1億円を本助成事業に活用することができる
- ③次期施設整備助成制度（総枠未定）が確立されたのちは、上記②で活用した助成金額を次期制度の都道府県FAに対する助成上限額（金額未定）から差し引くこととする

(3) 助成区分別の助成事業概要については別添交付要項を参照のこと

### U-18日本代表監督の選任

FIFA U-20ワールドカップ2025を目指す日本代表チーム（U-18）の監督として、船越優蔵氏を選任する。

<プロフィール>

船越優蔵（ふなこし ゆうぞう）

生年月日：1977年6月12日

出身地：兵庫県

サッカー歴：1993～1996年 長崎県立国見高校

1996～1997年 オランダ／テルスター

1997～1998年 ガンバ大阪

1999～2000年 ベルマーレ平塚／湘南ベルマーレ

2001年 大分トリニータ

2002～2006年 アルビレックス新潟

2007～2009年 東京ヴェルディ

2010年 S.C. 相模原

指導歴：2011～2012年 アルビレックス新潟U-13 監督

2013～2014年 ザスパクサツ群馬 コーチ

2015～2020年 JFAアカデミー福島 監督

2020年 U-17日本代表 監督

2021年 JFAアカデミー福島 チーフコーチ兼監督／U-18 日本代表 監督

2022～2023年 U-19～U-20日本代表 コーチ

資格：2018年 JFA S級コーチライセンス取得

## 報告事項

1 第24回FIFAカウンシル会議(6月23日開催)…………… P38	5 指導者ライセンス認定 S級コーチライセンス…………… P39
2 アクセス・フォー・オール進捗状況と今後…………… P38	6 指導者ライセンス認定…………… P39
3 全日本高等学校女子サッカー選手権大会の出場チーム数変更…………… P38	7 審判員・審判指導者の海外派遣…………… P39
4 JFA・Jリーグ特別指定選手制度…………… P38	8 JFAロングパイル人工芝ピッチ公認(更新)…………… P39

### 第24回FIFAカウンシル会議(6月23日開催)

第24回FIFAカウンシル会議が6月23日にオンラインで行われた。主な決定・報告事項は下記の通り。

- (1) FIFAクラブワールドカップ2025™のホストをアメリカに決定した。
- (2) FIFAワールドカップ2030™の招致プロセスを延期し、ホストを決定するFIFA総会を、2024年の第3四半期から第4四半期開催に延期することを併せて決定した。
- (3) FIFAワールドカップ2030™のホスト要件を承認した。
- (4) FIFAワールドカップ2026™予選(2023年9月～)について、FIFAワールド

カップ2026予選規則を承認した。

- (5) 第74回FIFA総会(2024年5月17日)をタイのバンコクで開催することを決定した。
- (6) FIFA U-17ワールドカップ2023™のホストをインドネシアに決定した。
- (7) FIFA U-20女子ワールドカップ2024™のホストをコロンビアに決定した。
- (8) FIFA U-17女子ワールドカップ2024™のホストをドミニカ共和国に決定した。
- (9) FIFAフットサルワールドカップ2024™のホストをウズベキスタンに決定した。
- (10) FIFAビーチサッカーワールドカップUAE2023™の大会日程を、2023年11月16日～11月26日から2024年2月15日～2月25日に変更した。

### アクセス・フォー・オール進捗状況と今後

アクセス・フォー・オールのワーキンググループ(2023年2月の理事会で設置が承認)において議論した内容および今後の進め方を報告した。

※詳細はJFA公式ウェブサイト参照

### 全日本高等学校女子サッカー選手権大会の出場チーム数変更

全日本高等学校女子サッカー選手権は、第33回大会(2024年12月開催)より、下記の通り、出場チームを変更する。

大会名称 : 全日本高等学校女子サッカー選手権大会

開催場所 : 兵庫県神戸市他

出場チーム数: 第32回/2023年度大会(現行) 32チーム(9地域代表)



第33回/2024年度、第34回/2025年度 52チーム(47都道府県代表+5枠)

※5枠は第32回大会の結果を含めて後日決定する。



第35回/2026年度以降 48チーム(47都道府県代表+1枠)

目的 : 9地域代表制により32チームに固定化されていた大会を、各都道府県から1代表が出場する大会にすることによってチームの創出機運を高めるとともに、高校生年代の登録者数増加を図る。また、栃木国体(2022年)から国体少年女子の部が開始されたことから、各都道府県内で発掘・育成した女子選手が地元でサッカーを続けられる環境づくりの促進が期待されるため。  
なお、現行の9地域代表制により、一つの都道府県から恒常的に複数チームが全国大会に出場している状況に鑑み、それらのチームや在学中の選手に配慮し、2024年からの2年間(第33回、第34回)は、経過措置として52チームで開催することとする。

### JFA・Jリーグ特別指定選手制度

(1) 選手 : 栗田大誠(くわた たいせい)  
所属チーム : 中京大学体育会サッカー部  
受け入れ先 : 柏レイソル  
所属歴 : TOPSIDEアウルフットボールクラブ U-12  
TOPSIDEアウルFC PAULISTA  
暁星国際中学校  
暁星国際高校  
中京大学体育会サッカー部  
認定日 : 2023年6月13日

所属歴 : みなみサッカークラブ  
FC東京U-15むさし  
帝京高校  
城西国際大学体育会サッカー部  
認定日 : 2023年6月13日

(2) 選手 : 石井隼太(いしい はやた)  
所属チーム : 城西国際大学体育会サッカー部  
受け入れ先 : 水戸ホーリーホック

(3) 選手 : 有働夢叶(うどう しゅうと)  
所属チーム : 中京大学体育会サッカー部  
受け入れ先 : 大分トリニータ  
所属歴 : 山田荘サッカークラブ  
奈良YMCAサッカークラブジュニアユース  
興国高校  
中京大学体育会サッカー部  
認定日 : 2023年6月20日



## 指導者ライセンス認定 S級コーチライセンス

S級コーチ養成講習会で国内外インターンシップを含む全てのカリキュラムを修了し、全ての評価項目において合格した下記1名について、指導者に関する規則第4条「ライセンスの認定」に基づき、S級ライセンスを認定した。

名前 : 三枝寛和(さえぐさ ひろかず)  
 指導チーム : Y.S.C.C.横浜  
 生年月日 : 1981年4月12日  
 資格 : 2010年 A級コーチ取得 ドイツ・UEFA  
 指導歴 : 2002年4月～2003年12月 東海ウイングス コーチ・監督  
 2006年6月～2008年8月 SCB Viktoria Koeln U13/14 コーチ  
 2008年9月～2009年8月 Bayer04 Leverkusen U15 コーチ研修

2009年9月～2010年3月 浦和レッズハートフルクラブ アシスタントコーチ  
 2010年4月～2016年1月 渋谷教育学園渋谷中学高校 監督  
 2016年2月～2018年1月 愛媛FC アカデミー・ジュニアユース コーチ  
 2018年2月～2019年1月 FC DIAMO ジュニア・ジュニアユース コーチ  
 2019年2月～2023年1月 Y.S.C.C.横浜 トップチーム コーチ  
 2023年2月～現在 Y.S.C.C.横浜 ジュニアユース 監督

※2020年度S級コーチ認定者数: 12名/16名中(上記1名含む)  
 ※現S級コーチライセンス保持者数: 530名(上記1名含む)

## 指導者ライセンス認定

右記の指導者養成講習会を修了し、技術委員会が適格と認められた者に対してライセンスを認定した。

●2019年度フットサルA級コーチ養成講習会  
 ・石本信親

## 審判員・審判指導者の海外派遣

(1)審判員 海外派遣、(2)インストラクター・アセッサー・委員 海外派遣

委員会、大会、試合など	役職	名前	試合日または派遣期間	場所
女子国際親善試合 オーストラリア女子代表 vs フランス女子代表	審判員	小泉朝香、中本早紀	7月14日	メルボルン/オーストラリア
Referee Selection & Workshop	審判指導者 (インストラクター)	小川佳実、名木利幸	6月13日～6月20日	ジャカルタ/ インドネシア
AFC U17 Asian Cup Thailand 2023	審判指導者 (インストラクター)	佐藤隆治	6月15日～7月2日	バンコク、チョンブリ/タイ
AFC Recruiting Assessment Visit	審判指導者 (リクルーター)	延本泰一	6月25日	シャアラム/マレーシア
FIFA Women's World Cup Australia New Zealand 2023™. Referee Meetings with Teams 6月28日: ベトナム女子代表チーム(ハノイ/ベトナム) 6月30日: 韓国女子代表チーム(京畿道/韓国)	審判指導者 (テクニカルインストラクター)	深野悦子	6月28日、6月30日	ハノイ/ベトナム、 京畿道/韓国

(3)カタールとの交流事業における受け入れ  
 カタール協会とのパートナーシップ協定の下、審判員の受け入れを実施  
 受け入れ期間: 6月13日～7月17日

場所 : 千葉県千葉市  
 審判員 : カミス・モハメド・アルマッリ

## JFAロングバイル人工芝ピッチ公認(更新)

(1)申請者(施設所有者): 堺市  
 施設名 : J-GREEN堺S10(大阪府堺市堺区築港八幡町145番地)  
 使用製品: 住友ゴム工業株式会社 ハイブリッドターフXPM-55T  
 公認期間: 2023年7月9日～2026年7月8日  
 公認番号: 第094号

(2)申請者(施設所有者): 公益社団法人岩手県サッカー協会  
 施設名 : 岩手県フットボールセンター  
 (岩手県紫波郡紫波町紫波中央駅前2丁目1-1)  
 使用製品: 積水樹脂株式会社 ドリームターフPT2065RS+  
 公認期間: 2023年7月17日～2024年7月16日  
 公認番号: 第112号

(3)申請者(施設所有者): 佐賀県  
 施設名 : SAGAサンライズパーク球技場 北コート  
 (佐賀県佐賀市日の出2丁目143番地)  
 使用製品: コウフ・フィールド株式会社 Desso iDNAX 60-16-VU  
 公認期間: 2023年7月13日～2025年7月12日  
 公認番号: 第199号

(4)申請者(施設所有者): 佐賀県  
 施設名 : SAGAサンライズパーク球技場 南コート  
 (佐賀県佐賀市日の出2丁目143番地)  
 使用製品: 美津濃株式会社 グラングラスPT65U  
 公認期間: 2023年7月13日～2025年7月12日  
 公認番号: 第200号



日本サッカー協会（JFA）は2023年7月30日、2023年度臨時評議員会をオンラインで開催した。報告された事項は、下記の通り。

### 決議事項

- |  |   |
|--|---|
| 1 評議員3名選任…………… P40                     | 4 組織改革検討タスクフォース   |
| 2 組織改革検討タスクフォース                        | 「役員の選任および会長等の選定プロセスの見直し」…………… P40                             |
| 「理事会体制・業務執行体制の基本方針策定」…………… P40         | 5 組織改革検討タスクフォース「役員の選任および会長等の選定プロセスの見直し」に伴う関連規程・規則の改正…………… P41 |
| 3 組織改革検討タスクフォース                        | 6 会長予定者選出管理委員会設置…………… P41                                     |
| 「理事会体制・業務執行体制の基本方針策定」に伴う定款の改正…………… P40 |   |

### 評議員3名選任

下記の通り3名の評議員を選任する。

#### ①一般社団法人鳥根県サッカー協会

退任する評議員：金築弘（かねつくひろし）会長  
選任する評議員：堀江博生（ほりえひろお）専務理事

#### ②株式会社横浜フリエスポーツクラブ

退任する評議員：木村遼（きむらりょう）前代表取締役社長COO  
選任する評議員：片原大示郎（かたはら だいじろう）代表取締役社長COO

#### ③株式会社日立柏レイソル

退任する評議員：瀧川龍一郎（たきかわ りゅういちろう）前代表取締役社長  
選任する評議員：山崎和伸（やまざき かずのぶ）代表取締役社長

なお、任期の満了前に退任した評議員に代わって選任する評議員の任期は、定款第18条第2項の規定により、退任する評議員の任期満了の時までとなるため、2026年度に関する定時評議員会（2027年3月）の終結の時までとなる。

### 組織改革検討タスクフォース「理事会体制・業務執行体制の基本方針策定」

スポーツ庁の定めによるスポーツ団体ガバナンスコード（2024年4月適合性審査実施予定）への対応および、会長選挙を含む役員改選後の新体制構築を見据えた理事会の基本方針について、組織改革検討タスクフォースにて協議・検討した内容の通りとする（41～42ページ参照）。

理事会体制の基本方針

- (1)理事会の役割
- (2)理事会の人数・構成
- (3)理事会体制の変更に則した業務執行体制の基本方針

### 組織改革検討タスクフォース「理事会体制・業務執行体制の基本方針策定」に伴う定款の改正

理事会体制・業務執行体制の基本方針策定に伴い、定款を改正する。

改正日：7月30日

施行日：本年度定時評議員会の日（2024年3月末予定）

### 組織改革検討タスクフォース「役員の選任および会長等の選定プロセスの見直し」

役員および会長の選出方法をより透明性の高いものにするため、役員の選任および会長等の選定プロセスについて、組織改革検討タスクフォースにて協議・検討した内容の通りとする。

る「推薦」に対して、団体意思の反映が適切に行われているか確認できる方式に変更する。

（推薦における団体意思反映・推薦書の選出管理委員会への提出・推薦情報の開示）

- (1) 推薦依頼期間の新設／推薦依頼期間に行える活動の規程化  
推薦依頼期間の新設により、推薦依頼を行える期間を明確にするとともに、推薦依頼期間で行える活動を規定する。
- (2) 評議員推薦加盟団体による推薦／推薦情報の開示  
現行規程で団体意思の反映を求めず、かつ非公開情報として規定されていた

#### (3) 選挙期間の変更

選挙期間と重要な国際競技会であるAFCアジアカップの開催期間（1月12日から2月10日）の期間が重複することに鑑み、会長選出プロセスを1カ月程度前倒しする。

## 組織改革検討タスクフォース「役員を選任及び会長等の選定プロセスの見直し」に伴う関連規程・規則の改正

役員を選任および会長等の選定プロセスの見直しに伴い、「役員を選任及び会長等の選定に関する規程」と「会長予定者の選出に関するガイドライン」を改正する。

該当規程・規則

- (1) 役員を選任及び会長等の選定に関する規程
- (2) 会長予定者の選出に関するガイドライン

改正日：7月30日

施行日：7月30日

## 会長予定者選出管理委員会設置

「役員を選任及び会長等の選定に関する規程」に基づき、7月30日から12月24日に開催予定の臨時評議員会後の理事会が終結するまでの間、会長予定者選出管

理委員会を設置する。

<会長予定者選出管理委員会 委員>

	区分	名前		
構成	・退任を表明した会長	田嶋幸三		
	・理事のうち3名以内	三好豊（常務理事） 秋森学（理事） 田中琢二（理事） 補欠：山岸佐知子（理事）		
		・評議員のうち3名以内	下条夫美子（一般社団法人長野県サッカー協会 専務理事兼事務局長） 堀祐介（一般財団法人日本クラブユース連盟 理事長） 中山昭宏（横浜マリノス株式会社 代表取締役社長） 補欠：玉田稔（一般社団法人日本女子サッカーリーグ）	
			・有識者3名以内	佃秀昭（株式会社ボードアドバイザーズ 代表取締役社長） 藤沢久美（株式会社国際社会経済研究所 理事長） 馬淵明子（JFA顧問、国立西洋美術館 前館長） 補欠：植田昌利（公益財団法人東京都サッカー協会 副会長兼専務理事）
				・監事1名（議決権なし）

## 理事会体制・業務執行体制および選挙プロセスについて

日本サッカー協会（JFA）は5月18日に組織改革検討タスクフォースを設置し、2024年3月以降の理事会体制および業務執行体制の基盤構築について検討を重ねてきた。7月30日の臨時評議員会では、タスクフォースでの議論を踏まえ、「理事会体制・業務執行体制の基本方針」の策定とそれに伴う「定款」の改正、「役員を選任及び会長等の選定プロセスの見直し」、それらに関連する規程・規則の改正、また、会長予定者選出管理委員会の設置と同委員会の委員の選任について協議した。

### ■「理事会体制・業務執行体制の基本方針」策定

#### ●理事会体制

理事会体制と業務執行体制（理事会の役割）については、理事会を「監視・監督」と「政策形成」を行う場とし、「業務執行」の権限を特定の委員会委員長（全ての委員会ではなく、主たる業務執行と不可分な委員会）、もしくは事務総長に委譲し、業務執行の「監視・監督」「政策形成」「重要な業務執行」において専門性を発揮した議論を行う場とする【図1】。また、理事会の議事の絞り込みと集中化、適正な構成人数、理事会の開催頻度、加えて、他の会議体についても最適化を図ることとした。

現行の理事会は27人と監事3人（理事の人数にはカウントしない）で構成され、男性理事が22人で全体の比率は81.5%、女性と外部理事はそれぞれ5人で18.5%。理事のうち9人が地域サッカー協会（FA）代表

理事となっている。この体制を、十分な議論ができる9～15人以内のコンパクトなものにするとともに、スポーツ団体ガバナンスコードが求める女性理事の比率を40%に、外部理事を25%にして多様性を確保。理事の所属母体についても偏りを生じさせることなく、9地域・47都道府県FA、JリーグやWEリーグ、外部有識者・連盟などから多角的な意見を求められる構成を目指す。

スポーツ庁が定めるスポーツ団体ガバナンスコードには理事の任期について「原則として10年を超えて在籍しないよう」と記されているが、これについては現行の「理事及び監事の職務権限規則」にある役職別の4任期（8年）を継続。また、会長、副会長、専務理事、常務理事、理事および委員長、事務総長の役割と権限も再定義。理事／理事会を束ねて理事会を運営する業務執行理事（常勤）と専務理事1名を常時配置する。

理事には、例えば、「フットボール」の領域ではフットボールに関する技術的なことや審判に関すること、あるいは医学的ななどに精通した人材を、「マーケティング」の領域では、事業戦略やプロモーションなどの知識を持った人材、「マネジメント」領域では経営や事業管理など、「ガバナンス」領域では財務、法務など、その他にもIT（情報技術）やCSR（組織の社会的責任）といったように、それぞれの領域における専門知識や経験を有する人材を登用していく考えだ。理事会によって委譲された業務を執行するため、業務執行権を持つ特定の委員会を定め、そこに委員

次ページ左へ続く

長を配置。それ以外の業務は、原則として事務総長が執行権を持ち、なおかつ理事会への説明責任を負うものとする。

### ●業務執行体制

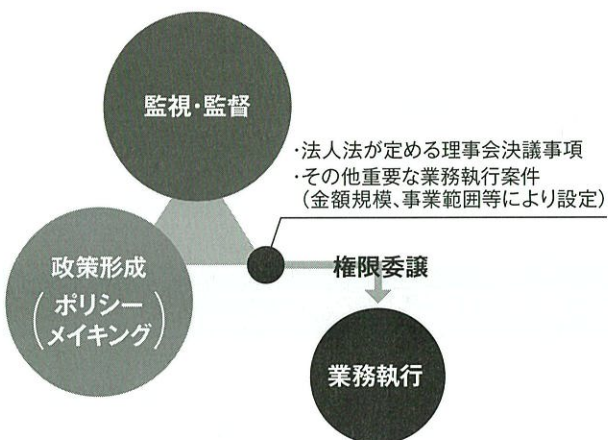
業務執行については、理事会決議により権限を委譲された特定の委員会委員長および事務総長が、新しく設定される決裁基準に則って業務執行・理事会報告を担う。

理事会を機能的に運営していくにあたり、理事会だけでなく、関連する会議体も体系的に整理する必要があると考え、理事から委譲された業務執行を行う決議機関として「政策会議（仮称）」を設置。ガバナンスを効かせて運営するほか、「47FA・9地域連絡会議（仮称）」を定期的に開催して47FAや9地域FAとの連携を図っていく。

これら理事会体制の基本方針変更に伴う「定款」の改正は7月30日で、施行日は2024年3月の定時評議員会の開催日（3月下旬予定）、「理事及び監事の職務権限規定」と「理事会運営規則」「常務理事会組織運営規則」の改正は第7回理事会が行われた7月13日で、施行日は定款同様に2024年3月下旬の評議員会の日となる。

【図1】理事会体制および業務執行体制の基本方針

## JFA 理事会



### ■役員の選任及び会長等の選定プロセスの見直し

#### ●選挙活動期間を前倒し、各プロセスを見直し

7月30日の臨時評議員会で「会長予定者選出管理委員会」（以下、選出管理委員会）の設置が決まり、現行の「役員の選任及び会長等の選定に関する規程」に則って、退任を表明した会長（田嶋幸三現会長）と理事会から3名以内、評議員から3名以内、有識者から3名以内、監事1名を選任した（本ページの「会長予定者選出管理委員会設置」参照）。委員会の事務的な手続きなどはJFA事務局が担う。

7月31日から約2カ月間は、立候補希望者の書類審査や対面審査を行うなど立候補希望者に対して事前に評価する期間とし、選出管理委員会が審議。この事前評価期間では、立候補希望者が推薦依頼や選挙活動をするのは一切禁止され、選出管理委員会の、立候補希望者に対する審査のみ行う期間となる。また、この立候補希望者の審査・評価に関しては、公正性や客観性を重視し、選出管理委員会の委員に加えて外部の専門機関に協力を依頼する。

なお、現行の「役員の選任及び会長等の選定に関する規程」では、立候補者の選挙活動期間は、12月の定時評議員会から1月に予定されている

臨時評議員会までの1カ月間で、1月の臨時評議員会における選挙によって会長予定者1名を選定することになっているが、来年1月12日から2月10日に開催されるAFCアジアカップとの重複を避け（重要な国際大会との重複によって変更を余儀なくされるケースに対応するため）、1カ月前倒して11月下旬から12月の臨時評議員会まで、に変更することとした。

### ●「推薦依頼期間」の新設

今回の「役員の選任及び会長等の選定プロセスの見直し」により、10月下旬からの約1カ月間を「推薦依頼期間」として新たに設定した。この期間、立候補希望者は評議員と評議員が所属する各加盟団体に対して推薦を依頼できる。一方、評議員が所属する評議員推薦加盟団体は、この期間に選出管理委員会から開示された立候補希望者の評価を基に誰を推薦するか、あるいは推薦しないかを検討する。推薦は評議員のみとし、立候補に必要な推薦者数については現行の20人から16人に変更（評議員総数の約20%）。そして、評議員による「推薦書」を選出管理委員会に提出する。

その後、選出管理委員会から評議員推薦加盟団体に対し、推薦した立候補希望者の氏名と全立候補希望者の獲得推薦数、推薦しない場合は「推薦なし」の情報と全立候補希望者の獲得推薦数が開示。立候補希望者に対しては各立候補希望者の推薦数が開示される。

この推薦情報の開示については、①評議員推薦加盟団体、立候補希望者らにとって透明性の高い推薦・選挙方式とすること、②評議員推薦加盟団体として、自団体の評議員が「団体の意思を反映した推薦」を行っているか確認すること、③推薦情報を非公開とすることで発生し得る不適切な活動を抑止すること、④評議員推薦加盟団体が団体として投票する際の参考となり得る情報を付与すること、を目的に行う。

なお、この推薦依頼期間の新設によって、推薦依頼を行うことができる期間を明確にするとともに、この期間に行える活動を規程に明記することも決定。今回の役員の選任及び会長等の選定プロセスの見直しに伴い、「役員の選任及び会長等の選定に関する規程」「会長予定者の選出に関するガイドライン」も改正する（施行日は7月30日）。

選挙期間は、会長予定者選挙の投票が行われる前までの約1カ月間（11月下旬から12月の臨時評議員会まで）とし、立候補者はその期間にマニフェストの公表などを含めた選挙活動を行う。そして、12月24日の臨時評議員会で投票を行って会長予定者を選定。3月の理事会と定時評議員会で選任された新しい理事会で次期会長を選任する。

- ① U-17日本代表 AFC U17アジアカップタイ2023
- ② U-15日本代表 韓国遠征
- ③ なでしこジャパン(日本女子代表) MS&ADカップ2023
- ④ U-19日本女子代表候補 トレーニングキャンプ
- ⑤ フットサル日本女子代表候補 トレーニングキャンプ
- ⑥ 2023 JFAナショナルGKキャンプ
- ⑦ JFAエリートプログラムU-14 トレーニングキャンプ

- ⑧ JFAエリートプログラムU-14フューチャー トレーニングキャンプ
- ⑨ JFAエリートプログラムU-13 トレーニングキャンプ
- ⑩ JFAエリートプログラム女子U-13 トレーニングキャンプ
- ⑪ 女子GKキャンプ
- ⑫ AFC U17アジアカップタイ2023

※NCS: ナショナルコーチングスタッフ、JC: JFAコーチ/ VAR: ビデオアシスタントレフェリー、AVAR: アシスタントビデオアシスタントレフェリー

## U-17日本代表 AFC U17アジアカップタイ2023

### 【スタッフ】

※56~59ページに関連記事あり

○団長: 反町康治(JFA技術委員長)※6月15日から ○監督: 森山佳郎(NCS) ○コーチ: 廣山望(NCS) ○GKコーチ: 高橋範夫(NCS) ○フィジカルコーチ: 村岡誠(NCS) ○ロールモデルコーチ: 中村憲剛(JFA)※6月8日から10日まで ○テクニカルスタッフ: 片桐央視(JFAテクニカルハウス)、渡邊秀朗(JFAテクニカルハウス)※6月15日から ※ゲストコーチとして、元日本代表の大黒将志氏(ガンバ大阪アカデミーストライカーコーチ)が6月8日から9日まで参加

### <選手>

Pos	名前	所属	Pos	名前	所属	
GK	上林大誠	モンテディオ山形ユース	FW	道脇豊	ロアッソ熊本	
	後藤亘	FC東京U-18		名和田我空	神村学園高等部	
	荒木琉偉	ガンバ大阪ユース		高岡伶凜	日童学園高校	
DF	吉永夢希	神村学園高等部	<トレーニングパートナー>※6月11日まで帯同			
	小杉啓太	湘南ベルマーレU-18	DF	大川佑梧※1	鹿島アントラーズユース	
	永野啓都	FC東京U-18		川口和也※2	東京ヴェルディユース	
	柴田翔太郎	川崎フロンターレU-18		島佑成※2	ヴィッセル神戸U-18	
	土屋楓大	川崎フロンターレU-18		FW	前田勘太郎※2	横浜FCユース
	本多康太郎	湘南ベルマーレU-18	※1: コンディション不良のため不参加 ※2: 追加招集			
	松本遥翔	鹿島アントラーズユース	<スケジュール>			
	黒木雄也	サガン鳥栖U-18	6月7日	集合、トレーニング(重兵衛スポーツフィールド中台 陸上競技場)		
MF	宮川大輝	ガンバ大阪ユース	8日	トレーニング(重兵衛スポーツフィールド中台 陸上競技場)		
	中島洋太郎	サンフレッチェ広島ユース	9~10日	練習試合 vs 鹿島アントラーズユース(重兵衛スポーツフィールド中台 陸上競技場)		
	川村楽人	東京ヴェルディユース	トレーニング(重兵衛スポーツフィールド中台 陸上競技場)			
	杉浦駿吾	名古屋グランパスU-18	練習試合 vs 鹿島アントラーズユース(重兵衛スポーツフィールド中台 陸上競技場)			
	山本丈偉	東京ヴェルディユース	トレーニング(重兵衛スポーツフィールド中台 陸上競技場)			
	望月耕平	横浜F・マリノスユース	練習試合 vs 鹿島アントラーズユース(重兵衛スポーツフィールド中台 陸上競技場)			
	矢田龍之介	清水エスパルスユース	トレーニング(重兵衛スポーツフィールド中台 陸上競技場)			
	佐藤龍之介	FC東京U-18	練習試合 vs 筑波大学(重兵衛スポーツフィールド中台 陸上競技場)			
山口豪太	昌平高校	陸上競技場)				

11日	練習試合 vs 筑波大学(重兵衛スポーツフィールド中台 陸上競技場)
12日	成田発、バンコク着
13~14日	トレーニング
15~16日	トレーニング(Yamaoka Hanasaka Academy)
17日	AFC U17アジアカップタイ2023 グループステージ第1戦 vs U-17ウズベキスタン代表(Rajamangala National Stadium)
18日	トレーニング(Dome Football Field)
19日	トレーニング(Yamaoka Hanasaka Academy)
20日	グループステージ第2戦 vs U-17ベトナム代表(Rajamangala National Stadium)
21日	トレーニング(BG Training Center)
22日	トレーニング(Yamaoka Hanasaka Academy)
23日	グループステージ第3戦 vs U-17インド代表(Rajamangala National Stadium)
24~25日	トレーニング
26日	準々決勝 vs U-17オーストラリア代表(Pathum Thani Stadium)
27~28日	トレーニング
29日	準決勝 vs U-17イラン代表(Thammasat Stadium)
30~7月1日	トレーニング
2日	決勝 vs U-17韓国代表(Pathum Thani Stadium)
3日	バンコク発、羽田着、解散

### ■グループステージ

順位	グループA	タイ	イエメン	マレーシア	ラオス	試合	勝	分	負	得点	失点	差
1	タイ	100	300	201	9	3	0	0	6	1	5	
2	イエメン	0●1	400	201	6	2	0	1	6	2	4	
3	マレーシア	0●3	0●4	201	3	1	0	2	2	8	-6	
4	ラオス	1●2	1●2	1●2	0	0	0	3	3	6	-3	

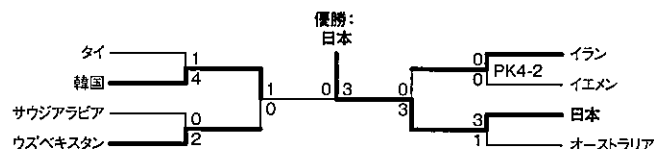
順位	グループB	イラン	韓国	アフガニスタン	カタール	試合	勝	分	負	得点	失点	差
1	イラン	200	601	0△0	7	2	1	0	8	1	7	
2	韓国	0●2	400	601	6	2	0	1	10	3	7	
3	アフガニスタン	1●6	0●4	201	3	1	0	2	3	11	-8	
4	カタール	0△0	1●6	1●2	1	0	1	2	2	8	-6	

順位	グループC	サウジアラビア	オーストラリア	タジキスタン	中国	試合	勝	分	負	得点	失点	差
1	サウジアラビア	200	200	300	9	3	0	0	7	0	7	
2	オーストラリア	0●2	200	503	6	2	0	1	7	5	2	
3	タジキスタン	0●2	0●2	1△1	1	0	1	2	1	5	-4	
4	中国	0●3	3●5	1△1	1	0	1	2	4	9	-5	

順位	グループD	日本	ウズベキスタン	インド	ベトナム	試合	勝	分	負	得点	失点	差
1	日本	1△1	804	400	7	2	1	0	13	5	8	
2	ウズベキスタン	1△1	100	100	7	2	1	0	3	1	2	
3	インド	4●8	0●1	1△1	1	0	1	2	5	10	-5	
4	ベトナム	0●4	0●1	1△1	1	0	1	2	1	6	-5	

○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

### ■ノックアウトステージ



### ■大会各賞

MVP: 名和田我空(日本)  
得点王: 名和田我空(日本)  
最優秀GK賞: 後藤亘(日本)

グループステージ 第1戦

U-17日本代表 1 (前半1-0 後半0-1) 1 U-17ウズベキスタン代表

●2023年7月17日 17:00 ●Rajamangala Stadium ●試合時間:90分 ●審判員: [主審]MONGKOLCHAI PECHSRI(THA) [副審]PATTARAPONG KIJSAITHIT(THA) / OMAR ALI ALJAMAL(KSA) [第4の審判員]KIM JONG HYEOK(KOR) ●マッチコミッショナー:AKSHAY ROHATGI(IND) ●観衆:421人

日本(監督:森山佳郎):[GK](1)後藤亘 [DF](2)松本遥翔(3)小杉啓太(4)土屋權大(5)永野修都(13)吉永夢希<-60'(20)川村楽人> [MF](6)矢田龍之介(10)佐藤龍之介(15)山本丈偉 [FW](9)道脇豊<-69'(11)高岡侑真>(14)名和田我空<-69'(7)杉浦駿吾> 控え:(12)上林大誠(23)荒木琉偉(8)望月耕平(16)本多康太郎(17)柴田翔太郎(18)中島洋太郎(19)宮川大輝(21)山口豪太(22)黒木雄也

ウズベキスタン(監督:RAKHMATULLAEV JAMOLIDDIN):[GK](21)MUHAMMADYUSUF SOBIROV [DF](6) OZODBEK UKTAMOV (13) BEKHRUZ DJUMATOV (19) SHERZODBEK ABDULBORIEV(23)DILSHOD ABDULLAEV <-59'(3)MUKHAMMAD-BOBUR > [MF](5) AZIZBEK TULKUNBEKOV(7) LAZIZBEK MIRZAEV <-88'(2) AMINBEK YOKUBOV > (17) OLLABERGAN KARIMOV (20) OYBEK URMONOV <-74'(9) AMIRBEK SAIDOV > [FW](8) BEKHRUZ SHUKURULLAEV <-HT(11) KUVONCHBEK ABRAEV > (14) SHODIYOR SHODIBOEV

控え:(1)DIYORBEBEK TULABOEV (12) ASILBEK NUMONOV (4) ASRORBEBEK OTAKHONOV(10)ABDULKHAMID TURGUNABOEV(15)IKROMOV ABDULHAMID(16) MUKHAMMEDALI REIMOV(18)NIKOLAOS AKOPOV(22)MAMADALIKHON OLIMOV

得点 [日本]8'道脇豊(1-0) [ウズベキスタン]83'AMIRBEK SAIDOV(1-1) 警告 [日本]16'土屋權大 [ウズベキスタン]28'OLLABERGAN KARIMOV

グループステージ 第3戦

U-17日本代表 8 (前半3-0 後半5-4) 4 U-17インド代表

●2023年6月23日 19:00 ●Rajamangala Stadium ●試合時間:90分 ●審判員: [主審]NASRULLO KABIROV(TJK) [副審]BURIYEV AKMAL(TJK) / JASEM ABDULLA YOUSEF ABDULLA AL-ALI(UAE) [第4の審判員]MONGKOLCHAI PECHSRI(THA) ●マッチコミッショナー:DANNY ZENG(CHN) ●観衆:274人

日本(監督:森山佳郎):[GK](12)上林大誠 [DF](3)小杉啓太<-46'(13)吉永夢希>(5)永野修都(16)本多康太郎(17)柴田翔太郎<-46'(7)杉浦駿吾> [MF](6)矢田龍之介(8)望月耕平<-90'(21)山口豪太>(19)宮川大輝(20)川村楽人<-73'(18)中島洋太郎> [FW](11)高岡侑真(14)名和田我空<-46'(22)黒木雄也> 控え:(1)後藤亘(23)荒木琉偉(4)土屋權大(9)道脇豊(10)佐藤龍之介(15)山本丈偉

インド(監督:BIBIANO FERNANDES):[GK](1)SAHIL [DF](2)RICKY MEETEI HAOBAM (3) SURAJKUMAR SINGH NGANGBAM (4) MUKUL PANWAR (12) MALEMNGAMBA SINGH THOKCHOM [MF](6) GURNAJ SINGH GREWAL (7) KOROU SINGH THINGUJAM (10) VANLALPEKA GUTE (11) LALPEKHLUA <-90+3'(14) GOGOCHA CHUNGKHAM > (17)DANNY MEITEI LAISHRAM <-88'(8)AKASH TIRKEY > [FW](9)THANGLALSOUN GANGTE <-85'(18)SHASHWAT PANWAR >

控え:(13)JULFIKAR GAZI(21)PRANAV SUNDARRAMAN(5)PRACHIT VISHWAS(15) LEMMET TANGVAH(16)OMANG DODUM(19) FAIZAN WAHEED(20) DHANAJIT ASHANGBAM(23)ROHEN SINGH CHAPHAMAYUM

得点 [日本]14'川村楽人(1-0)、41'、45'名和田我空(2-0)(3-0)、52'永野修都(4-1)、54'望月耕平(5-1)、74'中島洋太郎(6-3)、90+6'山口豪太(7-4)、90+7'杉浦駿吾(8-4) [インド]47'MUKUL PANWAR(1-1)、62'DANNY MEITEI LAISHRAM(5-2)、69'オウゴンゴール(5-3)、79'KOROU SINGH THINGUJAM(6-4) 警告 [インド]66'MUKUL PANWAR

準決勝

U-17日本代表 3 (前半2-0 後半1-0) 0 U-17イラン代表

●2023年6月29日 17:00 ●Thammasat Stadium ●試合時間:90分 ●審判員: [主審]NASRULLO KABIROV(TJK) [副審]BURIYEV AKMAL(TJK) / ISMAILZHAN TALIPZHANOV(KGZ) [第4の審判員]AHMED FAISAL ALALI(JOR) ●マッチコミッショナー:DANNY ZENG(CHN) ●観衆:298人

日本(監督:森山佳郎):[GK](1)後藤亘 [DF](2)松本遥翔(3)小杉啓太(4)土屋權大(5)永野修都 [MF](6)矢田龍之介(8)望月耕平<-90'(7)杉浦駿吾>(10)佐藤龍之介<-79'(11)高岡侑真>(15)山本丈偉<-71'(14)名和田我空>(20)川村楽人<-71'(18)中島洋太郎> [FW](9)道脇豊<-79'(16)本多康太郎> 控え:(12)上林大誠(23)荒木琉偉(13)吉永夢希(17)柴田翔太郎(19)宮川大輝(21)山口豪太(22)黒木雄也

イラン(監督:HOSSEIN ABDI):[GK](1) ARSHA SHAKOURI [DF](2)NIMA ANDARZ (3) HESAM NAFARI NOGOURANI (4) ALIREZA HOMAEIFARD (5) RFAN DARVISH AALI [MF](7)ESMAEIL GHOLIZADEH SAMIAN <-86'(21)ABOLFAZL MOREDI>(8) AMIRMOHAMMAD RAZAGHINIA <-72'(14) ZARGHAM SAADAVI > (16) ABOLFAZL ZAMANI <-72'(6) SAMIR HOBOBATI > (18) MAHAN SADEGHI DIGEHSARA <-86'(19)SEYED FARJAD FAYAZ > [FW](10)KASRA TAHERI(17)REZA GHANDI POUR <-62'(15)MOHAMMAD ASKARI >

控え:(12) MOHAMMADHOSSEIN SHARIFI (22) MOHAMMADFARZAD RAHIMI (11) ALIREZA SHARIFI(13)MEHDI JENADELEH(20)HAMID REZA SHAMSI

得点 [日本]10'矢田龍之介(1-0)、25'望月耕平(2-0)、74'佐藤龍之介(3-0) 警告 [日本]75'佐藤龍之介 [イラン]45+1'KASRA TAHERI、72'ABOLFAZL ZAMANI

グループステージ 第2戦

U-17日本代表 4 (前半1-0 後半3-0) 0 U-17ベトナム代表

●2023年7月20日 17:00 ●Rajamangala Stadium ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]ALI REDA(LBN) [副審]OMAR ALI ALJAMAL(KSA) / FADI MAHMOUD(SYR) [第4の審判員]AHMED FAISAL ALALI(JOR) ●マッチコミッショナー:AKSHAY ROHATGI(IND) ●観衆:294人

日本(監督:森山佳郎):[GK](1)後藤亘 [DF](3)小杉啓太<-83'(22)黒木雄也>(4)土屋權大(16)本多康太郎(17)柴田翔太郎 [MF](7)杉浦駿吾<-HT(13)吉永夢希>(8)望月耕平(10)佐藤龍之介<-73'(21)山口豪太>(15)山本丈偉<-73'(19)宮川大輝>(18)中島洋太郎 [FW](9)道脇豊<-73'(11)高岡侑真> 控え:(12)上林大誠(23)荒木琉偉(5)永野修都(6)矢田龍之介(14)名和田我空(20)川村楽人

ベトナム(監督:HOANG ANH TUAN):[GK](13)NGUYEN BAO NGOC [DF](2)PHAN VAN THANH <-HT(4) LE NGUYEN QUOC TRUNG > (3) NGUYEN LUONG TUAN KHAI <-62'(16) NGUYEN HOANG NAM > (5) DANG THANH BINH (12) NGUYEN QUOC KHANH [MF](6) PHAM NGUYEN QUOC TRUNG (7) VI DINH THUONG <-69'(20)DINH QUANG KIET > (8)LE DINH LONG VU(9)NGUYEN CONG PHUONG (21)PHUNG VAN NAM <-HT(10)NGUYEN THIEN PHU > [FW](19)NGUYEN LE PHAT <-HT(14)LE HUYNH TRIEU >

控え:(1)PHAM DINH HAI(23)NGUYEN QUANG HUY (11)PHUNG QUANG TU (15) BUI VAN HOANG (17)LE NGUYEN QUOC KIEN (18)NGUYEN HUU TRONG(22) HOANG CONG HAU

得点 [日本]2'道脇豊(1-0)、59'、74'望月耕平(2-0)(4-0)、66'佐藤龍之介(3-0) 警告 [ベトナム]90+2'LE HUYNH TRIEU

準々決勝

U-17日本代表 3 (前半2-0 後半1-1) 1 U-17オーストラリア代表

●2023年7月26日 17:00 ●Pathum Thani Stadium ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]MONGKOLCHAI PECHSRI(THA) [副審]PATTARAPONG KIJSAITHIT(THA) / OMAR ALI ALJAMAL(KSA) [第4の審判員]RUSTAM LUTFULLIN(UZB) ●マッチコミッショナー:MOHD SHAHNON(BRU) ●観衆:457人

日本(監督:森山佳郎):[GK](1)後藤亘 [DF](3)小杉啓太(5)永野修都<-90+3'(4)土屋權大>(13)吉永夢希<-83'(20)川村楽人>(16)本多康太郎(17)柴田翔太郎 [MF](10)佐藤龍之介(15)山本丈偉<-68'(6)矢田龍之介>(18)中島洋太郎 [FW](9)道脇豊(14)名和田我空<-68'(11)高岡侑真> 控え:(12)上林大誠(23)荒木琉偉(2)松本遥翔(7)杉浦駿吾(8)望月耕平(19)宮川大輝(21)山口豪太(22)黒木雄也

オーストラリア(監督:BRAD MALONEY):[GK](1) ANTHONY PAVLESIC [DF](5) BAILEY O'NEIL <-90'(20)CAMPBELL DOVISON > (6) ANDRIANO LEBIB <-74'(11) TIAGO QUINTAL > (13) ZACHARY DE JESUS <-HT(22)NATHAN AMANATIDIS > (15) NATHAN BARRIE [MF](10) MIGUEL DI PIZIO (14) GIOVANNI DE ABREU <-HT(2)PETER ANTONIOU > (16)EDWARD INCE(21)FABIAN TALLADIRA [FW](7) DANIEL BENNIE(17)NESTORY IRANKUNDA

控え:(12) DANIEL GRASKOSKI(18)MICHAEL VONJA (3) ADEN GREEN (4) SOTIRI PHILLIS(8) COREY SUTHERLAND(19)RICHARD NKOMO(23)JOR HOEY

得点 [日本]10'名和田我空(1-0)、23'道脇豊(2-0)、75'高岡侑真(3-1) [オーストラリア]61'NESTORY IRANKUNDA(2-1) 警告 [オーストラリア]42'GIOVANNI DE ABREU、69'ANDRIANO LEBIB、87'PETER ANTONIOU、90+2'NESTORY IRANKUNDA

決勝

U-17日本代表 3 (前半1-0 後半2-0) 0 U-17韓国代表

●2023年7月2日 19:00 ●Pathum Thani Stadium ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]MONGKOLCHAI PECHSRI(THA) [副審]PATTARAPONG KIJSAITHIT(THA) / JASEM ABDULLA YOUSEF ABDULLA AL-ALI(UAE) [第4の審判員]AHMED FAISAL ALALI(JOR) ●マッチコミッショナー:MOHD SHAHNON(BRU) ●観衆:2,660人

日本(監督:森山佳郎):[GK](1)後藤亘 [DF](3)小杉啓太(4)土屋權大<-86'(5)永野修都>(13)吉永夢希<-86'(20)川村楽人>(16)本多康太郎(17)柴田翔太郎 [MF](6)矢田龍之介<-61'(8)望月耕平>(10)佐藤龍之介(18)中島洋太郎<-79'(15)山本丈偉> [FW](9)道脇豊(14)名和田我空 控え:(12)上林大誠(23)荒木琉偉(2)松本遥翔(7)杉浦駿吾(11)高岡侑真(19)宮川大輝(21)山口豪太(22)黒木雄也

韓国(監督:BYUN SUNG HWAN):[GK](23) HONG SEONGMIN [DF](3) LEE CHANGWOO (4) KANG MINWOO (15) SEO JEONGHYEOK <-74'(2) LEE SURO > (20) KO JONGHYUN [MF](7) YOON DOYONG <-74'(14) KIM HYUNMIN > (8) BACK INWOO (9) KIM MYEONGJUN (10) JIN TAEHO <-61'(17) PARK SEUNGSOO > (11) YANG MINHYEOK <-45+3'(5) YOU MINJUN > (16) LIM HYUNSUB <-61'(19) KIM SEONGJU >

控え:(1)JOO SEUNGMIN(21)YOUN JEHOON(6)CHA JEHOON(12)HWANG JISUNG (13)KIM YUGEON(18)LEE JAEHWAN(22)PARK HYUNMIN

得点 [日本]45+1'、66'名和田我空(1-0)(2-0)、90+6'道脇豊(3-0) 警告 [日本]56'矢田龍之介 [韓国]14'、44'KO JONGHYUN、90'KIM SEONGJU 退場 [韓国]44'KO JONGHYUN

データボックス

# U-15日本代表 韓国遠征

## 【スタッフ】

○団長: 大橋浩司(JFA技術副委員長) ○監督: 平田礼次(NCS) ○コーチ: 西脇徹也(JC) ○GKコーチ: 井出大志(NCS) ○フィジカルコーチ: 矢野由治(NCS)

## <選手>

Pos.	名前	所属
GK	山田真叶	サンフレッチェ広島ジュニアユース
	松浦大翔	アルビレックス新潟U-15
DF	梅田大翔	サンフレッチェ広島ユース
	横井佑弥	ガンバ大阪ジュニアユース
	渡邊春来	東京ヴェルディジュニアユース
	田中遥大	FC東京U-15深川
	大島琉空	VIVAIO船橋ジュニアユース
	白男川幹斗	名古屋グランパスU-15
	森井莉人	サンフレッチェ広島ジュニアユース
	高橋温郎	浦和レッズジュニアユース
	米澤勇弥	サガン鳥栖U-15
	MF	廣岡瑛太
今井宏亮		東京ヴェルディユース
島垣彪		ジェフユナイテッド千葉U-18
山下翔音		ヴィッセル神戸U-15
土井口立		ヴィッセル神戸U-15
神田泰斗		大宮アルディージャU15
武本匠平		アビスパ福岡U-15
山本琉樞		京都サンガF.C.U-15
加茂結斗		柏レイソルU-15
FW		葛西夢吹※1
	奥田悠真	川崎フロンターレU-15生田
	吉田濱海	FC多摩ジュニアユース
	安西来起	さぬき南中学校

※1: コンディション不良のため不参加

## <スケジュール>

6月26日 集合、トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)  
成田発、インチョン着  
27日 トレーニング(Paju Football Center)  
28日 第1試合 vs U-15韓国代表(Paju Football Center)  
29日 トレーニング(Paju Football Center)  
30日 第2試合 vs U-15韓国代表(Paju Football Center)  
インチョン発、成田着、解散



第1試合・U-15日本代表 vs U-15韓国代表

# なでしこジャパン(日本女子代表) MS&ADカップ2023

※60ページに関連記事あり

## 【スタッフ】

○団長: 佐々木剛夫(JFA女子委員長) ○監督: 池田太(NCS) ○コーチ: 宮本ともみ(NCS), 寺口謙介(NCS) ○GKコーチ: 西入俊浩(NCS) ○フィジカルコーチ: 大塚慶輔(NCS)  
○テクニカルスタッフ: 見原隼(JFAテクニカルハウス)

## <選手>

Pos.	名前	所属
GK	山下杏也加	INAC神戸レオネッサ
	平尾知佳	アルビレックス新潟レディース
FP	田中桃子	日テレ・東京ヴェルディベレーザ
	熊谷紗希	ASローマ(ITA)
	猶本光	三菱重工浦和レッズレディース
	田中美南	INAC神戸レオネッサ
	三宅史織	INAC神戸レオネッサ
	清水梨紗	ウェストハム・ユナイテッド(ENG)
	清家貴子	三菱重工浦和レッズレディース
	守屋都弥	INAC神戸レオネッサ
	長谷川唯	マンチェスター・シティ(ENG)
	杉田紀和	ポートランド・ソーンズFC(USA)
	林穂之香	ウェストハム・ユナイテッド(ENG)
	南萌華	ASローマ(ITA)
	長野風花	リバプールFC(ENG)
	千葉玲海菜	ジェフユナイテッド市原・千葉レディース
	植木理子	日テレ・東京ヴェルディベレーザ

Pos.	名前	所属
FP	宮澤ひなた	マイナビ仙台レディース
	高橋はな	三菱重工浦和レッズレディース
FP	遠藤純	エンジェル・シティFC(USA)
	石川璃音	三菱重工浦和レッズレディース
	藤野あおば	日テレ・東京ヴェルディベレーザ
	浜野まいか	ハンマルビー IF(SWE)

ITA: イタリア, ENG: イングランド, USA: アメリカ, SWE: スウェーデン

## <トレーニングパートナー>

Pos.	名前	所属
GK	大場朱羽	ミシシッピ州立大学(USA)
FP	松窪真心	マイナビ仙台レディース
	小山史乃観	セレッソ大阪ヤンマーレディース
	谷川萌々子	JFAアカデミー福島
	古賀塔子	JFAアカデミー福島

USA: アメリカ

## <スケジュール>

■トレーニングキャンプ  
6月27日 集合  
トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)  
6月28日~7月6日 トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)  
■MS&ADカップ2023  
7月10日 集合  
トレーニング(ユアテックススタジアム仙台)  
11~12日 トレーニング(泉サッカー場)  
13日 公式トレーニング(ユアテックススタジアム仙台)  
14日 MS&ADカップ2023 vs パナマ女子代表(ユアテックススタジアム仙台)  
15日 トレーニング(泉サッカー場)  
成田発  
16日 クライストチャーチ着

## ■パナマ女子代表 来日メンバー

Pos.	名前	所属
GK	サシャ・ファブレガ	クルブ・アトレティコ・インデペンディエンテ
	ジュニス・ベイリア	タウロFC
DF	ファリッサ・コルドバ	クルブ・ニャス(ECU)
	レベッカ・エスピノサ	スポルティングSM
	キャサリン・カスティヨ	タウロFC
	ヨミラ・ピンソン	デポルティボ・サブリス(CRC)
	カリナ・バルトリブ	CSマリテモ(POR)
	ホットニ・デバルディア	エレディアノ(CRC)
	ロサリオ・バルガス	ラジョ・パジェカノ(ESP)
	ウェンディー・ナティス	アメリカ・カリ(COL)
	ヒラリー・ハエン	サウス・アラバマ(USA)
	MF	ナタリア・ミルズ

Pos.	名前	所属
MF	シアンドラ・ゴンサレス	タウロFC
	ローリー・パティスタ	タウロFC
FW	マルタ・コックス	パチューカ(MEX)
	エリカ・エルナンデス	CDプラサ・アマドル
	カルメン・モンテネグロ	スポルティングSM
	オルドリス・キンテロ	アラマCF(ESP)
	エミリー・セデニョ	タウロFC
	ディサイレ・サラサル	タウロFC
	カーラ・ライリー	スポルティングCR(CRC)
タナー・ライリー	ワシントン・スピリット(USA)	
	リネス・セデニョ	スポルティングSM

ECU: エクアドル, CRC: コスタリカ, POR: ポルトガル, ESP: スペイン, COL: コロンビア, USA: アメリカ, MEX: メキシコ

監督 イグナシオ・キンタナ

## <スケジュール>

7月13日 公式トレーニング(ユアテックススタジアム仙台)  
7月14日 MS&ADカップ2023 vs なでしこジャパン(日本女子代表)  
(ユアテックススタジアム仙台)

MS&AD カップ 2023

なでしこジャパン 5 (前半2-0 後半3-0) 0 パナマ女子代表

●2023年7月14日 19:05 ●ユアテックススタジアム仙台 ●試合時間:90分 ●審判員:  
[主審] ララ・リー(AUS) [副審] スパワン・ヒントン(THA) / ヌアノド・ドンジャングリー  
D(THA) [第4の審判員] 兼松春奈 ●マッチコミッショナー: 北村俊 ●観衆: 10,206人

日本 (監督: 池田太): [GK] (1) 山下杏也加 [DF] (2) 清水梨紗 (3) 南萌華 (4) 熊谷紗希 (23) 石川璃音 <-83' (12) 高橋はな > [MF] (7) 宮澤ひなた <-69' (8) 猶本光 > (10) 長野風花 (13) 遠藤純 <-HT (17) 清家貴子 > (14) 長谷川唯 <-69' (16) 林穂之香 > (15) 藤野あおば <-62' (20) 浜野まいか > [FW] (11) 田中美南 <-HT (9) 植木理子 >

控え: (18) 田中桃子 (21) 平尾知佳 (5) 三宅史織 (6) 杉田妃和 (19) 守屋都弥 (22) 千葉玲海菜 (24) 谷川萌々子 (25) 古賀塔子

パナマ (監督: イグナシオ・キンタナ): [GK] (12) ジェニス・ベイリー [DF] (2) ヒラリー・ハエン <-54' (15) ロサリオ・バルガス > (3) ウェンディー・ナティス <-84' (14) カルメン・モンテネグロ > (4) キャサリン・カスティージョ (5) ヨミラ・ビンソン (23) カリナ・バルトリブ <-84' (16) レベッカ・エスピノサ > [MF] (7) エミリー・セデニョ (8) シアンドラ・ゴンサレス <-65' (6) ディサイレ・サラサル > (10) マルタ・コックス (20) オルドリス・キンテロ [FW] (13) タナー・ライリー <-65' (11) ナタリア・ミルズ >

控え: (1) サシャ・ファブレガ (22) ファリッサ・コルドバ (9) カーラ・ライリー (17) ローリー・バティスタ (18) エリカ・エルナンデス (19) リネス・セデニョ (21) ホットニー・デオバルディア

得点 [日本] 33' 清水梨紗 (1-0)、37'、61' 長谷川唯 (2-0) (4-0)、60' 藤野あおば (3-0)、90+2' 南萌華 (5-0)

警告 [パナマ] 39' シアンドラ・ゴンサレス、68' ディサイレ・サラサル、85' レベッカ・エスピノサ



MS&ADカップ2023・なでしこジャパン VS パナマ女子代表

U-19日本女子代表候補 トレーニングキャンプ(福島、千葉)

【スタッフ】

○監督: 狩野倫久 (NCS / SAGAWA SHIGA FC) ○コーチ: 岡本三代 (NCS) ○GKコーチ: 小林忍 (NCS) ○フィジカルコーチ: 中西健一郎 (静岡産業大学)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	大熊茜	ジェフユナイテッド市原・千葉レディース	MF	白沢百合恵	アルビレックス新潟レディース	FW	栗本悠加	セレッソ大阪ヤンマーガールズU-18
	ウルフ・ジェンガ統	日テレ・東京ヴェルディメニナ		林愛花	MVLA Soccer Club			
	鹿島彩莉	JFAアカデミー福島		榎原琴乃	ノジマステラ神奈川相模原			
DF	柏村菜那	日テレ・東京ヴェルディベレーザ		笹井一愛	ノジマステラ神奈川相模原			
	佐々木里緒	マイナビ仙台レディース		角田楓佳※2	三菱重工浦和レッズレディース			
	米田博美	セレッソ大阪ヤンマーレディース		松永未夢	日テレ・東京ヴェルディメニナ			
	小山史乃観	セレッソ大阪ヤンマーレディース	FW	土方麻椰	日テレ・東京ヴェルディメニナ			
	中谷莉奈	セレッソ大阪ヤンマーレディース		根府桃子	大和シルフィード			
	池上聖七	日テレ・東京ヴェルディベレーザ		氏原里穂	日テレ・東京ヴェルディメニナ			
	白垣うの	セレッソ大阪ヤンマーレディース		松窪真心	マイナビ仙台レディース			
	松本はな※1	ちふれASエルフェン埼玉		小川由姫	ジェフユナイテッド市原・千葉レディース			
MF	天野紗	INAC神戸レオネッサ		種渡百花	日テレ・東京ヴェルディメニナ			

※1: 追加招集  
※2: ケガのため不参加

<スケジュール>

7月17日 集合、移動  
トレーニング (Jヴィレッジ)  
18日 練習試合 vs U20東日本学連選抜 (Jヴィレッジ)  
19日 トレーニング (Jヴィレッジ)  
20日 トレーニング (Jヴィレッジ)  
移動  
21日 練習試合 vs ジェフユナイテッド市原・千葉レディース (高円宮記念JFA夢フィールド)  
解散

フットサル日本女子代表候補 トレーニングキャンプ(高円宮記念 JFA 夢フィールド)

【スタッフ】

○監督: 須賀雄大 (NCS) ○コーチ: 藤田安澄 (湘南ベルマーレ) ○GKコーチ: 富澤孝 (バルドラール浦安) ○フィジカルコーチ: 大森知 (フウガドールすみだ)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	佐藤麻陽	アルコ神戸	FP	江口未珂	バルドラール浦安ラス・ポニータス
	井上ねね※1	立川アスレティックFCレディース		倉持杏子	バルドラール浦安ラス・ポニータス
	須藤優理亜	フウガドールすみだレディース		四井沙樹	Burela FS (ESP)
	中田風咲※2	SWH Ladies西宮Futsal Club		江川涼	SWH Ladies西宮Futsal Club
FP	筏井りさ	バルドラール浦安ラス・ポニータス		高島早奈恵	アルコ神戸
	網城安奈	SWH Ladies西宮Futsal Club		松本直美	バルドラール浦安ラス・ポニータス
	平井成美	バルドラール浦安ラス・ポニータス		伊藤沙世	アルコ神戸
	藤田実桜	立川アスレティックFCレディース		追野沙羅	SWH Ladies西宮Futsal Club
	宮原ゆかり	バルドラール浦安ラス・ポニータス		山川里佳子	アルコ神戸
	伊藤果穂	バルドラール浦安ラス・ポニータス		中島菜月	アルコ神戸

<スケジュール>

7月24日 集合  
トレーニング (高円宮記念JFA夢フィールド)  
25日 トレーニング (高円宮記念JFA夢フィールド)  
26日 練習試合 vs バルドラール浦安テルセーロ (男子高校生) (高円宮記念JFA夢フィールド)  
解散

ESP: スペイン  
※1: コンディション不良のため不参加  
※2: 追加招集

2023 JFA ナショナル GK キャンプ (J-GREEN 堺)

【スタッフ】

○コーチ: フランス・フック (JFAGK プロジェクトテクニカルアドバイザー)、川俣則幸 (JC)、加藤好男 (JC)、大橋昭好 (JC)、井出大志 (NCS (U-16 / U-15 日本代表 GK コーチ))、井嶋正樹 (JC)、岡本理生 (JC / JFA アカデミー 熊本宇城)、阿部陽輔 (JFA アカデミー 福島 EAST U-15)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	吉田那大	北海道コンサドーレ札幌U-15	GK	相馬大輝	松本山雅FC U-15	GK	河野央貴	サンフレッチェ広島F.C. ジュニアユース
	シュルツ建斗	鹿島アントラーズつくばジュニアユース		瀧澤大	清水エスパルスジュニアユース		泉本陽向	カマタマーレ讃岐U-15
	三崎斗馬	鹿島アントラーズジュニアユース		宮本大楓	FC桜が丘ジュニアユース		上山葉叶	FCソレア・ダ高知
	福田誠太	東京ヴェルディジュニアユース		加曾利悠馬	京都サンガF.C. U-15		松浦夢真	ソレックス宮崎U-15
	朝来野透和	FC東京U-15むさし		渡辺隼	セレッソ大阪U-15		柿田龍希	V・ファーレン長崎 U-15
	栗田蓮	FC東京U-15深川		久留米勝希	ヴィッセル神戸U-15		浅野翔多朗	JFAアカデミー福島U-15EAST
	小村風人	川崎フロンターレU-15生田		橋田武蔵	ファジアーノ岡山U-15			

<スケジュール>

6月23~25日 トレーニング (J-GREEN堺)



## JFA エリートプログラムU-14 トレーニングキャンプ(Jヴィレッジ)

【スタッフ】

○監督: 木村康彦(JC) ○コーチ: 大久保毅(鹿児島県FAコーチ)、坂谷武春(東京ヴェルディ) ○GKコーチ: 大橋昭好(JC)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	大下幸誠	鹿島アントラーズつくばジュニアユース	FP	西野陽向	ジュビロ磐田U-15
	長井志郎※1	ロアッソ熊本ジュニアユース		池田颯太	横浜FC U-15
FP	エビケ・チカヅネ	セレッソ大阪西U-15	高木瑛人	鹿島アントラーズジュニアユース	
	永添功樹	セレッソ大阪U-15	小枝翔太郎	ジュビロ磐田U-15	
	滝澤周生	鹿島アントラーズジュニアユース	熊田佳斗	大宮アルディージャ U-15	
	澤田卓磨	清水エスパルスジュニアユース	土屋俊太	SHOSHI FC U-15	
	小笠原史	鹿島アントラーズジュニアユース	堤清史郎	ファジアーノ岡山U-15	
	高橋成海	徳島ヴォルティスジュニアユース	小園慶之朗	神村学園中等部	
	弓場颯	大分トリニータU-15宇佐	落合哉太	JFAアカデミー福島U-15 EAST	
	小杉将太	VIVAO船橋SC	齋藤隼心※2	JFAアカデミー福島U-15 EAST	
	原口悠生	北海道コンサドーレ室蘭U-15	川村求※2	横河武蔵野FC U-15	
	松本空	セレッソ大阪U-15			
	藤谷琉	ツエーゲン金沢U-15			

※1: ケガのため不参加  
※2: 追加招集

<スケジュール>

6月28~29日 トレーニング(Jヴィレッジ)  
30日 トレーニング(Jヴィレッジ)  
オフサピッチプログラム  
7月1日 練習試合 vs 尚志高校1年生(Jヴィレッジ)  
トレーニング(Jヴィレッジ)  
2日 トレーニング(Jヴィレッジ)

## JFA エリートプログラムU-14フューチャー トレーニングキャンプ(Jヴィレッジ)

【スタッフ】

○監督: 星原隆昭(JC) ○コーチ: 竹原靖和(石川県FAコーチ)、岡本知剛(サンフレッチェ広島) ○GKコーチ: 井出大志(NCS(U-16/U-15)日本代表 GKコーチ)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	佐藤蒼起※1	FC東京U-15深川	FP	岡本新大	ガンバ大阪ジュニアユース
	川中碧音	セレッソ大阪西U-15		野口魁斗	ソレックス熊本U-15
FP	泉晴行	横浜FC U-15	阿部賢矢	京都サンガF.C.U-15	
	松板泰志	北海道コンサドーレ札幌U-15	長谷川蒼羽	アルビレックス新潟U-15	
	児玉裕	神村学園中等部	相原清人	フォルトゥナサッカークラブU-15	
	黒木蓮	ブラウブリッツ秋田U-15	池田歩弘	名古屋グランパスU-15	
	塩見勇貴	愛媛FC U-15	岡村将吾	札幌大谷中学校	
	山田舞	JFAアカデミー福島EAST U-15	八色隼人	名古屋グランパスU-15	
	高久遠成	ベガルタ仙台ジュニアユース	樋口慎哉	京都サンガF.C.U-15	
	長棟城太郎	レノファ山口U-15	橋本凜菜	FC東京U-15むさし	
	竹内陽	徳島ヴォルティスジュニアユース	北田旺佑※2	大分トリニータU-15	
	若岡宏通	サンフレッチェ広島F.C.ジュニアユース			

※1: ケガのため不参加  
※2: 追加招集

<スケジュール>

7月5~6日 集合、トレーニング(Jヴィレッジ)  
7日 トレーニング(Jヴィレッジ)  
オフサピッチプログラム  
8日 練習試合 vs 鹿島アントラーズノルテU-15  
トレーニング(Jヴィレッジ)  
9日 トレーニング(Jヴィレッジ)、解散

## JFA エリートプログラムU-13 トレーニングキャンプ(J-GREEN 堺)

【スタッフ】

○監督: 三浦佑介(JC) ○コーチ: 西嶋弘之(JC)、佐藤貴則(和歌山県FAコーチ)、前田悠佑(V・ファーレン長崎) ○GKコーチ: 加藤好男(JC) ○フィジカルコーチ: 菅野淳(JC)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	酒井孝大	モンテディオ山形ジュニアユース村山	FP	笠井作彌	FC LAVIDA
	小畑颯亮※1	ガンバ大阪ジュニアユース		大賀隼	ロアッソ熊本
FP	梅原楓生	高知中学校	井上玲央	横浜Fマリノスジュニアユース	
	三井寺真	FCフォーリクスセ仙合	柴田葵生	サンフレッチェ広島FCジュニアユース	
	岡田啓社	徳島ヴォルティスジュニアユース	岡田咲希	カタール・ラヤンU-13	
	片山新	サンフレッチェ広島FCジュニアユース	金谷海音	北海道コンサドーレ札幌U-15	
	高橋真平	松本山雅	松浦虎雅	北海道コンサドーレ釧路U-15	
	藤澤斗亜	横浜Fマリノスジュニアユース	栗田虎空	清水エスパルスJr.ユース	
	三谷友浩	ヴィッセル神戸U15	竹内悠三	名古屋グランパス	
	布袋田結太	鹿島アントラーズつくばジュニアユース	磯沼剣聖	JFAアカデミー福島	
	下田翔太	サガン鳥栖U-15	シュルツ達斗※2	鹿島アントラーズつくばジュニアユース	
	鈴木奏翔	セレッソ大阪西U-15			

※1: ケガのため不参加  
※2: 追加招集

<スケジュール>

6月28日 集合、トレーニング(J-GREEN堺)  
29日 トレーニング(J-GREEN堺)  
30日 オフサピッチプログラム  
練習試合 vs ガンバ大阪堺U-14(J-GREEN堺)  
7月1日 トレーニング(J-GREEN堺)  
2日 紅白戦(J-GREEN堺)、解散

## JFA エリートプログラム女子U-13 トレーニングキャンプ(高円宮記念JFA 夢フィールド)

【スタッフ】

○監督: 横道玲香(JC) ○コーチ: 伊藤圭(JC)、加藤賢二(JC/JFAアカデミー堺)、金野結子(JC)、佐野佑樹(JC) ○GKコーチ: 監物政希(JC/JFAアカデミー今治)、轟奈都子(JC)  
○フィジカルコーチ: 川原布紗子(立教大学)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	寺田望遥	四万十市立中村中学校	FP	伊藤風葵	日テレ・東京ヴェルディメニナ	FP	近藤芽衣	大宮アルディージャ VENTUS U15
	宮地純花	INAC神戸テゾーロ		有働天音	八女学院女子フットボールクラブ		林祐未	セレッソ大阪ヤンマーガールズU-15
	前田星音	神村学園中等部		大藪妃紗	神村学園中等部		伊藤かの果	八女学院女子フットボールクラブ
	板井みのり	名古屋フットボールクラブルミナス		平山樹歩	ノジマステラ神奈川相模原アヴェニール		今野友絵	マイナビ仙台レディースジュニアユース
	加登鶴心羽	日テレ・東京ヴェルディメニナ		片岡菜葉	三菱重工浦和レッズレディースジュニアユース		花澤麻里衣	藤枝順心サッカークラブジュニアユース
	福田芽依子	北陸大学フィオーレ		藤丸璃子	ディオッサ出雲FCユース		成田葵葉	北海道コンサドーレ旭川U-15
	渡邊優奈	JFAアカデミー福島		田中愛純香	JFAアカデミー福島		篠原愛加	朝日インテック・ラブリッジ名古屋アスター

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
FP	田中亚依	朝日インテック・ラブリッジ名古屋アスター	FP	高野紅葉	北陸大学フィオーレ
	江藤はな	ジェフユナイテッド市原・千葉レディースU-15		福田こまち	JFAアカデミー福島
	梁島菜々恵	FCみやぎクレセール		寺田莉紗	セレッソ大阪ヤンマーガールズU-15
	米倉和心	日テレ・東京ヴェルディメニーナ		山口愛空	FCユイマール2013
	西藍花	セレッソ大阪ヤンマーガールズU-15		熊原椿乃	北海道リラ・コンサドーレ
	青木唯奈	INAC神戸テゾーロ		堀江咲花	常葉大学附属橘中学校
	木村葵	FC.REVO山口		山元杏奈	北陸大学フィオーレ
	甘中めばえ	RESC GIRLS U-15/JFAアカデミー堺		蘭牟田芽依	ノジマステラ神奈川相模原アヴェニール
	島中葉千	高知学園高知中学校		山路真白	JFAアカデミー福島
	林優明	セレッソ大阪ヤンマーガールズU-15		大賀ねね	FHTベアーズレディースフットボールクラブ
	高橋楓	ジェフユナイテッド市原・千葉レディースU-15		鈴木沙弥	ジェフユナイテッド市原・千葉レディースU-15
	酒本玖波	セレッソ大阪ヤンマーガールズU-15		近藤音々	サンフレッチェ広島レジーナ ジュニアユース
	川原未夢	高知学園高知中学校			

<スケジュール>  
6月23~26日 トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)

## 女子GKキャンプ(高円宮記念JFA夢フィールド)

### <スタッフ>

○GKコーチ[チーフ]: 井嶋正樹(JC) ○GKコーチ: 安齋和之(JC/福島県立ふたば未来学園中学校・高校)、榎引実(JC/JFAアカデミー堺)、諏訪雄大(JC/JAPANサッカーカレッジ)、轟奈都子(JC) ○フィジカルコーチ: 川原布紗子(立教大学)

### <選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	西本稀彩莉	INAC神戸テゾーロ	GK	山崎喜世	FCクレアテナ
	濱田桃奈	Bravo-Na U-15 レディース		立花実那	JFAアカデミー福島
	神田瑠伽	京都精華学園中学校		岡澤百華	FC Liventガールズ
	池田桃花	ノジマステラ神奈川相模原アヴェニール		矢澤姫愛璃	FC.ZONE
	佐藤菜実	クラッキスメニーナ		榛葉千夏	藤枝順心サッカークラブジュニアユース
	三治花音	ノジマステラ神奈川相模原アヴェニール		小野美空	VOCK大崎レディースフットボールクラブ
	宮村一花	神村学園中等部		三木本レイ	axino境港
	原田菜央	セレッソ大阪ヤンマーガールズU-15		蛭川梅乃	RESC GIRLS U-15 ※JFAアカデミー堺
	中川響	F.C.ユーマレディースアザレア		竹原芽生	北海道リラ・コンサドーレ
	宮内莉愛	いわきFC Girls		松井彩笑歌	横須賀シーガルスBES

<スケジュール>  
6月30日~7月2日 トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)

## AFC U17アジアカップタイ2023

### ■グループステージ 試合結果

グループ	日時	対戦結果	会場	
A	6月15日	タイ	2-1(1-1) ラオス	
		17:00	イエメン	4-0(2-0) マレーシア
	6月18日	17:00	ラオス	1-2(0-1) イエメン
		19:00	マレーシア	0-3(0-1) タイ
	6月21日	19:00	タイ	1-0(0-0) イエメン
		19:00	マレーシア	2-1(1-1) ラオス
B	6月16日	19:00	韓国	6-1(3-1) カタール
		21:00	イラン	6-1(3-1) アフガニスタン
	6月19日	21:00	カタール	0-0(0-0) イラン
		19:00	アフガニスタン	0-4(0-3) 韓国
	6月22日	21:00	韓国	0-2(0-2) イラン
		21:00	アフガニスタン	2-1(2-1) カタール
C	6月16日	21:00	タジキスタン	1-1(1-1) 中国
		17:00	オーストラリア	0-2(0-0) サウジアラビア
	6月19日	17:00	中国	3-5(2-4) オーストラリア
		21:00	サウジアラビア	2-0(0-0) タジキスタン
	6月22日	17:00	タジキスタン	0-2(0-0) オーストラリア
		17:00	サウジアラビア	3-0(1-0) 中国
D	6月17日	17:00	日本	1-1(1-0) ウズベキスタン
		19:00	インド	1-1(0-1) ベトナム
	6月20日	19:00	ウズベキスタン	1-0(0-0) インド
		17:00	ベトナム	0-4(0-1) 日本
	6月23日	19:00	日本	8-4(3-0) インド
		19:00	ベトナム	0-1(0-1) ウズベキスタン

### ■ノックアウトステージ 試合結果

	日時	対戦結果	会場	
準々決勝	6月25日	タイ	1-4(1-2) 韓国	
		17:00	イラン	0-0(0-0,0-0) PK4-2 イエメン
	6月26日	21:00	サウジアラビア	0-2(0-0) ウズベキスタン
		17:00	日本	3-1(2-0) オーストラリア
準決勝	6月29日	21:00	韓国	1-0(1-0) ウズベキスタン
		17:00	イラン	0-3(0-2) 日本
決勝	7月2日	19:00	韓国	0-3(0-1) 日本

※キックオフ日時は現地時間

スポーツ 夢 実現!!

アスリートのためのスポーツ食

ミズマ

MIZUMA

「MIZUMA」はアスリートとして世界で戦った経験と知識を持つ開発者が商品を考案しました。「MIZUMA」にはそんなアスリートとして活躍した開発者の豊かな経験と知識が生きています。

毎日の体づくりの基本に

1小袋につき

アミノ酸

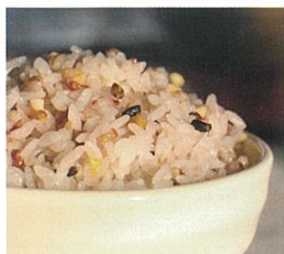
4,284  
mg



穀物の力  
スポーツ雑穀米



16種類の穀物をスポーツ愛好家のためにブレンドしたアミノ酸スコア100の雑穀米。大豆の配合量が多く、豊富なたんぱく質を手軽に摂取できます。12種類を発芽させて栄養価をアップ。白米と炊くだけで歯ごたえのよい食感に。毎日の食事に雑穀米をプラスしてバランスの良い食生活を。



栄養成分(100g中)		アミノ酸スコア100	
エネルギー	351kcal	亜鉛	2.3mg
たんぱく質	19.4g	ビタミンB1	0.48mg
脂質	5.5g	ビタミンB6	0.86mg
糖質	50.6g	ナイアシン	4.9mg
食物繊維	10.7g	パントテン酸	1.26mg
食塩相当量	0.0g	γ-アミノ酪酸	9mg
カリウム	730mg	たんぱく構成アミノ酸	21.420mg
カルシウム	61mg	総ポリフェノール	320mg
マグネシウム	150mg	大豆イソフラボン	54mg
鉄	2.5mg		

食品から得られる運動前のエネルギー補給・  
運動後のリカバリーに

1小袋につき

アミノ酸

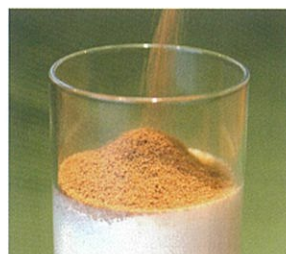
3,788  
mg



穀物の力パウダー



16種類の穀物をブレンドした、栄養バランスに優れた雑穀パウダー。持ち歩きに便利な小袋タイプで、そのまま食べてもおいしく水に混ぜてもOK。黒糖と雑穀の豊富な栄養から手軽にエネルギーを補給。程よい甘さが空腹感を和らげます。(穀物が溶けないので、混ぜながらお飲みください。)



栄養成分(100g中)		亜鉛	
エネルギー	384kcal	亜鉛	2.1mg
たんぱく質	20.1g	ビタミンB6	0.37mg
脂質	6.7g	ビタミンB12	2.36μg
糖質	57.2g	ナイアシン	1.7mg
食物繊維	7.0g	パントテン酸	1.16mg
食塩相当量	0.4g	γ-アミノ酪酸	7mg
カリウム	1,600mg	たんぱく構成アミノ酸	18,940mg
カルシウム	220mg	総ポリフェノール	830mg
マグネシウム	190mg		
鉄	4.9mg		

※総ポリフェノールには大豆イソフラボンを含みます。 ※赤字は健康増進法に基づく栄養表示基準において、豊富と言える栄養素

国内産にこだわった安全・安心な商品で皆様の健康をサポートいたします。

ベストアメニティ

〒830-0102 福岡県久留米市三潴町田川32-3

TEL 0120-580-359

ご注文・お問合せは  
こちらから →





内田篤人キャプテンは2日間にわたって子どもたちとサッカーを楽しんだ

## 多くの子どもたちに サッカーの楽しさを

JFAとユニクロは、スポーツを通じて子どもたちの夢や自立心を育みながら、より良い地域社会を実現することを目的に、2003年からユニクロサッカーキッズを開催している。この20年間で30万人を超える子どもたちがサッカーと出会い、サッカーの楽しさを体験してきた。

初めてボールを蹴る子どもたちも多く参加することから、全ての子どもたちにサッカーを心から楽しんでもらうため、JFAは関わるスタッフ全員とイベントの趣旨などを再確認し、念入りに準備に当たっている。今回現地へ赴いた中山雅雄JFA普及ダイレクターは「スタッフも子どもたちと一緒にサッカーを楽しむ、そういう場にしたいという思いで準備に当たった」と振り返る。

ベトナムで初開催となった今回のユニクロサッカーキッズ。子どもたちと共に汗を流した内田キャプテンは「ユニクロサッカーキッズに参加したことが、子どもたちの思い出としてずっと残ってくれたらとてもうれしい」とコメント。子どもたちも大人たちも、全員がサッカーを楽しんだ2日間となった。



人種や言葉の壁を越え、笑顔でボールを追いかける両国の子どもたち

# JFAユニクロサッカーキッズ in ベトナム

## 外交関係樹立50周年 交流を深める

日本サッカー協会(JFA)は株式会社ユニクロの特別協賛の下、7月1日と2日に「JFAユニクロサッカーキッズin ベトナム」を開催した。これは日・ベトナム外交関係樹立50周年を記念して企画されたもので、JFAとパートナーシップ協定を結ぶベトナムサッカー連盟の協力を得て、両国のサッカーを通じた国際交流を目的として行われた。海外での開催はシンガポール、ドイツに続いて3カ国目となる。

同日はハノイ市のIndoor Athletics Track of Hanoi Sports Training and Competition Centerで、2日はホーチミン市のHo Chi Minh City FC Training Facilityで行われ、JFAユニクロサッカーキッズのキャプテンを務める内田篤人さんが参加した。また、元ベトナム代表のファム・タイン・ルオンさん、グエン・ベト・タンさんがそれぞれハノイ会場とホーチミン会場に駆けつけてくれたほか、2日には宮本恒靖JFA専務理事も会場を訪れた。



元ベトナム代表のファム・タイン・ルオンさんも子どもたちと笑顔でプレー

晴天の下、各会場にはベトナムに在住する日本人の子どもたちとベトナム人の子どもたちが集まった。最初はやや緊張した様子の子も体動かすうちに徐々に打ち解け、仲間と共に懸命にボールを追いかける。ピッチの周りでは子どもたちを見守りつつ、温かい声援を送る家族の姿も。会場には歓声が響き、サッカーを楽しそうにプレーする子どもたちの笑顔であふれていた。

### ■2023年度は国内14会場<sup>(\*)</sup>で開催!

JFA ユニクロサッカーキッズは、株式会社ユニクロの協賛を得て2003年から全国で開催しているサッカーフェスティバル。参加対象は6歳以下の未就学児で、サッカー経験や性別も問わず、参加無料でサッカーの試合を楽しむことができる。<sup>(\*)</sup>14会場のうち6会場は受付終了

●詳細はこちら [https://www.jfa.jp/grass\\_roots/festival/kidsfestival-usk/](https://www.jfa.jp/grass_roots/festival/kidsfestival-usk/)





# DREAM

夢があるから強くなる

© JFA

楽しむことが、

夢のはじまり。

20年目の「JFA ユニクロサッカーキッズ」。



# 山本昌邦 JFAナショナルチームダイレクター／技術委員会強化部会長 インタビュー

## 成長を求め続けた先に成功がある

今年2月に日本サッカー協会（JFA）のナショナルチームダイレクターに就任した山本昌邦氏。コーチングスタッフとして各年代の日本代表に携わり、数多くの世界大会を経験してきた同氏に、ナショナルチームダイレクターの役割や日本サッカーへの思い、日本代表チームの今後の展望などについて聞いた。

**日本サッカーはこの30年で  
世界で最も成長した**

——ナショナルチームダイレクターに就任された経緯を教えてください。

**山本** これまでは技術委員長がナショナルチームダイレクターを兼任してきましたが、技術委員長は代表強化、ユース育成、普及、指導者養成と関与する範囲が広く、その負荷は相当なものでした。そこで、サムライブルー（日本代表）の新体制がスタートするのを機に、役割などが整理されました。また、独立したナショナルチームダイレクターというポジションをFIFA（国際サッカー連盟）も推奨しています。打診された際は、正直、驚きました。代表チーム

の未来は非常に重要なものですが、この年齢で受けていいのかどうか。一方で、育成なくして未来なしという思いを常に持っていましたので、そういった思いや、これまで各年代の代表チームで培ってきた自分の経験が生きているのではないかと考えました。田嶋（幸三）会長の後押しもあって、引き受けることにしました。

——1992年にU-20日本代表のコーチに就任されて以降、同監督、U-23日本代表コーチ、同監督、日本代表コーチと、各年代のコーチングスタッフを長く務めてこられました。

**山本** 約30年前、私は西野朗監督（当時）と共にFIFAワールドユース選手権（現、FIFA U-20



○取材日：2023年7月19日

ワールドカップ）を目指すユース日本代表（現、U-20日本代表）を指導していました。当時は、世界に打って出ることが夢で、そのためにJリーグも創設されました。私たちのU-20代表はアジア3位で世界への切符はつかみませんでした。その次のチームが実現してくれました。中田英寿氏や松田直樹氏の世代です。その世代が加わったU-23代表が28年ぶりに

オリンピック出場を果たし、ブラジルを破った。そこから1998年のFIFAワールドカップ初出場につながっていきます。私は歴史が変わる瞬間を目の当たりにしてきました。サッカーに自信のある選手が育ってきて、私もそういう選手たちと一緒に成長させて

もらい、育成が未来を変える上で最も重要なものだということを痛感しました。振り返れば、サッカーにおいて、日本はこの30年で、世界で最も成長した国だと思えます。

——当時のJFAの取り組みについてはどうご覧になっていまし

たか。

**山本** 30年前のJFAは、オフイスも小さく、スタッフもそれほどいたわけではありませんが、プロリーグをつくるという画期的なことをやり遂げましたよね。92年に、西野さんと共にユース代表を担当することになった頃は、まだ誰も世界を知らなかった。そこでわれわれは自費でワールドユースを見に行こうと決めました。すると、当時の強化部のトップで、Jリーグのチェアマンに就任して間もなかった川淵(三郎)さん(現、JFA相談役)が「それくらいの予算はある」と(笑)。ドイツに留学していた田嶋さんも合流して、オーストラリアで行われた大会を視察しました。技術、スピード、強度、何をとつても衝撃的で、世界ではU-20の選手たちが大人のサッカーをしていました。今のように全てがデータ化されている時代ではありませんでしたから、帰国後は選手たちに「今よりも10%パススピードを上げよう」など、感覚的にイメージしやすい言葉で世界と戦うためのメッセージを伝えていきました。

——日本サッカーの成長を間近でご覧になり、そこに携わってきただご経験が全てに生かされると思います。あらためてナショナルチームダイレクターの役割を教

えてください。

**山本** サムライブルーからU-15までの代表チームの統括です。中でもサムライブルーとU-23代表を中心に、U-20以下については、育成部会の影山(雅永)部会長と連携してやっています。選手、スタッフが最大限に力を発揮し、各代表チームがベストな状態で活動できるように環境を整えるのが主な役割になります。JFAには「Japan's Way」という明確な指針がありますから、それに沿って各チームにビジョンをつくり、示すのも私の役目です。もちろん、スタッフの任命や評価も大切な仕事です。

——強いチームを編成する上で重要なことは？

**山本** 最も重要なのは選手の力を最大限に引き出すこと。そのために、選手を支えるスタッフの働きやすい環境を整えることも大切です。一体感や結束力などもそのものが求められます。ワールドカップの優勝経験国は8カ国ありますが、そのうちの5カ国が自国開催の大会で初の栄冠をつかんでいます。それはつまり、会場の雰囲気や国中の熱量といった目に見えないエネルギーがチームを後押ししているからではないでしょうか。2011年に世界一に輝いた

なでしこジャパン(日本女子代表)が良い例です。大会はドイツで開催されましたが、東日本大震災で日本中が苦しい状況にある中、見事に皆が結束した。応援したくなる、支えたいくなる、そういう一体感や結束力が生まれるように、日頃からわれわれがそういう姿勢を示していかなければなりません。

**情報を収集、分析、共有し 最大限に力を引き出す**

——新体制となったサムライブルーは、3月、6月の2回の活動で4試合を戦いました。

**山本** 監督も選手も互いによく知っている状態で、なおかつワールドカップを経験したスタッフが多人数で、積み上げた状態からスタートできるのは大きなアドバンテージです。そこに新たなコーチングスタッフが数人加わり、彼らの良さをプラスしていく。3月の活動は試行錯誤している段階でしたが、6月の活動では随所に改善の成果が見られました。その最終的なものは得点です。これを今後さらに発展させていかなければなりません。

——森保一監督とはどのような話をされているのでしょうか。  
**山本** いろいろと話しますが、

私からアドバイスするようなことはありません。ピッチ内のことはコーチングスタッフに任せていただきますから、私はピッチ外の部分でいかに良いサポートができるか、それに尽きます。近年はこれまでも増して海外でプレーする選手が多くなっていますし、海外で生活している日本人の子どもたちも多くなります。現在、JFAの欧州オフィスには2人のスタッフが常駐していますが、そういった情報を漏らさずチェックできるように、体制の強化も必要だと感じています。

——日本はカタール大会で世界を驚かせましたが、日本サッカーの現在地についてどうお考えですか。

**山本** 日本は、ロシア、カタールの両大会でベスト8まであと一歩に迫りました。しかし、この一歩が、世界の舞台では大きな差になります。例えば、グループステージは対戦チームが分かっているのに、時間をかけて分析できますが、ノックアウトステージでは試合が終わるまで次の対戦相手は分からないので準備が難しい。優勝を狙うチームはラウンド16や準々決勝まで見据え、分析に相当な労力をかけてきます。日本はそこがまだ十分ではないのではないかと。日本のスタッフの分析力は非常に

優れています。その証拠に、カタール大会ではハーフタイムでの見事な修正によってドイツとスペインを破りました。しかし、その先まで及ばなかった。つまりマンパワーが足りていなかったということ。質を落とさず、いかにそこに人材を投入できるか。それが今後の鍵だと思います。日本は世界トップ基準で取り組むレベルにあるものの、トップに到達するにはまだまだやるべきことがあると感じています。

——9月には欧州でドイツ、トルコと対戦します。マッチメイクについてお聞かせください。

**山本** JFAのマッチメイク担当は世界中にネットワークを持っており、強いチームと戦うために手を尽くしています。ただ、UEFAネーションズリーグがあ



あらゆる面で世界トップ基準を満たし、魅力あるチームへ

未来のために  
世界トップ基準の共有を

るため、欧州のチームとのマッチメイクは非常に難しい。それでも対戦できるタイミングもありますので、そこを見逃さないことが重要です。そういう意味でも、この9月の対戦を実現させたスタッフには感謝していますし、相手が日本と戦いたいと思うような魅力的なチームになってきたということとは誇れることだと思います。理想はやはり、ブラジルのように常に招待される立場になること。アンダー世代では招待されることも増えてきましたので、さらに世界で認められるチームになれるよう努めていきます。

——先ほど分析の部分でマンパワワーのお話がありました。世界のベスト8以上を目指す上でそのほかに何が必要でしょうか。

**山本** 間違いなく育成です。理想は、U-17やU-20世代で世界大会を経験した選手が、その後すぐに上の年代のチームに昇格すること。若手の育成に関しては、軸をぶらさず、しっかりと投資していく。近年、アンダーカテゴリーの代表チームは世界大会で良い成績を取っていますから、そこは自信を持って、今後は本気で優勝を目指します。その成果が、次の年代のワールドカップを戦う自信につながりますから。

——欧州遠征を終えると10月の国際親善試合を挟んで11月からいよいよワールドカップのアジア予選が始まります。

**山本** チームとして集まれる時間は限られていますので、細かいところまで目を配って、しっかりとサポートしていきたいと思えます。コーチングスタッフをはじめテクニカルスタッフは世界中で活躍している選手たちの情報を丁寧に集め、分析し、ミーティングで共有しています。力のある選手、伸びてきている選手を漏れなく把握し、チームとして十分に力を発揮できるように抜かりなくやっています。

——アンダーカテゴリーの選手たちが早く、多くサムライブルーに昇格するためには、どのようなことが必要になりますか。

**山本** 早い段階から世界トップ基準を意識することです。自らの意思で取り組む選手しか一流にはなれません。高い目標を持ち、オープンマインドでいろいろなことを吸収していく。そして、代表に招集されるような選手は皆、負けず嫌いです。例えば中田氏は、当時、世界最高峰といわれたイタリアのセリエAでプレーするために高校時代

からイタリア語を勉強していました。技術的に彼よりうまい選手はたくさんいましたが、彼は自分がどう成長しプレーすれば、日本代表の勝利に貢献できるか、それが見えていた。だからこそあそこまで行けたのでしょう。今の若い選手は多くの情報に触れ、語学を学んだり、本を読んで知識の幅を広げたり、プレー以外でも努力しています。それはやはりサムライブルーが刺激を与えているからです。

——そういった選手たちをさらに伸ばしていくために、指導者に求められることは？

**山本** サムライブルーの6月の活動に指導者養成のトップである西川誠太ダイレクターが同行しました。選手とのディスカッション



「子どもたちが日本の未来であり、育成こそが未来を明るくする」と話す(写真はAFC U17アジアカップ タイ2023)

©2023 Asian Football Confederation (AFC)

やコーチングスタッフ同士のやり取りなどあらゆる場面に顔を出してもらい、トップレベルでどういう基準で選手に求めているのかということを通じて得たものを一人でも多くの指導者に伝えてもらいたいと思っています。今後も同様の取り組みをして、多くの指導者にトップレベルを感じ取ってもらいたい。各地での普及につなげる。先日、U-18代表の新しいチームを立ち上げましたが、私は最初のスタッフミーティングで「U-20ワールドカップ優勝」と「2026年のワールドカップを戦うサムライブルーに一人でも多くの選手を送り出すこと」を求めました。リオネル・メッシ選手でさえ、ワールドカップで優勝するまでに5大会を要しました。若いうちから何度もトップレベルの舞台を経験するからこそ、ここで戦う力が養われるのだと思います。

——今後、ナショナルチームダイレクターとしてどのようなことに取り組んでいきたいとお考えですか。

**山本** 自分の色を出そうとは思っていません。日本には素晴らしい選手がいますので、彼らと、彼らを支えるスタッフが最大限に力を発揮できるように環境を整えること、今持っているものを全て、余すことなく出し切るということをテーマにやっていききたい。出した後に、本当に必要なものが見えてくるはず。子どもたちは日本の未来であり、育成こそが未来を明るくするものです。私は代表チームを預かる身ですが、そこにも携わっていきたくと思っています。目先の勝敗も重要ですが、成長を求め続けることが未来の成功につながる唯一の道です。成功にたどり着けるように力を注いでいきたいと思っています。

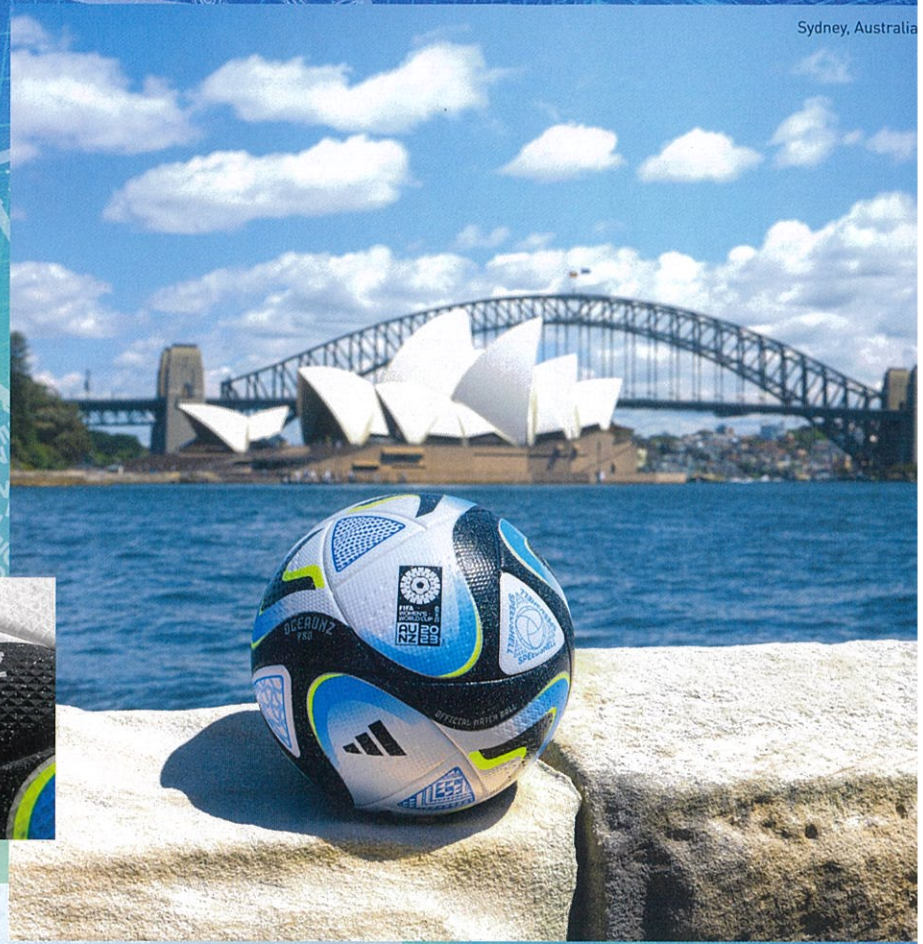
——現在、各カテゴリーの代表チームのスタッフは、オールジャパン体制になっています。

**山本** 情報共有や共通理解のスピードはありますが、森保監督を中心にもっと世界で戦った



# your world cup ball

Sydney, Australia



INSPIRED BY NATURE



Queenstown, New Zealand.



©2023 adidas Japan K.K. adidas, the Performance Logo and the 3-Stripes mark are trademarks of adidas.

# 2023 FIFA主要大会 公式試合球



## U-17日本代表、 ワールドカップ出場権を獲得して大会連覇！

U-17日本代表は、6月15日から7月2日に開催されたAFC U17アジアカップタイ2023に臨み、上位4チームに与えられるFIFA U-17ワールドカップへの出場権を獲得。韓国との決勝も制して大会連覇を果たした。

※U-17日本代表メンバーおよび公式記録などは43～44ページに掲載

選手を入れ替えて  
全員で戦い抜く

大会は参加16チームを4グループに分けて争うグループステージの後、各グループ上位2チーム（計8チーム）によるノックアウトステージが開催された。準決勝に進出した4チームには、今年11月に開催されるFIFA U-17ワールドカップの出場権が与えられる。森山佳郎監督は「まず世界大会の出場権を獲得し、その上で優勝を狙っていきなさい」とした上で、「個人としてもチームとしても1試合ずつ成長していくこと」をもう一つの目標に掲げて大会に臨んだ。

ウズベキスタン、ベトナム、インドと同じグループDに入った日本にとつて、大きなテーマは「タイの厳しい暑さの下で中2日での6連戦を戦い抜くこと」（森山監督）。このため森山監督は、「選手の成長を考えると、同じメンバーで決勝まで戦うのではなく、出場時間をシェア（分配）したい。それによって『全員で戦う』という気持ちの部分もつくっていく」と戦略を立て、初戦に挑んだ。

東南アジアの慣れない環境もあって体調を崩してしまう選手がいたため、森山監督は「トレーニングでのパフォーマンスも見ながら」出場する選手を選考した。第2戦のベトナム戦は、ウズベキスタンと

打ち合いに発展したグループステージ第3節のインド戦。大量得点で勝利してグループ1位を勝ち取った



の初戦から先発メンバー5人を入れ替え、続くインドとの第3戦では7人をチェンジし、グループステージだけで選出23人中22人がピッチに立った。

アジアの強豪を撃破し  
ワールドカップ出場権獲得

初戦のウズベキスタンは、「大会の優勝候補。決勝でもう一度当たることもあると思う。過去のこの世代のウズベキスタンよりも（今のチームは）確実に一段上のレベルにある」と森山監督が話していたグループ最大の難敵。昨年8月のウズベキスタン遠征でも対戦しており、思わぬ大敗を喫して「国際試合の厳しさ、難しさを教えてくれた相手」（森山監督）でもある。

試合は、道脇豊（熊本）のヘディングシュートで開始早々の8分に



ワールドカップ出場を懸けた準決勝では途中出場の高岡侂平が勝利を引き寄せるチーム3点目を挙げた

双方にやや緊張も見られた立ち上がりの10分、まずは日本が先制する。ロン

ズベキスタンを上回り、グループ1位突破を決めた。勝てば世界大会出場権を得られる準々決勝の相手はオーストラリア。「相手は中3日、こちらは中2日で難しい状況だが、このためにグループステージから出場時間を考えて準備してきた」と語る森山監督は、インド戦から先発6人を入れ替えて臨んだ。

勝てば世界大会出場権を得られる準々決勝の相手はオーストラリア。「相手は中3日、こちらは中2日で難しい状況だが、このためにグループステージから出場時間を考えて準備してきた」と語る森山監督は、インド戦から先発6人を入れ替えて臨んだ。

「あの1点で本場に助かった」と小杉啓太(湘南U-18)も振り返った一発がチームを救い、3-1で快勝。

「あの1点で本場に助かった」と小杉啓太(湘南U-18)も振り返った一発がチームを救い、3-1で快勝。

「あの1点で本場に助かった」と小杉啓太(湘南U-18)も振り返った一発がチームを救い、3-1で快勝。

迎えた決勝は、ウズベキスタンを破った韓国と対戦。ここでも先発5人を入れ替えた日本は、序盤から韓国と激しい攻

迎えた決勝は、ウズベキスタンを破った韓国と対戦。ここでも先発5人を入れ替えた日本は、序盤から韓国と激しい攻

迎えた決勝は、ウズベキスタンを破った韓国と対戦。ここでも先発5人を入れ替えた日本は、序盤から韓国と激しい攻

先制するも、83分に追いつかれて1-1のドロー。悔しさが残る結果となったが、森山監督は「ネガティブになる必要はない」と選手たちを鼓舞。「昨年あれだけやられた相手に試合内容でも上回る事ができていた」と前向きに捉え、すぐに気持ちを切り替えさせた。

続くベトナムとの第2戦では、開始早々の2分に道脇のヘディングで先行すると、第1戦の反省も踏まえて試合運び、後半に「絶対やってやると思っていた」という初先発の望月耕平(横浜F.ユース)による2ゴールなどで3得点を追

加。4-0で快勝した。1勝1分けで迎えたインドとの第3戦は14分に川村楽人(東京Vユース)のゴールで先行すると、41分と45分に、体調不良で一時離脱していた名和田我空(神村学園)が2得点を挙げ、3-0と大きくリード。ハーフタイムに3人を入れ替え、ピッチには出場時間の少ない選手たちが並ぶことに。すると、後半立ち上がりの47分に失点。「自分たちで難しい展開にしてしまった」(永野修都/F.C.東京U-18)ことで、後半は双方が激しく打ち合う展開となる。それでも8-4で勝利した日本は、得失点差でウズベキスタンを上回り、グループ1位突破を決めた。

加。4-0で快勝した。1勝1分けで迎えたインドとの第3戦は14分に川村楽人(東京Vユース)のゴールで先行すると、41分と45分に、体調不良で一時離脱していた名和田我空(神村学園)が2得点を挙げ、3-0と大きくリード。ハーフタイムに3人を入れ替え、ピッチには出場時間の少ない選手たちが並ぶことに。すると、後半立ち上がりの47分に失点。「自分たちで難しい展開にしてしまった」(永野修都/F.C.東京U-18)ことで、後半は双方が激しく打ち合う展開となる。それでも8-4で勝利した日本は、得失点差でウズベキスタンを上回り、グループ1位突破を決めた。



決勝の韓国戦は数的優位を生かし3-0で快勝。大会連覇を成し遂げた

世界大会の出場権を手にした。

**大会連覇を飾り、世界大会へ弾みをつける**

準決勝後には「チームの目標はここじゃない。優勝を目指す」と、森山監督は選手らに気持ちを切り替えるように呼び掛け、翌日は完全オフに充てた。「ずっと息が詰まるような生活をさせていたし、まずは気持ちをリフレッシュさせたい」と、トレーニング時間を削って心身の回復を優先。先発5人を交代させて、イランとの準決勝に臨んだ。

イランも昨年対戦して1-3と敗れている相手。「当時はデュエル勝率20%台で、要所で全部やられた」森山監督という苦い記憶をチームに植え付けていた。チーム強化として掲げた「自分たちの武器を出すこと」と「相手の土俵でも負けないこと」の真価が問われる試合となったが、開始10分で矢田龍之介(清水ユース)の先制点が生まれると、試合は日本ペースに。良い流れをつかみ、3-0で完封勝利を収めた。課題のデュエル勝率も59%と日本が上回り、イランの長所を封じて得た、手応えある勝利だった。

防を繰り広げる。前半終了間際に韓国DFの一人が退場になると、その直後に得たFKを名和田が決めて先制。66分にも鋭いパスワークから名和田が追加点を決めると、アディショナルタイムには道脇のゴールが決まり、3-0と快勝して大会史上初となる連覇を達成した。

日本はフェアプレー賞も獲得し、GKの後藤亘(F.C.東京U-18)は最優秀GK賞、名和田が得点王とMVPを受賞した。

韓国との決勝戦を「FIFA U-17ワールドカップに向けた最初の試合」と位置付け、選手たちをモティベーションさせた森山監督は「世界大会に向けてやらなければならないことはたくさんある。選手たちにはそれぞれのチームに戻ってまたレベルアップしてほしい」と、11月の世界舞台へと気持ちを切り替えていた。



MVPを獲得した名和田は5試合に出場して5得点を記録

## 森山佳郎 U-17日本代表監督インタビュー

選手の主体性を刺激して、  
成長しながら  
優勝をつかみ取る

AFC U17アジアカップタイ2023で史上初の大会連覇を成し遂げたU-17日本代表の森山佳郎監督に、大会で得られた収穫や11月に開幕予定のFIFA U-17ワールドカップインドネシア2023への意気込みを聞いた。

○オンライン取材日：2023年7月24日

掲げた二つの目標  
過去2大会の経験が生きる

——世界大会出場とアジアカップ連覇おめでとございます。

**森山** 二つの大きな目標を掲げて臨んだ大会でしたので、それを現できて良かったです。FIFA U-17ワールドカップの出場権をつかむことは最も重要なミッションでしたが、出場権を得たところ

で燃え尽きたくないという思いも同時にありました。私は過去に2度、監督としてU-16選手権（現AFC U16アジアカップ）に臨んでいます。2016年大会は出場権を獲得したところで私たち

スタッフも選手たちも緊張の糸が切れてしまい、準決勝ではエネルギーを出し切れずに敗れるという経験をしました。2018年大会はその反省を踏まえ、しっかり準決勝、決勝を戦って優勝することができました。そうした経験を選手やスタッフに伝えられたことは良かったと思います。

——ワールドカップ出場権を獲得した後も、選手たちからは「目標は優勝」という言葉が多く聞かれました。

**森山** 「まだ目標の半分を達成しただけ」という意識を持ってくれたと思います。アジアの対戦相手の傾向はつかめていましたから、「この相手と戦ったら日本の選手はこうなる。だから選手にはこういうことを注意させよう」と、これまで蓄積してきたものを出せたのは大きかったと思います。相手が韓国ならこう、イランならこう、東南アジア勢との試合はこうと、世代が違っても大筋では共通する部分がありますから。あとは、準々決勝にいかにも肉体的・精神的にピークを持っていくかという部分で過去の経験を生かせたと思います。

——ピークという意味では、日本で集合した当初、選手たちの状態はかなり厳しいものがありました。

**森山** コンディションが悪い選手が多かったですね。全国高等学校総合体育大会の予選もあって、連戦を戦った直後の選手もいましたし、負傷明けの選手もいました。所属チームで出場機会を失っている選手もいましたから、それぞれ状態の差が大きかったですね。

苦境でも前向き  
雰囲気づくりが勝因に

——コンディションングは大会を通じた大きなポイントだったのではないでしょうか。

**森山** そうですね。しかも初戦で当たるのがウズベキスタン。この世代のウズベキスタンは本当

© 2023 Asian Football Confederation (AFC)



どのような状況でも前向きに取り組む選手たちの姿勢を評価



© 2023 Asian Football Confederation (AFC)

イラン戦では課題としていたデュエルでも相手を上回った

**員で戦うことで乗り切りました。**

に素晴らしいチームで、われわれも昨年8月の遠征では敗れていきますし、決勝でもう一度当たる可能性もあると思える強敵でした。ただ、負けたとしても、あと2試合を勝って2位以内に入ること意識すればいいと考えていました。初戦にコンディションを100%まで仕上げてしまうとノックアウトステージで力が残っていないということにもなりかねません。現地入りしてから体調を崩す選手が何人も出てきて、初戦を終えた後に今度はお腹を壊す選手が出てしまいましたから、そこは苦労しましたね。

**——そうしたアクシデントがありながらもメンバーを入れ替えて全**

**森山** 初戦でタフな試合をした選手が体調不良になっていたの  
で、「2戦目は元気な選手でいこう」という感じで回していきま  
した。体調を崩した選手も徐々に回復して、ちょうど準々決勝で全員がそろそろ形になりました。もともとローテーションしながら戦う予定ではありましたが、体調不良は予測できないので、スタッフと知恵を絞って対応しました。厳しい状況に直面しても悲壮感なくやれたのは良かったと思います。「主力が出られない。もうだめだ」ではなく、「元気な選手が出て戦えばいい」という雰囲気チームとして保てました。何人も選手が練習に來られなくなった状態でも良いムードでやれていたの  
で、そこは明るい選手たちに助けられましたね。

**——まさに雰囲気づくりは勝因の一つだったと感じました。**

**森山** そこは私もかなり意識していましたが、何より選手たちが応えてくれました。ここまでの合宿では時間のない中でミーティングも詰め込み、戦術やいろいろな要素を教え込む部分があった

のですが、現地に入ってから対戦相手の情報を共有して、セットプレーを確認することくらい。それ以外は選手たちに任せていました。自由時間に同じポジションの選手が集まって映像を見て話し合ったり、自分たちでミーティングをしたりもしていましたね。そういう主体性や当事者意識のようなものは植え付けてきたつもりですが、キャプテンを任せられた小杉啓太選手（湘南U-18）を中心にしっかりと発揮してくれたと思います。

**厳しい日程でもたくましく選手の成長を実感**

**——大会としては準々決勝のオーストラリア戦が大きなポイントだったと思います。**

**森山** 日本は中2日、相手は中3日という日程の妙もありましたからね。私たちがグループステージ第3戦のインド戦へ出発するとき、彼らはプールに入ってからラックスしてしまいました。その差はやはり大きいので、3戦目は敗退のリスクもありましたが思い切って準々決勝で出した選手たちを休ませたり、早めに交代させたりもしました。4失点もする厳しい試合になってしまいましたが、結果的に守備の選手たちの危機感が高まったこともポジティブに作用したと思

**——そうした厳しい経験をポジティブなエネルギーに変換していく力が日本にはありました。**

**森山** そこは本当に良かったです。体重を減らしていた選手も、大会中にみんな戻っていったんです。スタッフの努力も本当に大きかったですし、選手たちが高い意識を持って行動してくれたおかげです。準々決勝も相手に1点差と詰め寄られる厳しい展開でしたが、そこでもポジティブな声掛けが選手たちから自然と出ていました。そこはU-20アジアカップの反省をフィードバックした部分もあって、「2-0から2-1になることもある。でも勝っているのは自分たち。2-2になっても同点になっただけ。そこで慌てる必要なんてないよ」という話は事前

**——そして燃え尽きることもなく、準決勝のイラン戦、決勝の韓国戦ともに3-0で快勝しました。**

**森山** イラン戦では課題にして取り組んできたデュエルの部分でも相手を上回れましたし、良い試合ができたと思います。韓国戦もポイントに挙げ



© 2023 Asian Football Confederation (AFC)

厳しい環境でも選手たちはたくましく成長。世界大会に向けて期待が高まる

たところを選手たちがしっかりとくみ取って戦ってくれました。まだまだ課題はありますが、選手の成長を感じることができた大会でした。優勝しても選手の成長がなければ意味がありませんから、その点でも手応えを感じています。

**——11月には世界の舞台が待っています。**

**森山** 楽しみです。勝つために小さくまとまるような試合をする気はありません。ガンガン点を入れよう、攻撃的に行こうという勢いを持って臨もうと思います。中盤の守備力とビルドアップのところは改善を図り、皆さんが見ていてわくわくできるような試合をしたいと思っています。

# なでしこジャパン、 パナマ女子代表に快勝して ワールドカップへ



2得点1アシストの長谷川唯



**NADESHIKO  
JAPAN**

日本は20歳の石川璃音(浦和)が初先発で3バックの一角に入り、

仙台で合流した遠藤純

(エンジェル・シティFC)は左ウイングへ、

地元のマイナビ仙台レディースでプレーする宮澤ひなた、経験豊富な田中美南(神戸)、国際アマチュ10試合目の19歳、藤野あおば(東京NB)が前線に並んだ。

小雨が降る中、日本は長谷川唯(マンチェスター・シティ)と長野風花(リバプールFC)が攻守のつなぎ役となって相手を押し込む。33分、長谷川のロングフィードから清水梨紗(ウェストハム・ユナイテッド)がループシュートで先制点を奪取。1万2006人が集まった客席からは大歓声上がり、清水は「唯がボールを持った時、パスが来ると信じて走ったと、長谷川との息の合ったゴールを喜んだ。そ

の4分後には、今度は田中美のパスに抜け出した長谷川が追加点を決める。

後半、交代でピッチに入った植木理子(東京NB)と清家貴子(浦和)がチームに勢いを与える。60分には自陣の熊谷紗希、南萌華(ともにASローマ)、清家、宮澤とボールをつなぎ、左サイドをドリブル突破した宮澤のパスから最後は藤野が国際アマチュ初得点をたたき込む。さらに61分、長谷川のミドルシュート

の活躍を見せた長谷川は「ボランチが裏に抜け出す新しい形を作ることができ、ゴールも狙い通り」と、手応えを感じ取っていた。終盤には南のシュートがゴールネットを揺らす。これはVARによるオフサイドの確認が入ったが得点が認められ、日本は5-0でパナマに快勝。

「試合を重ねる中で得点の部分はこだわっていた」という藤野あおばは、後半に国際アマチュ初得点



女子ワールドカップに向けて弾みの付く一戦となった。

**池田太監督 試合後コメント(要約)**

中盤でしっかりとブロックを組み、相手を見ながら背後のスペースを消すゲームプランで入り、相手の力と自分たちのプレスのバランスを考えながら進めた。前半に得点できたこと、後半もいろいろな選手の組み合わせを試しながらクリーンシート(無失点で試合を終えること)で勝てたこと、集中してゲームに入れたことをうれしく思う。スタジアムの雰囲気をつくっていただいたサポーターの皆さんに感謝したい。女子ワールドカップ前に成果を得るゲームとなった。

なでしこジャパン(日本女子代表)は7月14日、宮城県のユアテックスタジアム仙台でパナマ女子代表とMS&ADカップ2023を戦った。チームは6月27日から7月6日に高円宮記念JFA夢フィールドでトレーニングを行い、一旦解散した後、試合4日前に仙

台市内に再集合。FIFA女子ワールドカップオーストラリア&ニュージーランド2023前最後となる試合に向けて、男子大学生との合同練習を行うなどして調整した。なお、日本は9度目、パナマにとっては初の女子ワールドカップ出場となる。



石川璃音はなでしこジャパン初先発ながらも落ち着いたプレーを見せた

**MS&ADカップ2023**

2023年7月14日 19:05  
宮城県 / ユアテックスタジアム仙台

日本 **5-0** パナマ

2-0  
3-0

33' 清水梨紗  
37', 61' 長谷川唯  
60' 藤野あおば  
90+2 南萌華



- |                   |                  |
|-------------------|------------------|
| <b>GK</b> ① 山下香也加 | <b>MF</b> ⑬ 遠藤純  |
| <b>DF</b> ② 清水梨紗  | → HT ⑰ 清家貴子      |
| ③ 南萌華             | ⑭ 長谷川唯           |
| ④ 熊谷紗希            | → 69' ⑱ 林穂之香     |
| ⑫ 石川璃音            | ⑮ 藤野あおば          |
| → 83' ⑳ 高橋はな      | → 62' ㉑ 浜野まいか    |
| <b>MF</b> ⑦ 宮澤ひなた | <b>FW</b> ⑪ 田中美南 |
| → 69' ㉒ 猫本光       | → HT ⑲ 植木理子      |
| ⑩ 長野風花            |                  |

## 「JFAキッズサッカーフェスティバル×MS&ADインシュアランスグループサッカー教室 in 仙台」を開催

日本サッカー協会（JFA）は7月8日、宮城県の弘進ゴムアスリートパーク仙台で「JFAキッズサッカーフェスティバル×MS&ADインシュアランスグループサッカー教室 in 仙台」を開催した。このサッカー教室は、MS&ADインシュアランスグループとして5度目の開催となる。主管の宮城県サッカー協会や仙台リゾート&スポーツ専門学校



の生徒を中心に、地元のサッカーファミリー20人以上が運営をサポートした。

参加したのは、小学校低学年のサッカー初心者を中心とした親子約80人で、特別ゲストとして参加した元なでしこジャパンの鯨島彩選手と近賀ゆかり選手と楽しく触れ合った。参加者には7月14日の「MS&ADカップ2023」観戦チケットもプレゼントされた。



## FIFA女子ワールドカップオーストラリア&ニュージーランド2023関連情報

### MS&ADカップ2023で 壮行セレモニーを実施



7月14日のMS&ADカップ2023の終了後、会場ではなでしこジャパン（日本女子代表）の壮行セレモニーが行われた。

元なでしこジャパンの澤穂希さんとSAMURAI BLUE（日本代表）の森保一監督がゲストとして訪れ、澤さんは熊谷紗希キャプテ

ンに、森保監督は池田太監督に花束を贈呈した。澤さんは「大好きなサッカーを楽しむ気持ちを忘れずに行ってください」と激励。森保監督は「池田監督が選んだ最強・最高のメンバーを、サポーター、サッカーファミ



リ、日本全国で応援しましょう」とスタンドの観客に呼びかけた。熊谷選手は「サッカーをしている女の子たちの目指す場所に私たちがなれるよう、精いっぱい世界と戦ってきます」とあいさつ。池田監督は「チーム全員で一つ一つ大切に戦い、皆さんの心を動かすような気持ちのこもったプレーでひたむきに戦いたい。全身全霊で戦ってきます」と決意を表明した。

### 「なでしこジャパン壮行会—BE YOUR BEST SELF—」を開催

JFAは7月6日、東京都渋谷区のラフォーレ原宿で「なでしこジャパン壮行会—BE YOUR BEST SELF—」を開催した。

なでしこジャパンの選手と池田太監督は、サッカー日本女子代表アパレルプロバイダーのコナカによる新オフィシャルスーツを着用して登場。第一部では、元SAMURAI BLUE（日本代表）の内田篤人さんとフリーアナウンサーの野村明弘さんが進行役を務めてトークセッションが行われ、選手たちの素顔や関係性が分かるようなトークが繰り広げられた。そのほか、新しい学校のリーダーズによるパフォーマンス披露、イラストレーター・OKADAさんの応援アートビジュアル公開、堂安律選手や山下良美主審、手代木直美副審、坊菌真琴副審、元なでしこジャパンの澤穂希さんと宮間あやさんからの応援メッセージ公開、来場者によるサプライズ演出など、たくさん

のエネルギーでなでしこジャパンを送り出した。第二部では元なでしこジャパンの岩清水梓選手と阪口夢穂さん、内田さん、野村さんによるトークショー「なでしこジャパンがもっと好きになるファンゾーン」も。女子ワールドカップの見どころなどについて意見を交わした。



●壮行会の様子はこちら

<https://www.jfa.jp/nadeshikojapan/news/00032448/>



## FIFA女子ワールドカップオーストラリア&ニュージーランド2023 山下良美主審、坊菌真琴副審、手代木直美副審が開幕戦を担当

7月20日に行われたFIFA女子ワールドカップオーストラリア&ニュージーランド2023の開幕戦・ニュージーランド女子代表対ノルウェー女子代表を、日本の山下良美主審、坊菌真琴副審、手代

木直美副審が担当した(担当審判団は7月18日、FIFAより発表)。FIFA女子ワールドカップの開幕戦で日本人審判員が担当するのは史上初めてのこと。



## 9月23日の国際親善試合、 なでしこジャパンは福岡でアルゼンチン女子代表と対戦

9月23日(土祝)に福岡県の北九州スタジアムで開催する国際親善試合において、なでしこジャパン(日本女子代表)はアルゼンチン女子代表と対戦することが決定した。この試合をテレビ朝日系列にて全国生放送することも決まった。

### ●アルゼンチン女子代表

FIFA女子ランキング：28位(2023年6月9日更新)

過去の対戦成績：4勝1分け(12得点0失点)



## 女子サッカー／フットサルに関わる全ての人々のためのエンパワーメントムービー 「日本サッカーを愛する、すべての人と女子サッカー／フットサル編」を公開

JFAは7月19日、女子サッカー／フットサルに関わる全ての人々を対象にしたエンパワーメントムービー「日本サッカーを愛する、すべての人と女子サッカー／フットサル編」をJFA公式YouTubeチャンネル「JFA TV」に公開した。

同ムービーは、昨年11月に公開した「日本サッカーを愛する、すべての人と」に続くもので、FIFA女子ワールドカップオーストラリア&ニュージーランド2023に臨むなでしこジャパンをはじめ、各カテゴリーやキッズを含む幅広い層の選手、指導者、審判員、ファン・サポーター、ボランティアなど、サッカー／フットサルに関わる全ての女性、少女らを応援し、エンパワーする目的で制作したもの。

2011年のFIFA女子ワールドカップの歓喜の瞬間やサッ

カーに打ち込む選手らの日常風景、子どもたちの喜々とした表情、電動車椅子サッカーやブラインドサッカーのプレーシーン、ファン・サポーターらサッカーを支える人々の真摯な姿などが収められており、ウカスカジーの「勝利の笑みを君と～日本サッカーのために～」(2021年／JFA公認サッカー日本代表応援ソング)がそれぞれのシーンを引き立てている。

感動と興奮、共感、時に不安や落胆など、サッカーからもたらされるさまざまな感情を全ての人々と共有し、そして、それぞれがそれぞれの場所で、持てる力を存分に発揮できるよう後押しする“エンパワーメントムービー”は12月31日までの限定公開を予定している。

### 【エンパワーメントムービー概要】

タイトル：「日本サッカーを愛する、すべての人と女子サッカー／フットサル編」(映像時間5分51秒)

公開日：7月19日(水)

公開URL：JFATV(YouTube) <https://youtu.be/5koHYiyGER4> ※本映像は権利の関係上、2023年12月31日までの限定公開を予定





# サッカーファミリー広場



## One Shot

今月のワンショット

7月26日に行われたFIFA女子ワールドカップオーストラリア&ニュージーランド2023のグループステージ第2戦、コスタリカ女子代表と対戦したなでしこジャパン（日本女子代表）は25分に猶本光のゴールで先制、その2分後には藤野あおば（写真右）が追加点を挙げた。19歳180日で女子ワールドカップ初得点を決めた藤野。10代でのワールドカップ初得点は男女の日本代表通じて初めてであり、日本代表史上最年少ゴールとなった。

※FIFA女子ワールドカップオーストラリア&ニュージーランド2023の大会レポートは次号に掲載予定



## 「Be supporters!」敬老の日特別企画

### 高齢者の応援メッセージを横断幕で選手に届ける“人生の先輩からのエール”実施

日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）とサントリーウエルネス株式会社は、9月18日（月）の敬老の日に向けて、昨年に引き続き今年も「Be supporters!（ビーサポーターズ）」“人生の先輩からのエール”企画を実施する。

昨年は10クラブが参加し、全国74の高齢者施設から1,434人分のエールが集まった。今年は20クラブが参加し、全国100の高齢者施設から約3,000人分のエールが集まる見込みだ。

各クラブによる本活動の様子や9月のスタジアムでの横断幕の掲出、エールの数々を通して、人生100年時代、いくつになってもワクワクと自分らしく輝いている人々に出会える企画となっている。

#### ●Be supporters!（Beサポ!）とは

Beサポ!は、高齢者や認知症の方など、普段は周囲に「支えられる」場面の多い人々が、地元サッカークラブのサポーターとなることで「支える」存在になるプロジェクト。サントリーウエルネスが2020年12月より推進している。コンセプトは「いくつになってもワクワクしたい、すべての人へ」。2021年に富山県で延べ1,000人、2022年は全国100施設・延べ2,500人のサポーターが誕生し、活動が広がっている。

#### ●敬老の日特別企画“人生の先輩からのエール”とは

各クラブが地域の高齢者の方々から選手へのエール（応援メッ

セージ）を集めて横断幕を制作し、9月の敬老の日に近いホームゲームで、フィールドやスタジアム内スペースなどで掲出。その他、クラブによるオリジナル企画も実施予定。

#### 【Jリーグ × サントリーウエルネスが Be サポ! に取り組む理由】

Jリーグは「いくつになってもワクワクしたいすべての人へ」をコンセプトとした「Be supporters!」を通して、サントリーウエルネスと共に、サッカーの応援を通じて、高齢者の方々との世代を超えたコミュニケーションの輪を広げていく。

健康関連事業を展開するサントリーウエルネスは、病気の「予防」だけでなく「共生」社会の実現にも貢献したいと考え、Beサポ!を推進している。「健康寿命」から「幸福寿命」に考えを広げ、Beサポ!を通して、いくつになっても自分らしく輝いて生きる姿を発信していく。

#### ●Be Supporters! 公式サイト

<https://www.suntory-kenko.com/contents/enjoy/besupporters/>



## サッカーファミリー復興支援金

日本サッカー協会（JFA）は、東日本大震災などで被災した地域のサッカーファミリーが、これまで通り、サッカーを楽しむことができるよう、サッカー環境の復興を目的に「サッカーファミリー復興支援金」口座を開設しています。集まった復興支援金は、運用細則に基づいて運用されます。

銀行口座 三菱UFJ銀行（0005） 渋谷支店（135）  
普通預金 口座番号0290451 公益財団法人日本サッカー協会  
サッカーファミリー復興支援金  
※ご利用金融機関が設定する振込手数料はご負担願います。

## 「暴力等根絶相談窓口」を設置しています

日本サッカー協会（JFA）は、サッカーの活動現場で生じた暴力行為に関する通報を受け付ける窓口として「暴力等根絶相談窓口」を設置しています。

利用方法：  
【電話】03-5276-8838  
【フォーム】[https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSd0Trv0-Leh64Nomkz4YOCQAYouVhhmWtVs3EGjIW\\_ZdkU5w/viewform?usp=sf\\_link](https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSd0Trv0-Leh64Nomkz4YOCQAYouVhhmWtVs3EGjIW_ZdkU5w/viewform?usp=sf_link)  
利用時間：平日12:00～18:00（土日祝、年末年始等除く）



# 読者プレゼント

応募締切：2023年9月19日(火)当日消印有効

## アディダス ジャパン(株)提供

日本代表のオフィシャルサプライヤーであるアディダス ジャパン(株)より、「ADI 23 ソックス(22-24センチ)」を1名様にプレゼント。



## JFA STORE 提供

「JFA STORE」は日本代表のグッズなどがそろったJFAのオフィシャルeコマースサイトです。さまざまなシーン、目的に合わせてグッズを確認できるページに加え、特集ページも用意しています。今号では「アウトドアローブストラップ」を1名様にプレゼント。



ローブ長さ約1,620×7mm(長さ調整機能付き)、エンブレム部分約40×62mm

JFA STORE



<https://official-store.jfa.jp/>

## グリーンカードを3枚セットで8名様にプレゼント

JFAがフェアプレーを推進するため、U-12年代の試合で導入しているグリーンカードを3枚セットで8名様にプレゼント。オン・ザ・ピッチでも、オフ・ザ・ピッチでも、リスペクトあるプレーや行動には、称賛や感謝の気持ちを持ってグリーンカードを示しましょう!



## プレゼント応募方法

### ■Web

プレゼント応募URL

<https://forms.gle/DVr6Nv5ZRFVHPBkV6>

上記URLもしくはQRコードよりアクセスしてご応募ください。



### ■はがき

〒112-0004

東京都文京区後楽1丁目4-18 トヨタ東京ビル  
公益財団法人日本サッカー協会 コミュニケーション本部 広報部  
「JFAnews プレゼント応募」係

①名前、②郵便番号・住所、③電話番号、④希望プレゼント名、⑤JFAnewsのご感想・ご意見を明記の上、郵送でお送りください。

当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。発送は2023年10月上旬から中旬の予定です。

※収集した個人情報は厳重に管理し、他の目的には使用しません。また、お送りいただいた葉書は返却しません。

## JFA公式アプリ JFA Passport いつでも、どこでもあなたの楽しみかたでサッカーとつながろう!

「JFA Passport」は、ご自身のサッカーへの関わり方に合わせて、あなたに合ったニュースや動画、お知らせなどを閲覧できる、日本サッカー協会(JFA)のサービスを総合的に利用できるアプリです。

JFA Passport限定のサッカー日本代表の動画のほか、保護者向け、指導者向けといったオリジナルの動画を配信。全国各地で開催されるさまざまなイベントやフェスティバルにもアプリ内のフォームや会員証を使って参加が可能となります。ぜひ活用ください。



- アプリでしか見られない動画やニュースが満載!
- あなたに合ったイベントやプログラムに参加!
- お得なクーポンやプレゼントをゲット!

### ●JFA Passportの

詳細・ダウンロードはこちら▶▶▶  
<https://www.jfa.jp/jfapassport>



## 公益財団法人日本サッカー協会 機関誌

# JFA news

発行人：宮本恒靖

発行所：公益財団法人日本サッカー協会

〒112-0004

東京都文京区後楽1丁目4-18 トヨタ東京ビル

TEL.050-2018-1990(代) / FAX.03-3830-2005

URL <https://www.jfa.jp>

監修：公益財団法人日本サッカー協会 コミュニケーション本部

編集：編集長 加藤秀樹

JFAnews編集部 / (株)ウォールニクス

印刷：サンメッセ(株)

定価：600円/本体545円

次号2023年9月情報号は、2023年9月15日発売予定

## [特集] 指導者として学ぶ(仮題)

※特集テーマ・内容は変更となる場合があります

### ご購入のお知らせ

#### ・インターネットからのご購入

日本サッカー協会 Official Online Shop

<https://webshop.jfa.jp/fs/jfagoods/c/top>

※クレジットカード決済のみ。

上記サイトでは本誌のほかJFA関連発行物の購入が可能です。

#### ・年間購読

JFAnewsの年間購読料は、送料・税込みで1年間(12冊)5,000円で、年間2,200円お得です。

ご希望の方は上記URLよりお申し込みください。

#### ・チーム登録をされているご購入者さまへ

JFAnews発送における住所変更、名義変更を希望される場合は、JFA公式ウェブサイトの「JFAへの登録」よりJFA IDシステムにログインしていただき、変更をお願いします。

※<https://www.jfa.jp/registration/>



# 体を内側から 守ろう。

よろこびがつなぐ世界へ

## KIRIN

◆  
プラズマ  
乳酸菌

新発売



※免疫の機能性表示食品として届出された日本初の機能性関与成分

### 機能性表示食品

**届出表示** 本品には、プラズマ乳酸菌 (*L. lactis* strain Plasma)が含まれます。プラズマ乳酸菌はpDC(プラズマサイトイド樹状細胞)に働きかけ、健康な人の免疫機能の維持に役立つことが報告されています。●食生活は、主食、主菜、副菜を基本に、食事のバランスを。●本品は、国の許可を受けたものではありません。●本品は、疾病の診断、治療、予防を目的としたものではありません。

のんだあとはリサイクル。



[oishii-meneki.kirin.co.jp](http://oishii-meneki.kirin.co.jp)

キリンビバレッジ株式会社

げんきな免疫  
プロジェクト

JFA news

2023.8 NO.472

特集

スポーツの楽しさを守る



発行人 宮本恒靖  
発行所 公益財団法人日本サッカー協会

〒112-0004  
東京都文京区後楽1丁目4-18 トヨタ東京ビル  
電話050(2018)1990(代)



定価600円(本体545円)